ACTION COMICS
ひるがお

艶々
Presented by

ACTION COMICS

ひるがお 一

Presented by
TSUYATSUYA

艶々

目次 CONTENTS

第1話 疵 きず 5
第2話 貌 かお 29
第3話 闇 ねや 49
第4話 性 さが 71
第5話 曲 くせ 91
第6話 映 うつし 113
第7話 虚 うつろ 135
第8話 分 わかち 155

その頃の
僕はもう
知っていた
あっ
ああっ
あんっ
すぐ
むこうにある
女の身体(からだ)
あっ

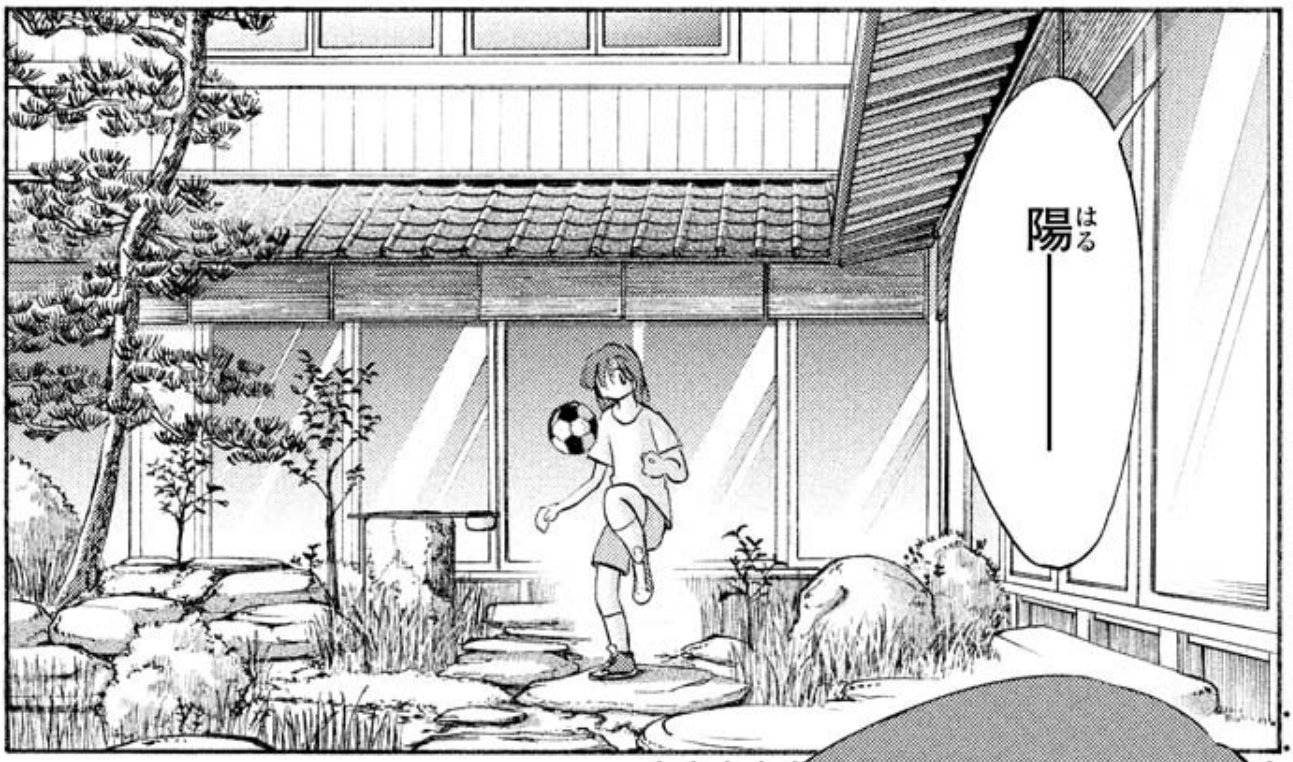
母の姿――
おっ
第1話 疵(きず)

淫靡(いんび)という
言葉は
知らなくても
んっ
んんっ
身体が
感じていた
隙間(すきま)の
むこうの
あうっ
あっ
――秘密

ひろがお

Presented by
TSUYATSUYA

桜の間の布団入れておいてね——
はーい
高田様のご到着がもうすぐだから気にしててね
ちわ——
はいはい——

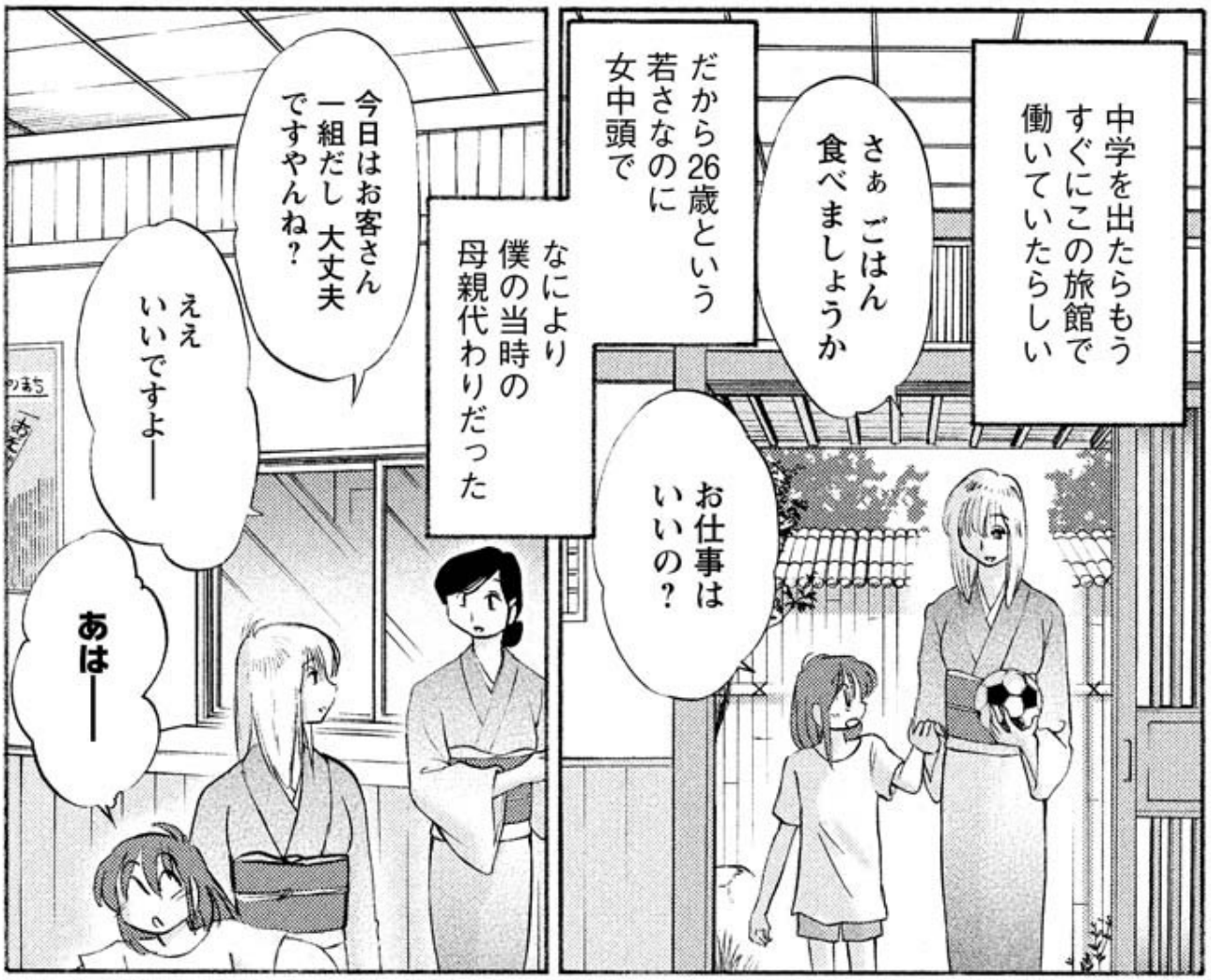

陽(はる)――

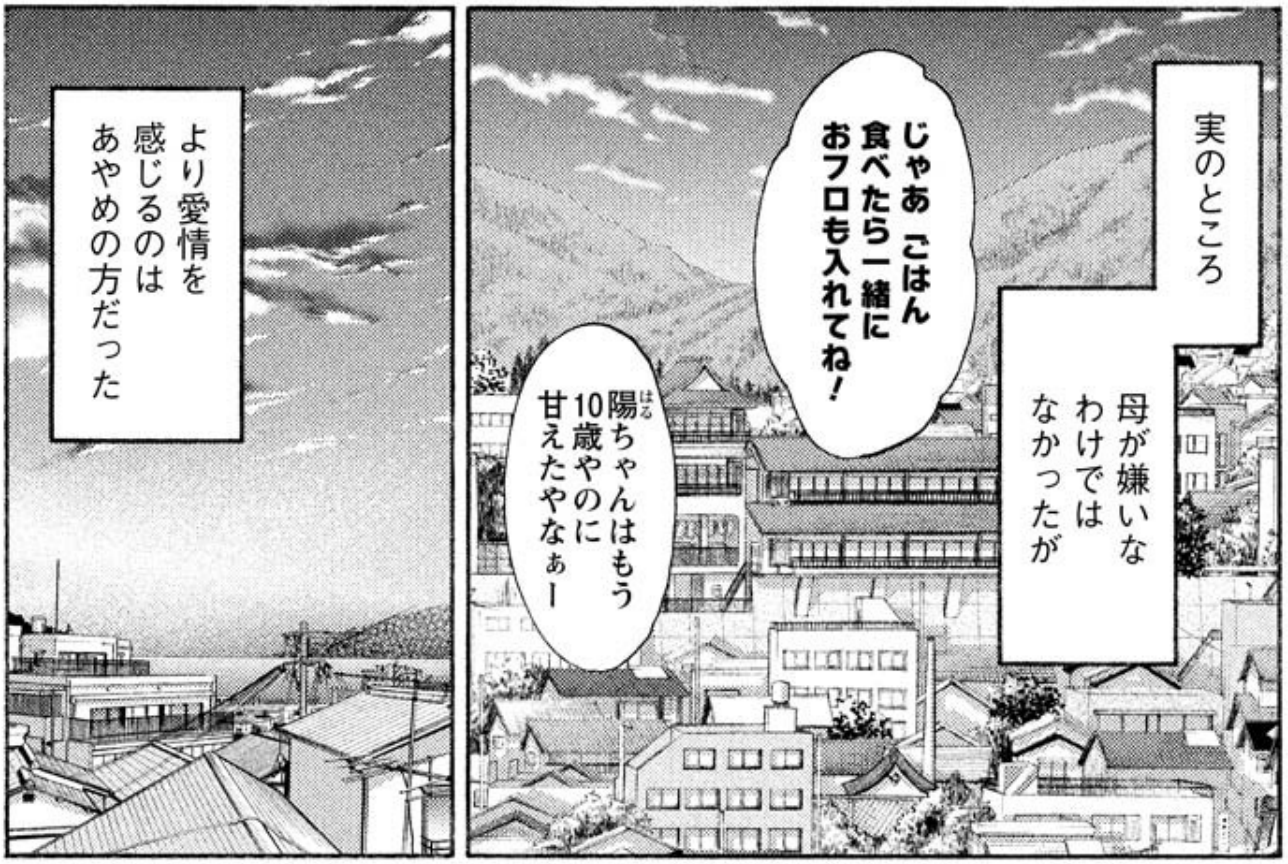
なぁに
またこんな所で
遊んで
ここは
お客様から
見える所だから
ダメでしょ
へへ
ごめんなさい

は――い

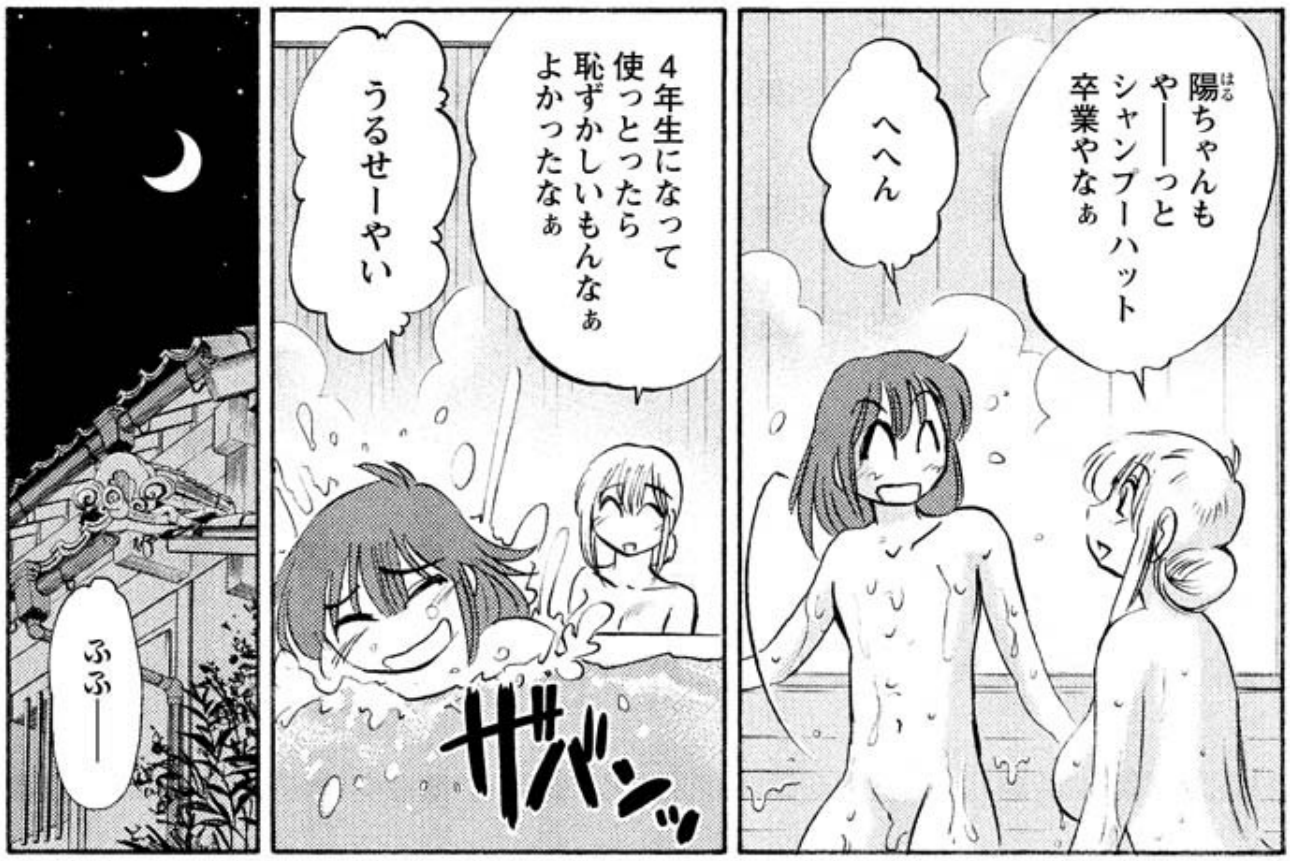
母さんね
また出かけないと
いけないから
今日も陽(はる)は
あやめとごはん
してね
うん
わかったよ
ウチは三代続く
古くからの
旅館で——
じゃ
行きましょうか
はい
奥さん
車
まわしてきます

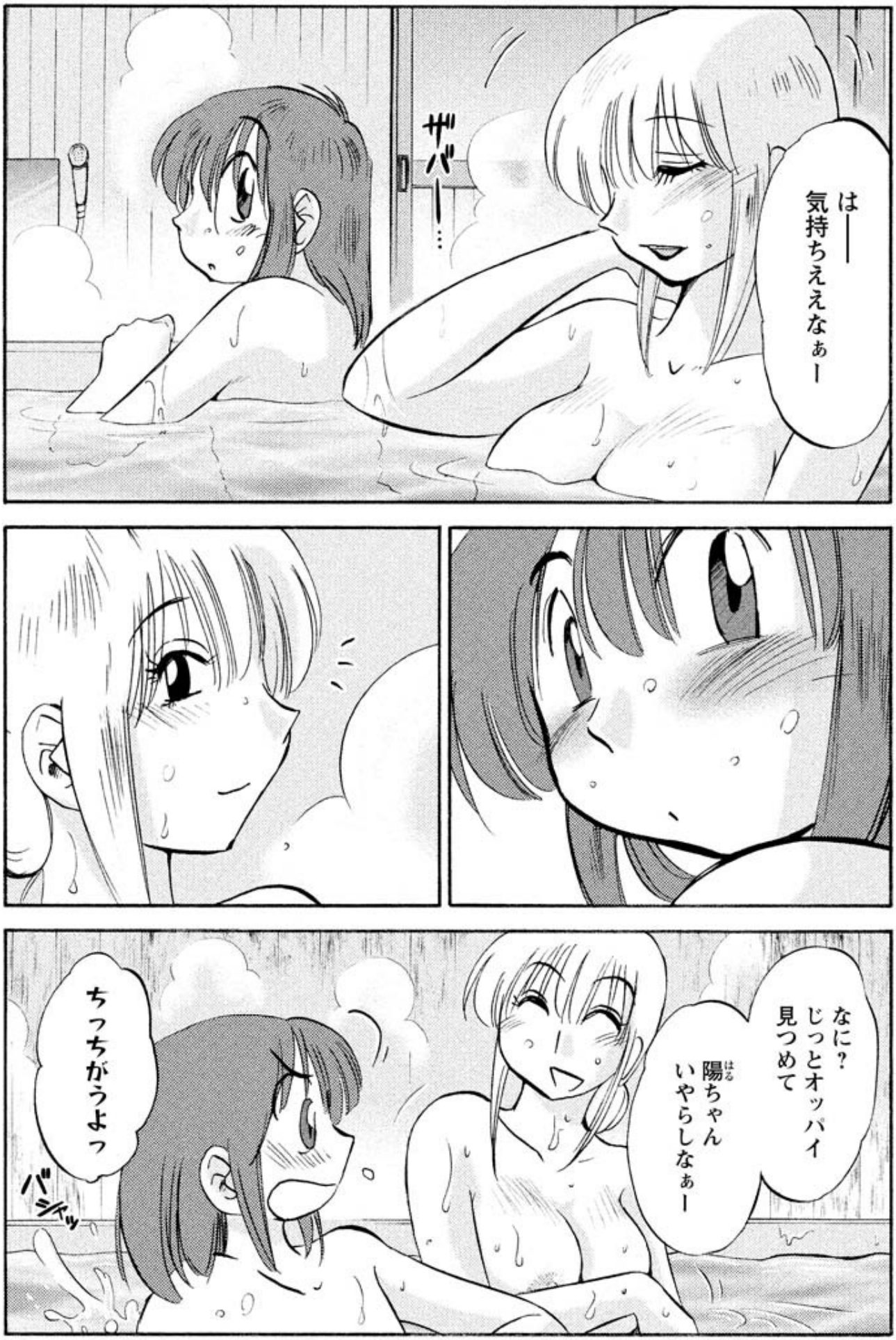
従業員も
十数名雇っていて
観光地でもない
この田舎にしては
まぁ大きな方の
旅館だと思う
陽ちゃん
また
一人でサッカー
してはったん
ですか？
あ！
あやめ――
サッカー
じゃないよ
リフティング！
同じや
ないですかぁ
ちがうよ――!!
あやめは


中学を出たらもう
すぐにこの旅館で
働いていたらしい
さぁ ごはん
食べましょうか
だから26歳という
若さなのに
女中頭で
なにより
僕の当時の
母親代わりだった
お仕事は
いいの？
今日はお客さん
一組だし 大丈夫
ですやんね？
ええ
いいですよ——
あは——


実のところ
母が嫌いな
わけでは
なかったが
じゃあ ごはん
食べたら一緒に
おフロも入れてね！
陽ちゃんはもう
10歳やのに
甘えたやなぁー
より愛情を
感じるのは
あやめの方だった

ザバー
ぷるんっ
ぷるんっ
ぷわ――っ


陽ちゃんも
や――っと
シャンプーハット
卒業やなぁ
へへん
4年生になって
使っとったら
恥ずかしいもんなぁ
よかったなぁ
うるせーやい
ザバンッ
ふふ――

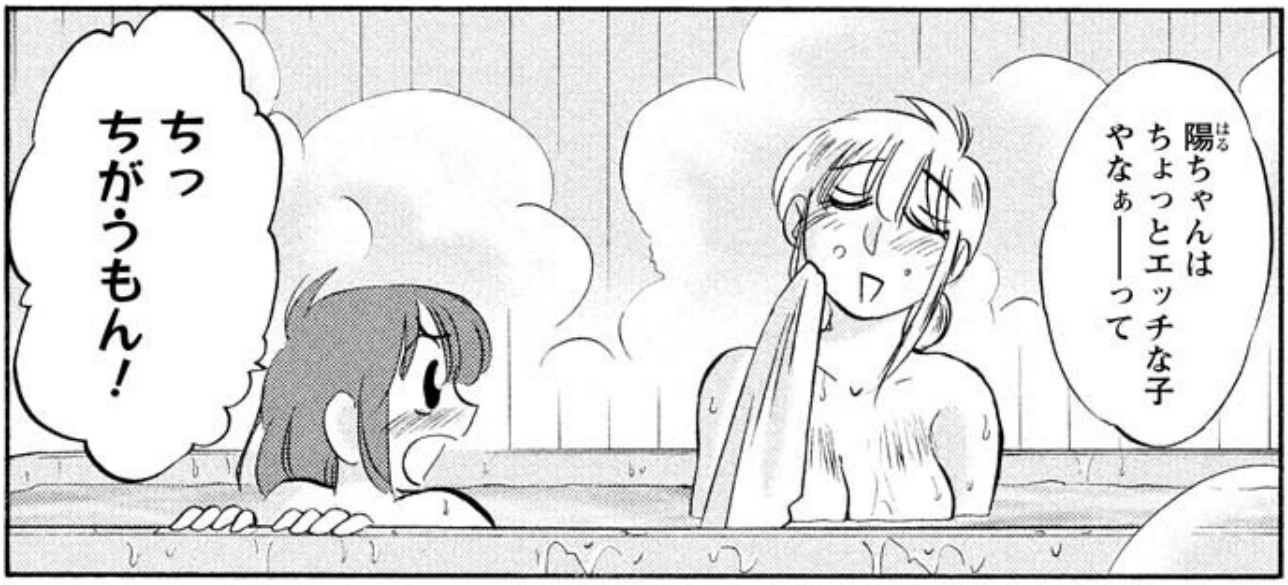

は――
気持ちええなぁー
ザバー…
なに？
じっとオッパイ
見つめて
陽(はる)ちゃん
いやらしなぁー
ちっちがうよっ
バシィッ

ただ…
あやめって
オッパイ
大きいなーと
思って――

ふうん

そうやなぁ
たしかに
ウチの少々
大きいけど
誰と
比べてるん
かな――？

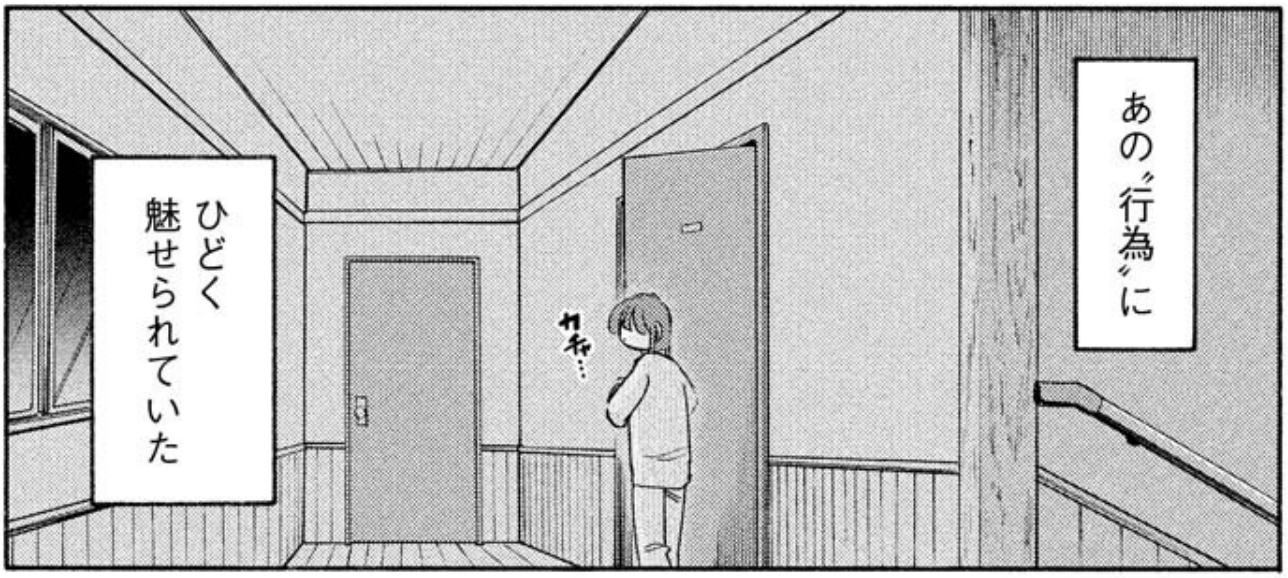
……
べつ…別に
誰も……
ゴボッ
ゴボッ
まあ
よろしけどー
ふふ
なにが
おかしいんだよ
〜〜〜〜〜


陽(はる)ちゃんは
ちょっとエッチな子
やなぁ——って
ちっ
ちがうもん！

も——
あやめ
はらたつー！
ほほほほ

コチ
コチ
パチ
あやめの
言うことが
正しかった

すでに
この頃の僕は


あの〝行為〟に
ひどく
魅せられていた
カチャ…

何度見ても
不思議で
ならなかったのだ
パタン

は
は
ピチャッ
クチュッ
んッ

んんっ
ピチャッ
ヂュッ
ヂュルッ
ヂュルッ
んッ
クチュッ

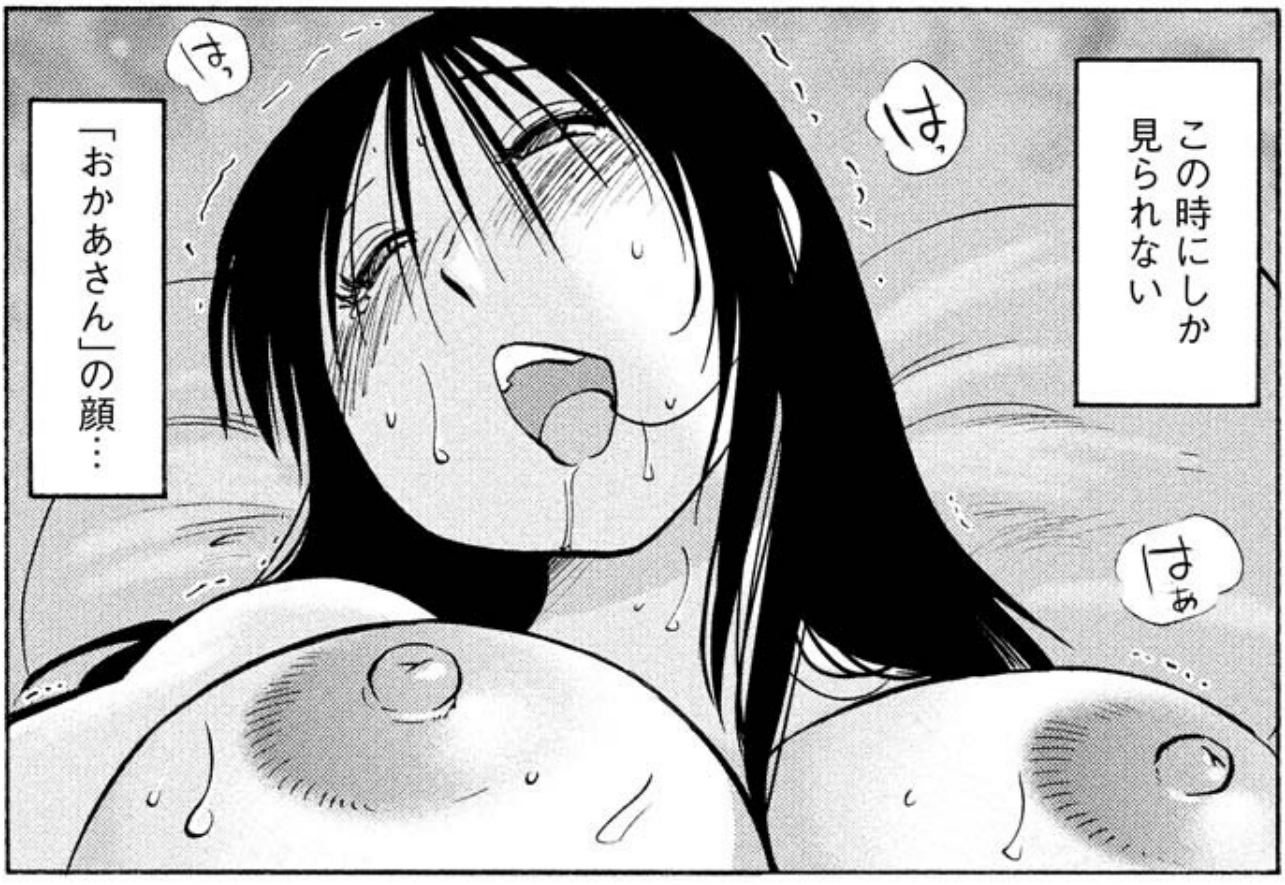
奥さんっ…
すごすぎっス…
まるで
それじゃ…
ヂュプ
ふっ
はっ
クチュッ

まるで…なぁに？
トロ…
泡姫のねーちゃんみたいっすよ
ピチャ…
あらやだわ
んっ
ツチュッ
ギュルッ
ギュッ
ツチュッ
ほめことば……？
それともあきれてるの？
それは……
あふ
チュプ
クチュルッ
チュクッ
んっ
クプ
へへ…
両方ですかね
ツチュッ
あん
チュッ

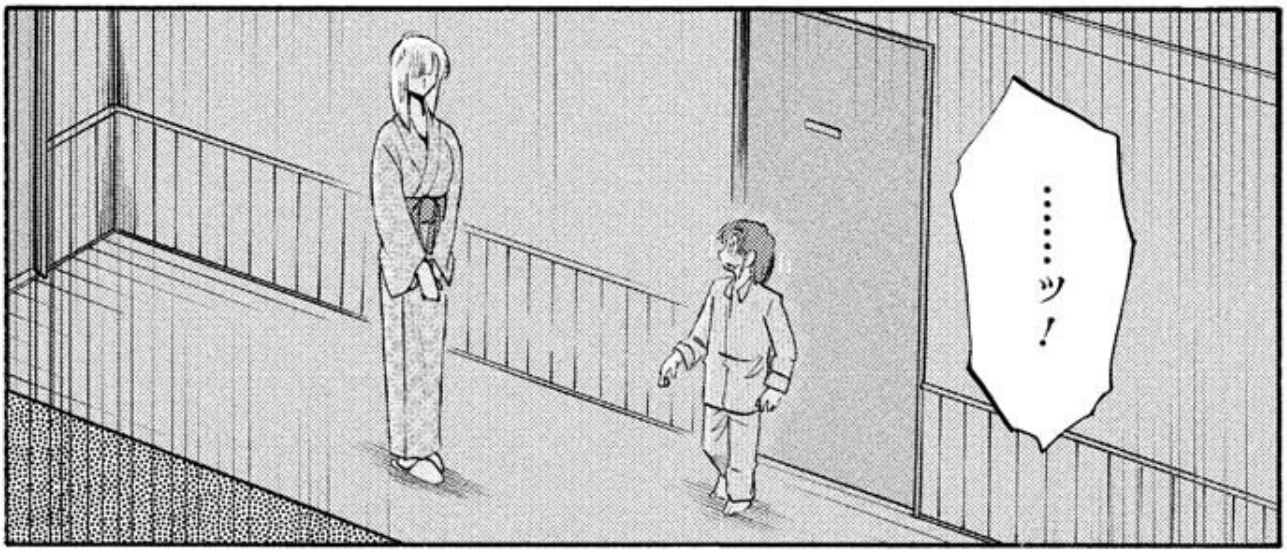
あんっ
ズッ
あ…あっ
ズチュッ
ああ
クチュッ
ヌヂュッ
跳ねるような
水音――
あん
すごいッ
ピチャッ
ダンナ
ほっといて…
こんなコト
しかも
昼間だけじゃ
飽き足らずにっ
ズッ
あッ
チュッ
ズヂュッ
はっ
擦(こす)れ合う
肉の音
いいのようッ
へへ
悪い女将(おかみ)
さんだなっ
ズブッ
ん

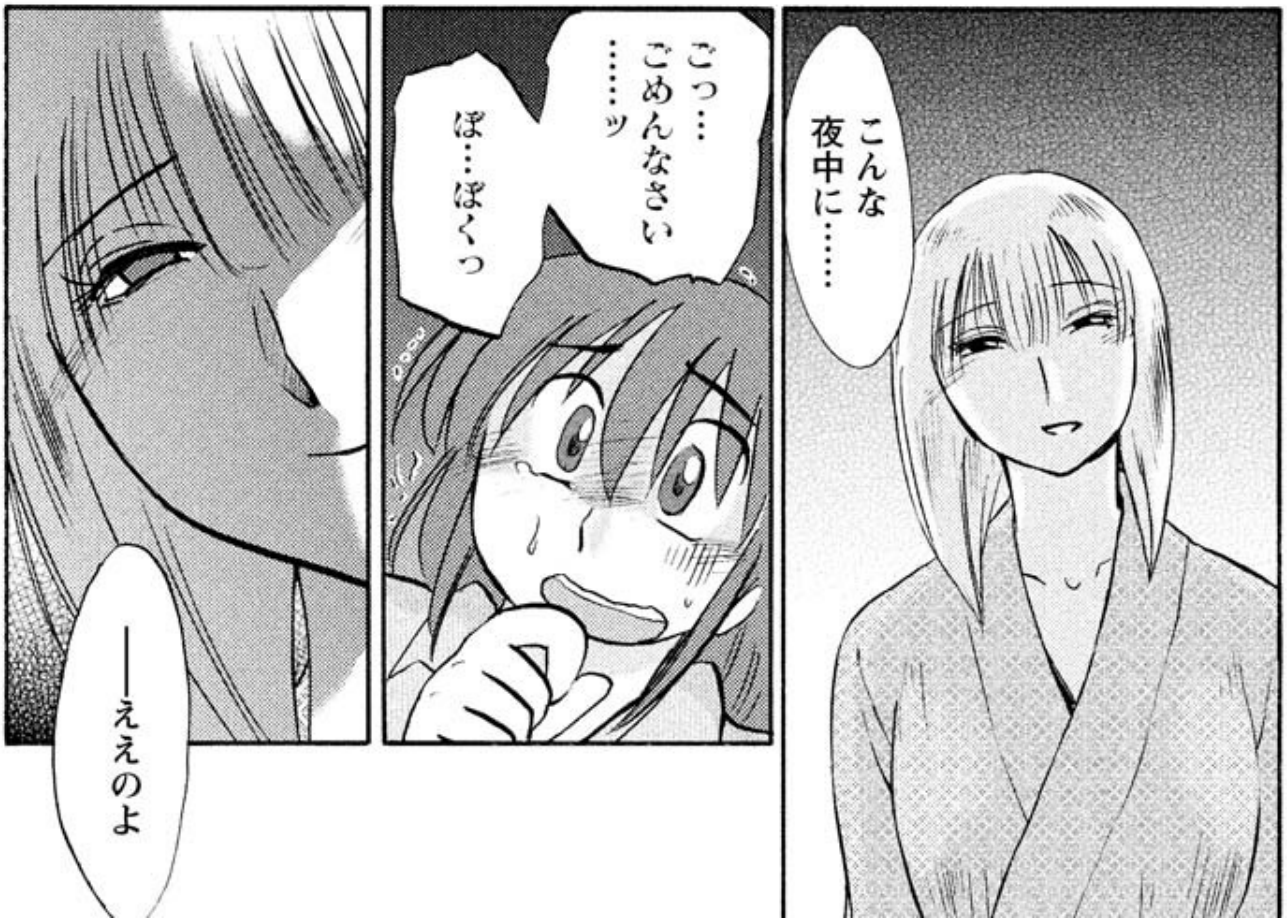
どうせんっ…
あの人だって…
ズッ
ズブッ
はあ
ヌチュッ
ズブッ
ズチュッ
ズチュッ
饐えたような匂い
あ
クチュッ
ヌチュッ
は
ルチュッ
あ イキそう
ズッ
いいわよ…ッ 中でッ
ズブッ
ズチュッ
んッ
ズッ
説明できない感情が支配する
ズチュッ
ズブッ

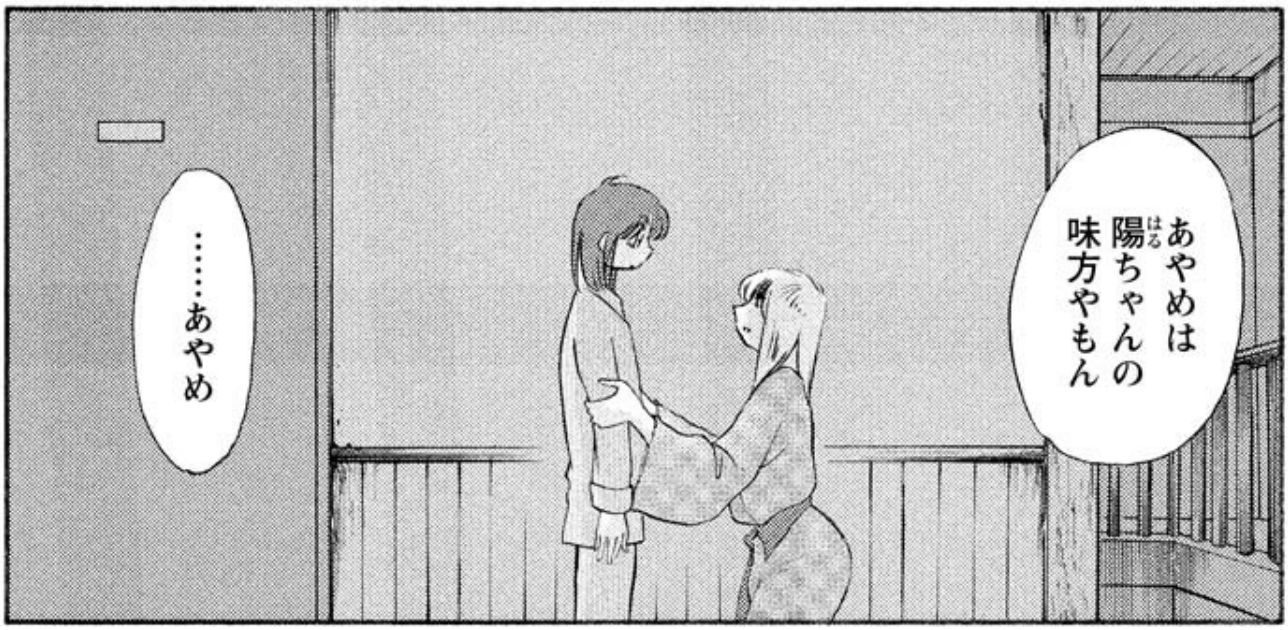
いくっ
あ
あぁ…
見たあとは
いつもおしっこが
したくなった
そして
いつも最後は
母の顔を見る

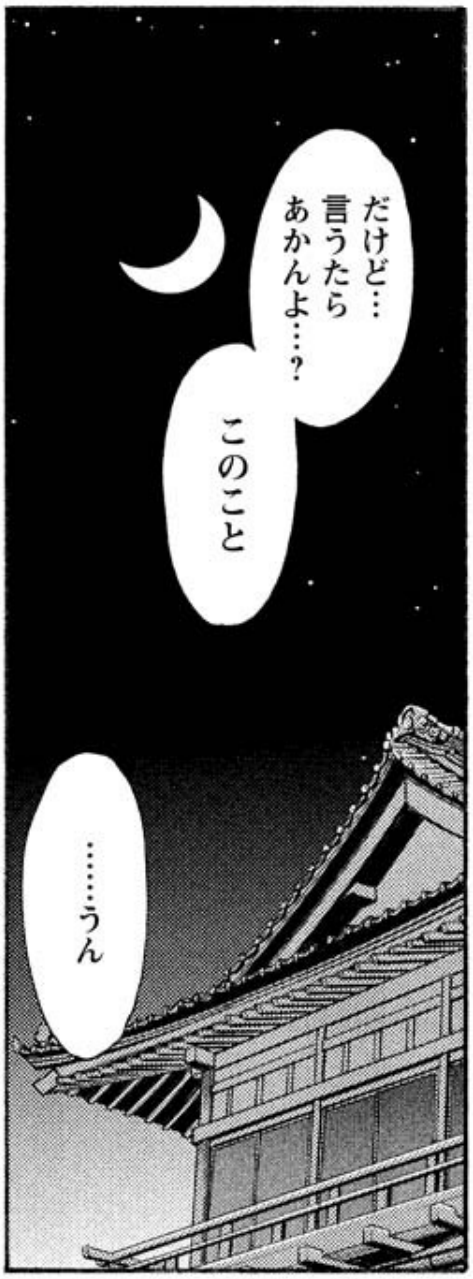

はっ
はっ
はぁ
この時にしか
見られない
「おかあさん」の顔…

ビクッ
――陽(はる)ちゃん


……ッ！


こんな夜中に……
ごっ…ごめんなさい……ッ
ぼ…ぼくっ
――ええのよ


あやめは
陽(はる)ちゃんの
味方やもん
……あやめ


だけど…
言うたら
あかんよ…？
このこと
……うん

あやめと
陽ちゃんだけよ？
ええね？
――うん

第1話◎END

◆連載開始前のラフ案等。

陽とあやめのこういうシーンは入れたいな、とか思って描いてあった。

お母さんのムッチリ感
どれくらいかとか。

陽くんは最初これくらいの
長さの髪のつもりでした。

従業員設定も
簡単にだけど一応。
結局ほとんど出て
こなかったという…

ひろがお

Presented by
TSUYATSUYA

第2話 貌（かお）

ほら陽ちゃん
顔洗ってー！
はよご飯食べな
遅刻するよ

は――い
ご飯
用意しとく
からねー

シャコ
シャコ

ふぅ――
ペタ
ペタ

それじゃー
そろそろ
行きますね
それにしても
こんな早くに
出るなんて…

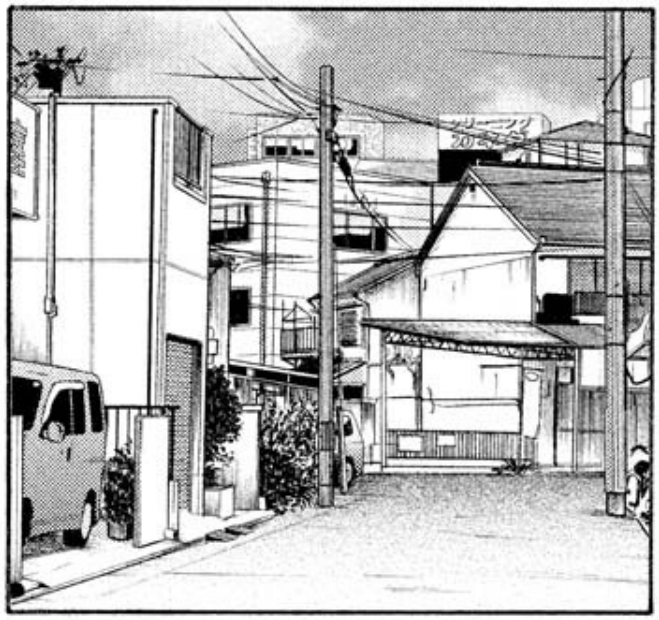
次の旅館も回んなきゃですしねー
ええ
くれぐれも気をつけていらして下さいな
もちろんまた来月には来ますからー
あ！
坊っちゃん！おはようー
陽（はる）！
ビクッ

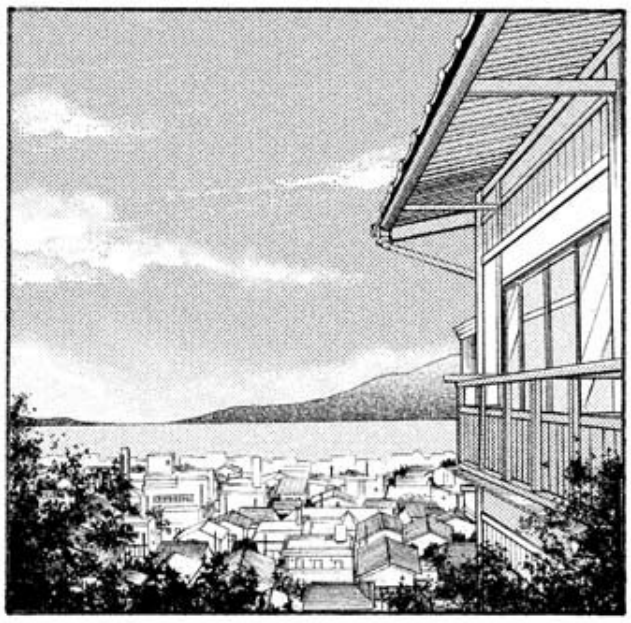
それじゃー
ホント
お気をつけて
ははは
はーい
坊っちゃん
またねー
母の相手は
旅行代理店の
人だった
陽(はる)
――手を
振りなさい
え……
早く
〝営業〟という
職業のせいも
あるのだろうが
正直当時のボクには
あまり好きでない
タイプの大人で

陽はあの人嫌いなの？
え……別に…そんな…
母はまるでそんなボクを見透かした様に

――そう
でもいいのよ
好きとか嫌いじゃなくてね
手を振る事に意味があるのよ

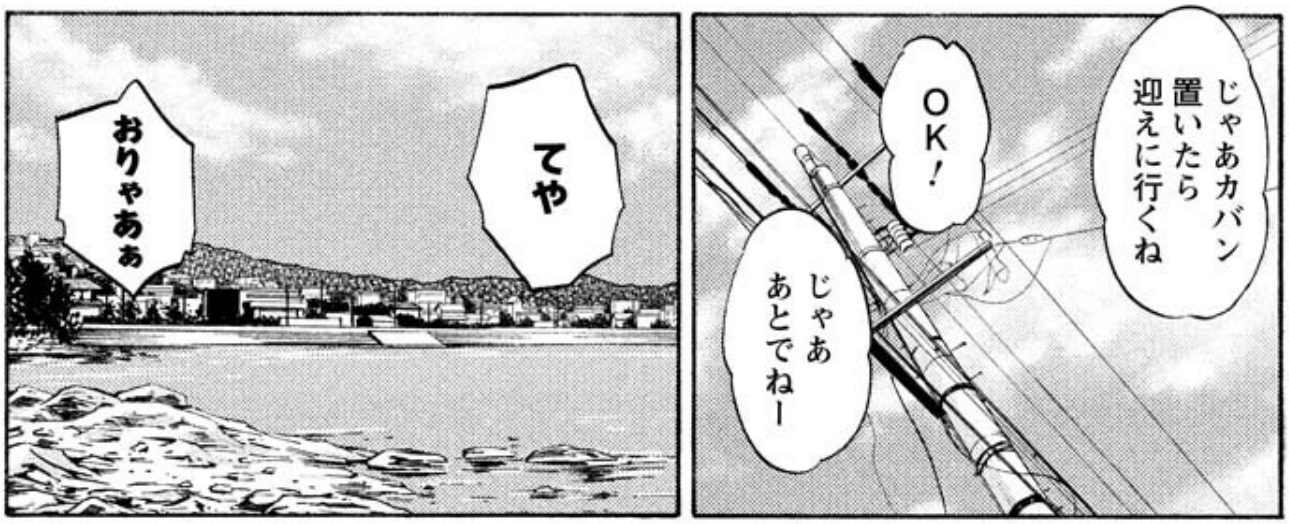
子供のボクに謎かけの様な事を言う
ふ――ん…
陽ちゃーんご飯――！
遅刻するよー
あ！は――い
でもそんな母は嫌いじゃなかった



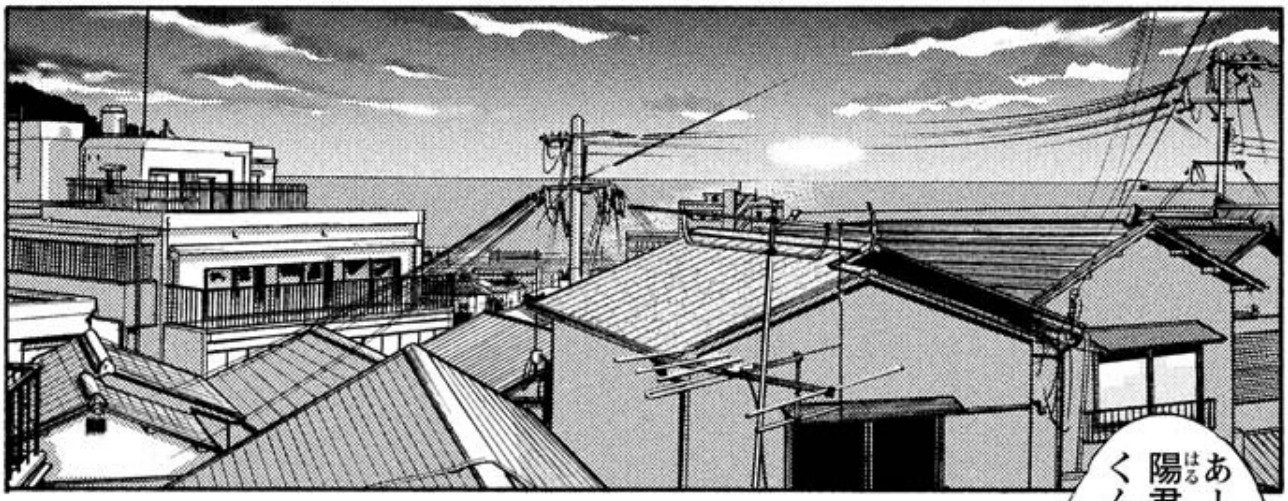


キーン
コーン
カーン
コーン
陽(はる)くーーん
一緒に帰ろー
うん！
ねーねー
今日浜で
三角ベースしよーよ

1年からずっと
同じクラスの
真知子ちゃん
えー
サッカーがいいなー
ボクー
やー！
あたしね
バットで
かっとばし
たいの！
マサオ君も
そうでしょ？
家が近所の
マサオ君
うーん
どっちでも
いいよー
たいてい
遊んでいたのは
この3人で


じゃあカバン
置いたら
迎えに行くね
OK！
じゃあ
あとでねー
てや
おりゃあぁ

カケフ
打法!!
スパーン!
わっ
あーッ
既にTVゲームも
発売されてたけど
ボクらは結構
外で遊んだ気がする
飛びすぎー！
海行っちゃったよー



あーあ！
陽君がボール取ってくんないからー
海に消えちゃった——
取れないって——！

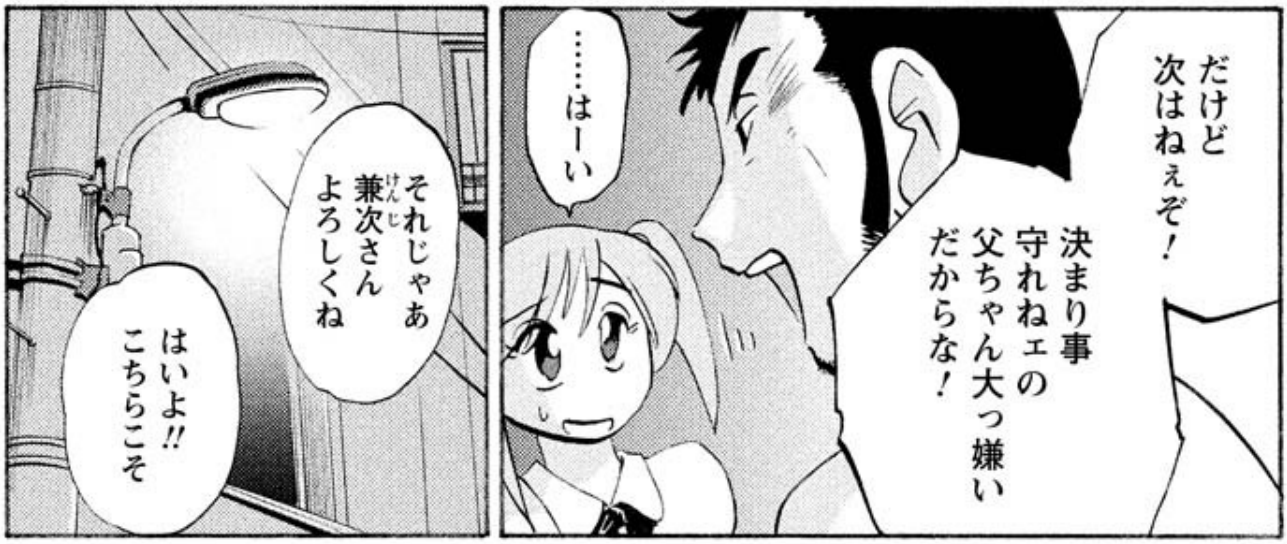
キーンコーンカーンコーン
チャラララ～ラ
チャラララ～ラ～♪
チャラララ～
キンコンキンコン
あ！やばい！6時の歌だ!!
ほんとだ——

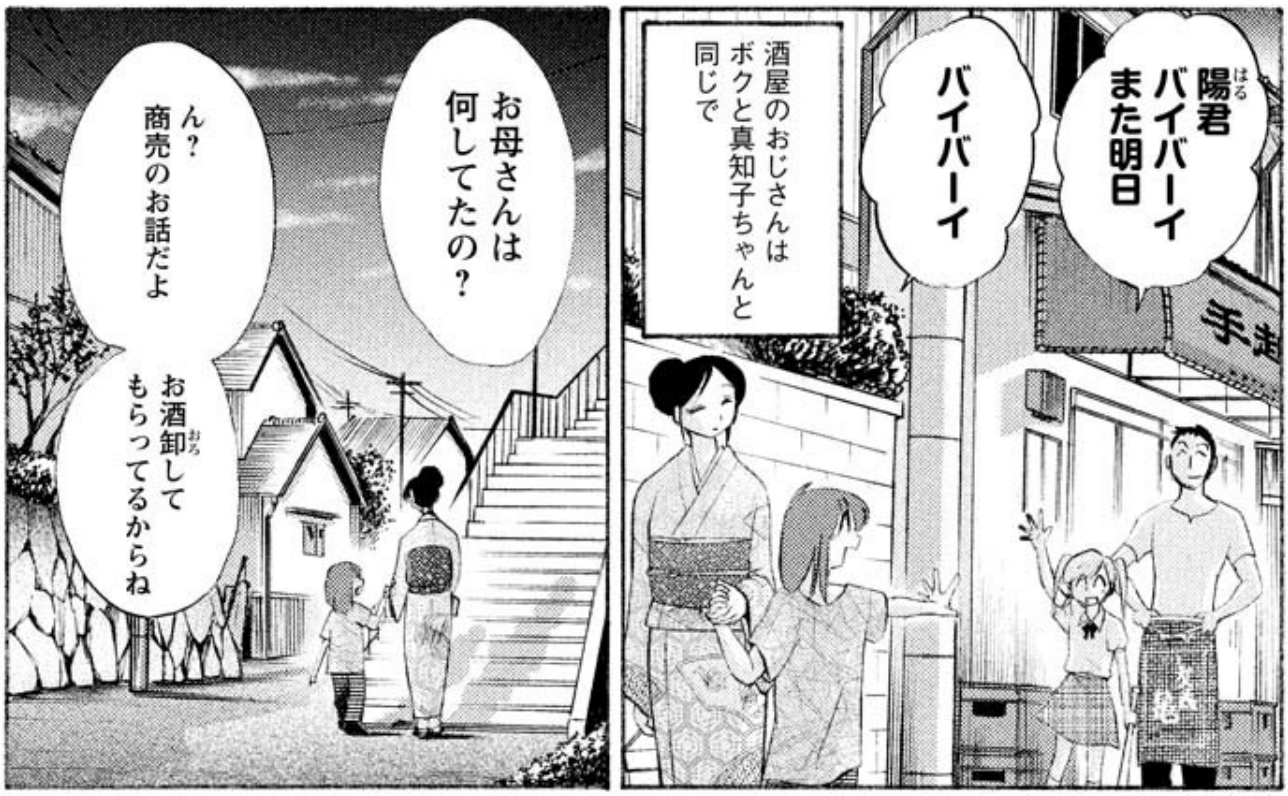
わ——6時に帰んないとお父さんに怒られるのに——！
ラ～ラ～♪
チャラララ～ラ～
キンコンキンコン
あーそういやそうだったねー
いそご！

手越酒店

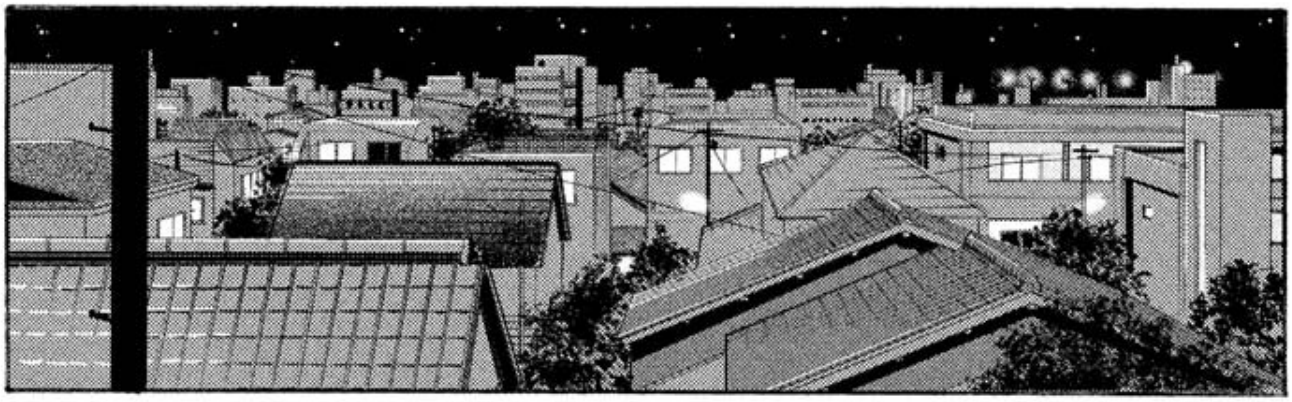
あ――
お父さん
表にいる～～～
！
お母さん…！
真知子！
あの…お父さん
ごめん…なさい
ん――？
その……
6時までに…
間に合わ
なくって…
うん
そうだな！
んーまあ
本当なら
怒るトコだが!!

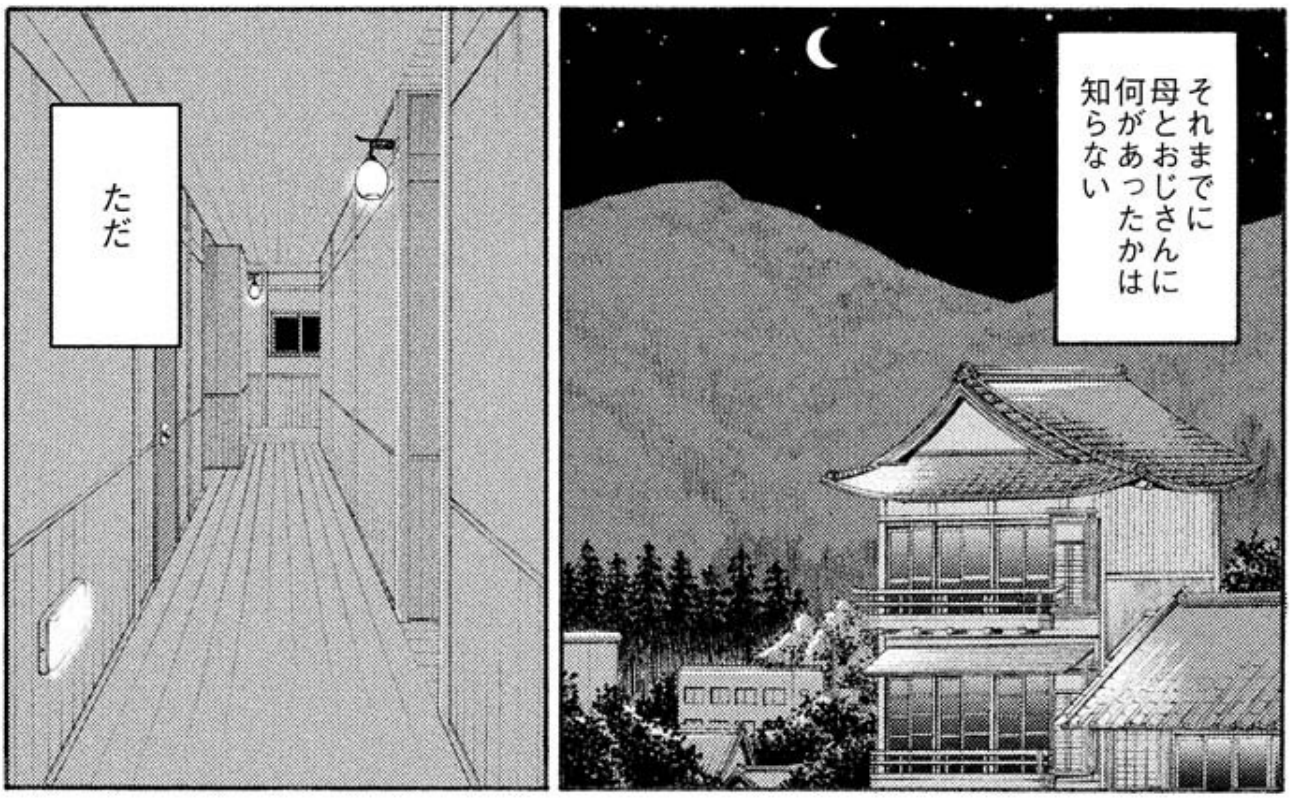
でもまあ
今日は
陽君の
お母さんも
いるし！
ちょっと大目に
みてやるよ！
ほんと!?


だけど
次はねぇぞ！
決まり事
守れねェの
父ちゃん大っ嫌い
だからな！
……はーい
それじゃあ
兼次さん
よろしくね
はいよ!!
こちらこそ


陽君
バイバーイ
また明日
バイバーイ
酒屋のおじさんは
ボクと真知子ちゃんと
同じで
お母さんは
何してたの？
ん？
商売のお話だよ
お酒卸してもらってるからね

あとはまあ…
世間話を…ね
子供の頃からの
幼なじみらしい
ふーん…




それまでに
母とおじさんに
何があったかは
知らない
ただ

ボクにはもう
分かっていた
あ
ピチャッ
クチュッ
ピチャッ
ヂュプッ
クチュッ
あぁ
ルチュッ
は
ヂュルッ
クチュッ

あッ
クチュッ
ギュルルッ
は
はぅ…
クチュッ
グブッ
あッ
は…ッ
ギュブッ
チュブッ
あ
ルチュッ
ピチャッ
ケンちゃん♥
立派なお父さん
ぶりだったねェ…
ルチュッ
あッ…そこッ
そんなに
されたら…ッ
チュブッ
クチュッ
あうッ
ハッ

フフ……
さっきはあーんなにエラそうだったのに……
はっ
あ…あッ
だめだよまさみちゃん……ッ
ギュプッ
ギュルルッ
グプッ
ギュルッ
クチュッ
は
ッチュッ
子供の話なんかしたら……興が削がれちまうよ
あっ
なーに言ってんのよ
そんな話しながら
サオの根元まで舐められて…こんなにしちゃって
ギュルッ
はっ…なあまた……
あの代理店のヤツと…寝たのか？
しゅるるっ
ピチャッ
はッ…
……
んっ
……
どして？
ピチャ…ッ

あんなっ…
若い男と…
グプッ
クチュッ
あッ
クチュッ
ギュルッ
んッ
…あんたにゃ関係ない話よ

なんだったらやめちゃおうか？
あ…いやっそんなまさみちゃん…
フフ…
あ
ケンちゃんは小さい時から特別でしょ…？
ググ…ッ

私らがあの子たちくらいの時から…ずっと…私が面倒みてきたんだから…
んっ…!!
ズッ…
あ
お
ズチュウッ
ああッ

あはッ…
いいわっ…
ケン坊の…
カチカチ…ッ
あ…ああ
久しぶりだっ…
まさみちゃんの…ッ
は…ッ
ぶるんっ
たぷんっ
ズンッ
ズッ
ズギュッ
ヌチュッ
ヌギュッ
ん
おッ
うんッ
うんッ
あん
すごいよッ
奥に当たるッ
もっと……
突き上げてッ
ヌチャッ
ズポッ
チュクッ
ズチュッ
ギュッ

は
あはっ
ツギュッ
嬉しい!? あたしのオマ○コッ
ズブッ
ケン坊 ほら…いい!?
ズギュッ
ヌギュッ
は
ズギュッ
うん
嬉しいよ…オレ……まさみちゃんが1番いいんだっ…
あたしもよ…ッ
あ
太くて ゴリゴリするうッ
ケン坊のおち○ちん大好き
ズッ
ヌギュッ
ギュプッ
ツチュッ
んッ

あはあ
ん
オレ…もういくッイクよッ
んっいいよっ
ぢゅうううっ
中で思いっきりッ
あッ
あッ
ズギュッ
ズブッ
ヌギュッ
ん
う……むッ
ルギュッ
は
ドクンッ
ビクッ
あ…
ドクンッ
ビクッ
は…ッ
は…
は
は

全てが終わった後の母さんは
またこの前と違うカオだった
ゆうべ また……見てたんね
——あやめ…
おかしなクセ…つけてしまいましたなあ
おはよう
——ねぇ…
あやめ…

アレは…
そんなに…
気持ちいいの？
！
あやめは…
……よう
答えません
フシギでね
？
お母さんは
いつも
違うカオ
してるの
でも
いつも
なんだか
幸せそうなの

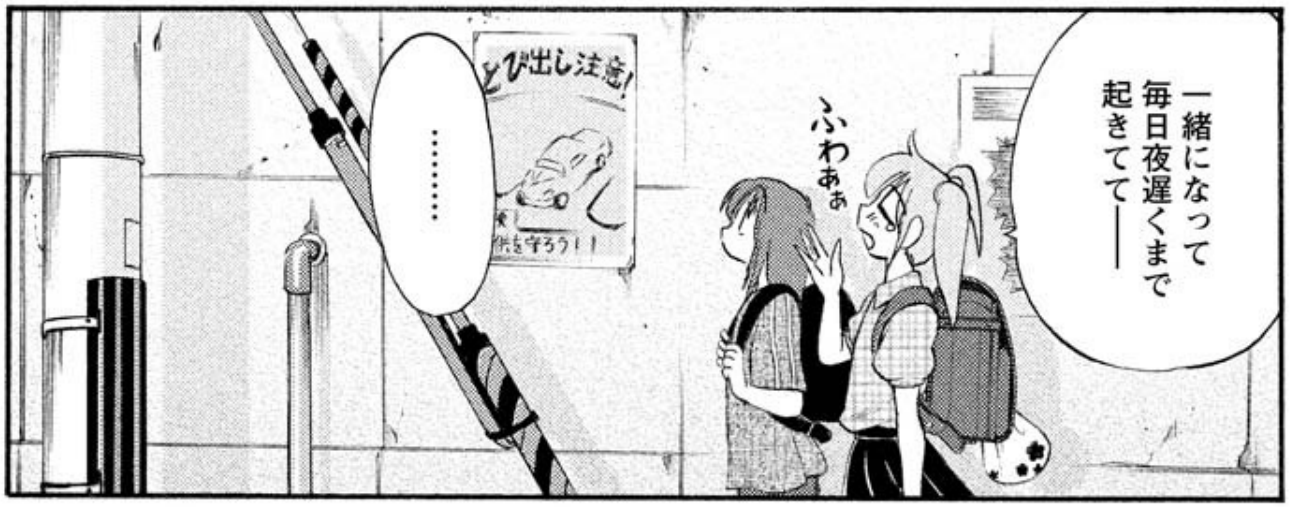
第2話◎END

第3話 閨 ねや

キーン
コーン
カーン
コーン
マチコちゃん
最近いっつも
眠そうだね
ん――

最近
お母さんのキゲン
悪くってさー
？
キゲン悪いと
寝られないの？
あはは
いやいや
実はね
お父さんが
毎日毎日
仕事の後すーぐ
パチンコパチンコって！

んで 勝っても
負けても
呑んでくるしで
そんで
お母さんが
ム――っと
しちゃってさ
それ見た
お父さんがまた
逆ギレして
ム――っとして
もう空気
悪いのなんの
へ――
私も
気イ遣って
ずっと二人と
一緒に起きて
るんだけど
ほら
私がいたら
ケンカ
しにくいかな
――ってね


一緒になって
毎日夜遅くまで
起きてて——
ふわぁぁ
飛び出し注意!
……

ねこれから
しばらくね
逆に
マチコちゃん
早く寝ちゃうと
いいよ
え……

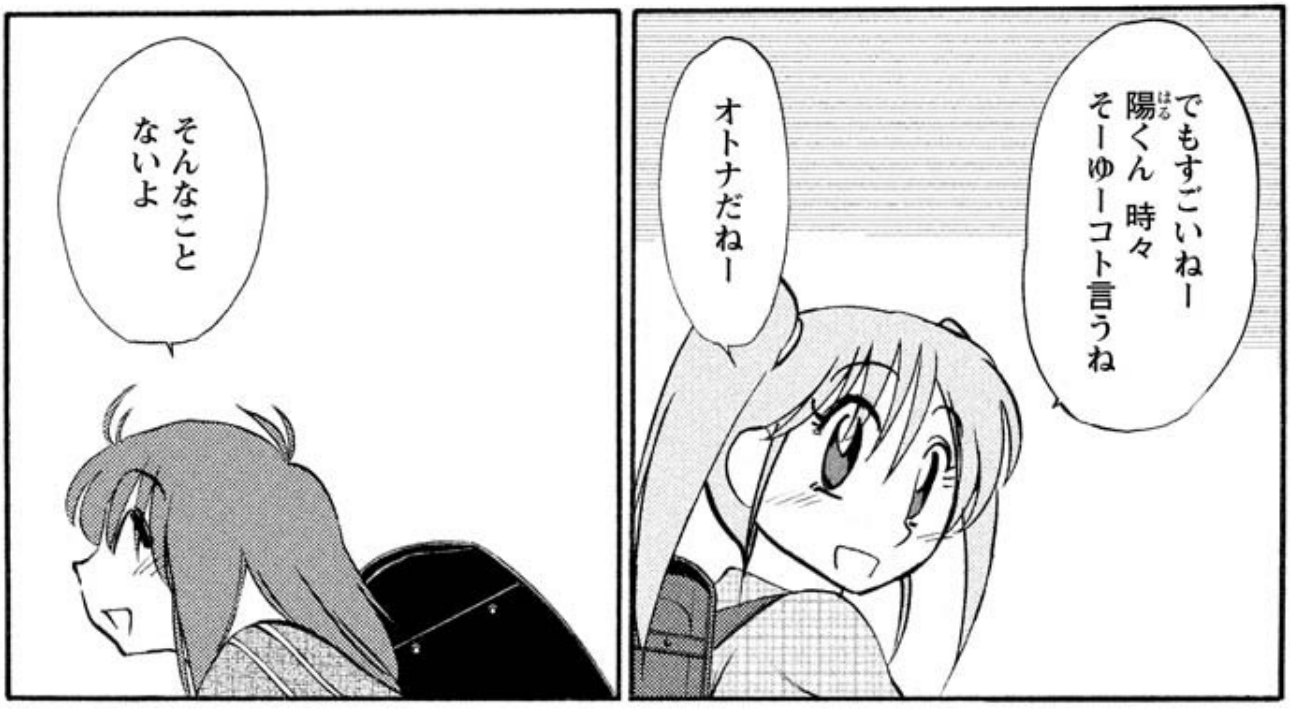
でも
そんなこと
したらさ——
また……

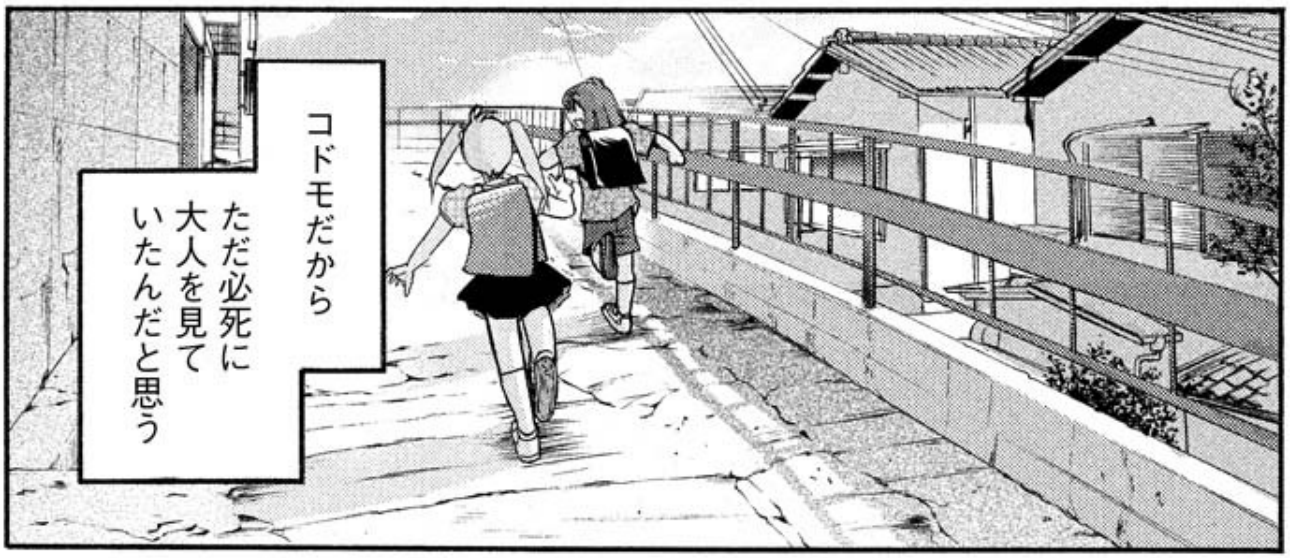
え——
そうなの？
なんでー？
なんでっていうか……
ウチは ほら
大人がたくさんいるから……
何となく分かるんだ
お母さんは——

大丈夫だよ
……たぶん
大人はきっとね
二人きりじゃないと
だめな時もあるんだよ

アレをした
次の日は いつも
機嫌が良かった
だからきっと――

マチコちゃんの
両親に必要なのは
ふーん…
なんか
わかんない
けど
じゃあ
試してみよう
かなー
うん 一週間
くらいねー
その〝機会〟
なんだろうと
思ったんだ……


でもすごいねー
陽(はる)くん 時々
そーゆーコト言うね
オトナだねー
そんなこと
ないよ


コドモだから
ただ必死に
大人を見て
いたんだと思う

大人ばかりの
家の中
鶴の間
お銚子3本ね
は――い

月の間に
デザート持って
行ってくれる？
はい
はいー
小さな僕が
居場所を
作るには
必要な
ことだった
あらー陽ちゃん
お手伝い？
エライねー
へへ――

ほらー陽ちゃん
シイタケ食べな
あかんでしょー
え――
だって――
黒いじゃーん
くろくないで
なに
意味の
分からんこと
言うてるのー
奥様も
言ってやって
くださいなー
ん――
陽は
おチビちゃんの
ままかもねェ
そう
あれもこれも
食べられないと
シイタケなんか
食べなくても
大きくなるよっ
好き嫌いする子は
大きくならなくても
よろしいッ

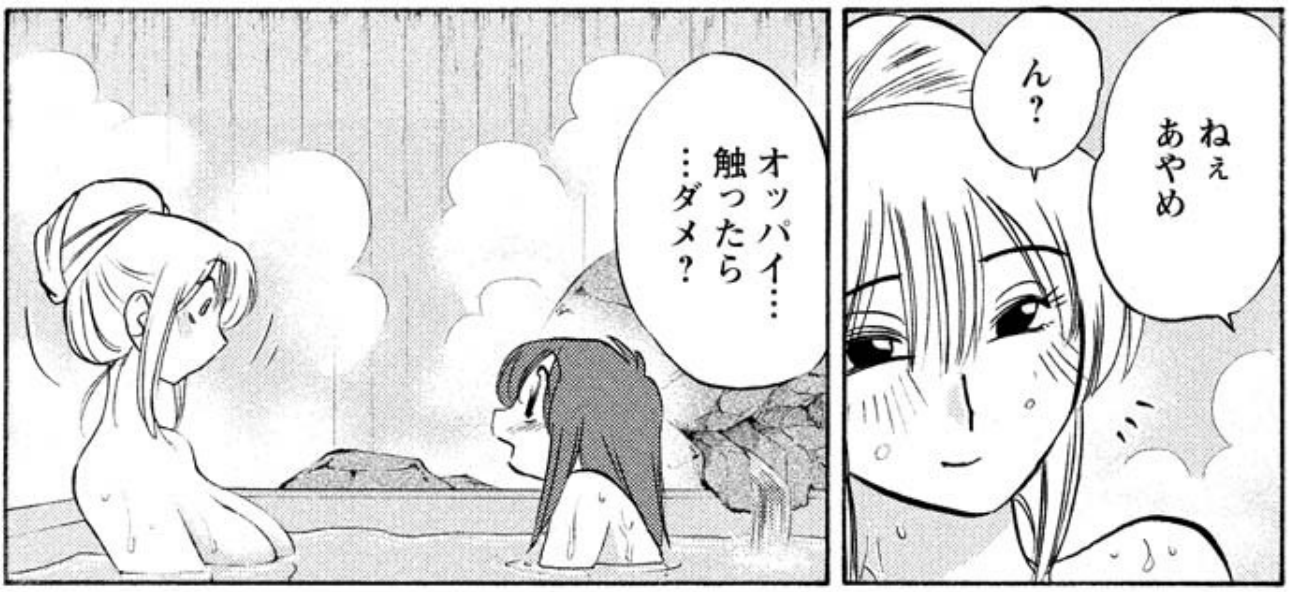
……
くっちゃ
くっちゃ
くっちゃ
ホホホ
いい子ね
陽♥
――さ
陽ちゃんおフロ
入りましょか――
あら！
陽はまだ
あやめと入ってるの？
4年生になるのに
へぇ
甘えた
ですからなぁ
陽ちゃんは
お母さんとも
ずいぶん入って
ないのにね
――
え――
お母さんとは
だって！……
恥ずかしいよ…
あやめとは
平気なのに？
おやまあ

じゃっじゃあ今日はお母さんと入る!?
久しぶりになぁ!?
どやろ!?
別にいいわよあやめ そんなに気ィ遣わなくても

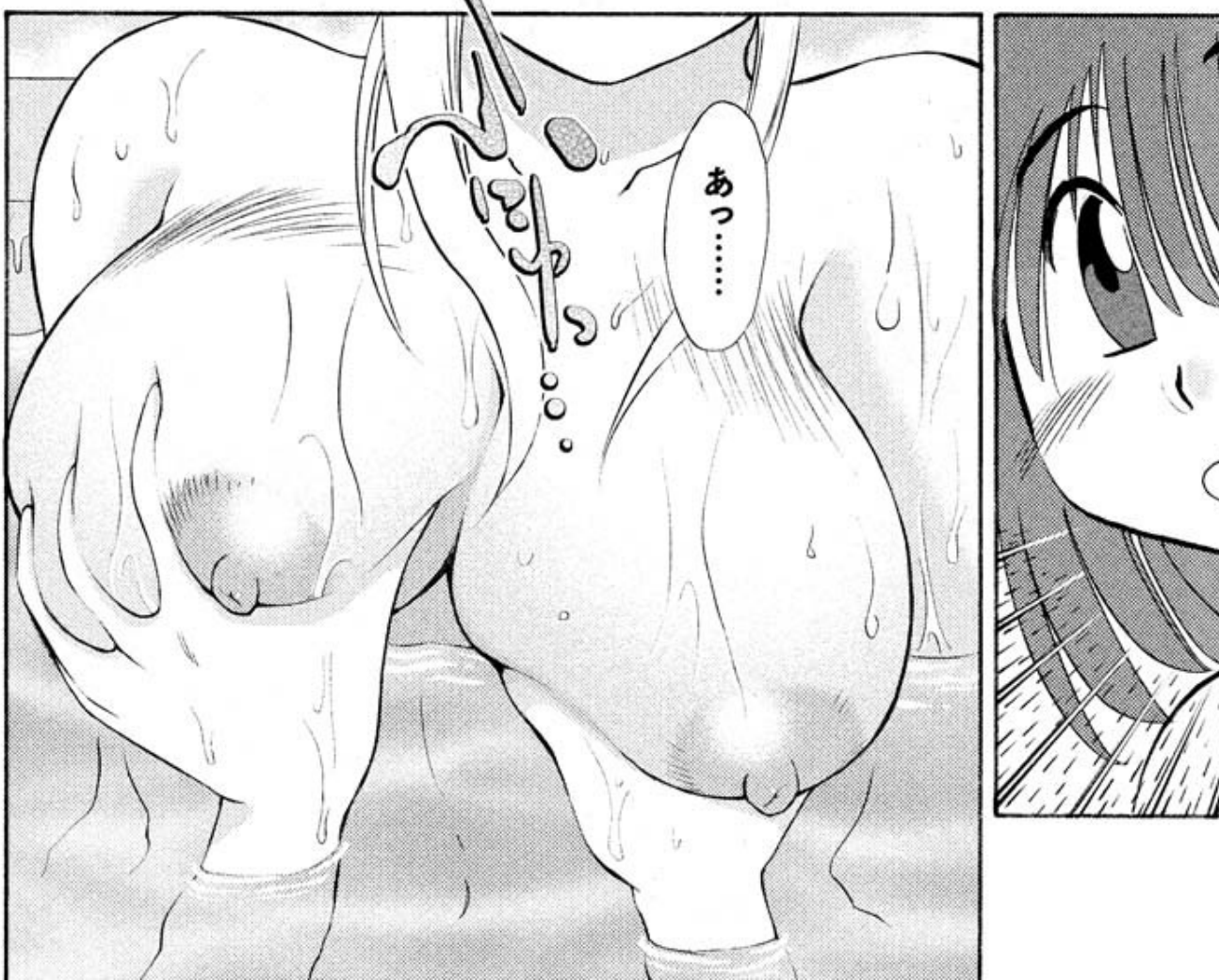
やっぱ……あやめと入る…
陽ちゃん!

けど…夜…お母さんと寝たいな…
……陽がそうしたいなら……いいよ

ガバー…
あやめは
もう なんか
疲れますわぁー
ハルちゃん
ときどき
オトナやわぁ
はぁぁぁ
なんで？
いろいろ――
ちゃぽん…
ふ――
ガバ…
は――
いいお湯――

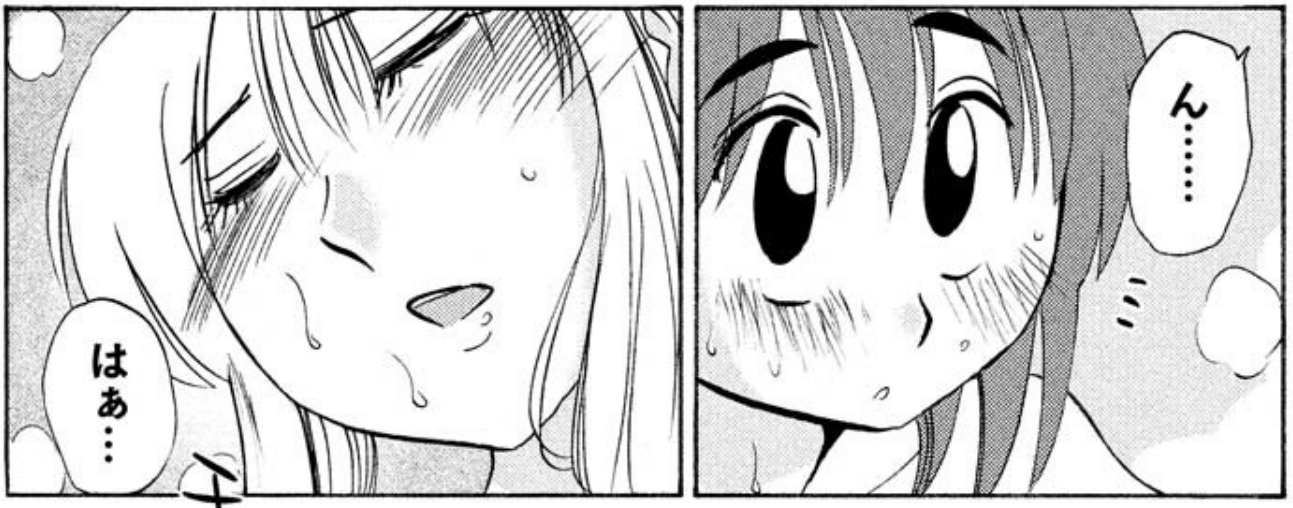

ねぇ
あやめ
ん？
オッパイ…
触ったら
…ダメ？

……
え…っ…と…
…ん…
まあ…
ええよ


あっ……

あ……
ふわ――
やわらかい…
むにっ
あ……
あんまり
強うしたら
あきませんよ
ぎゅ…
う……
うん…！
……
んっ…
ムニ…
はっ…
ぎゅっ…

おっぱい…
出ないの…？
ぎゅ…
ちゅぽん…
そんなん…
出えしません…

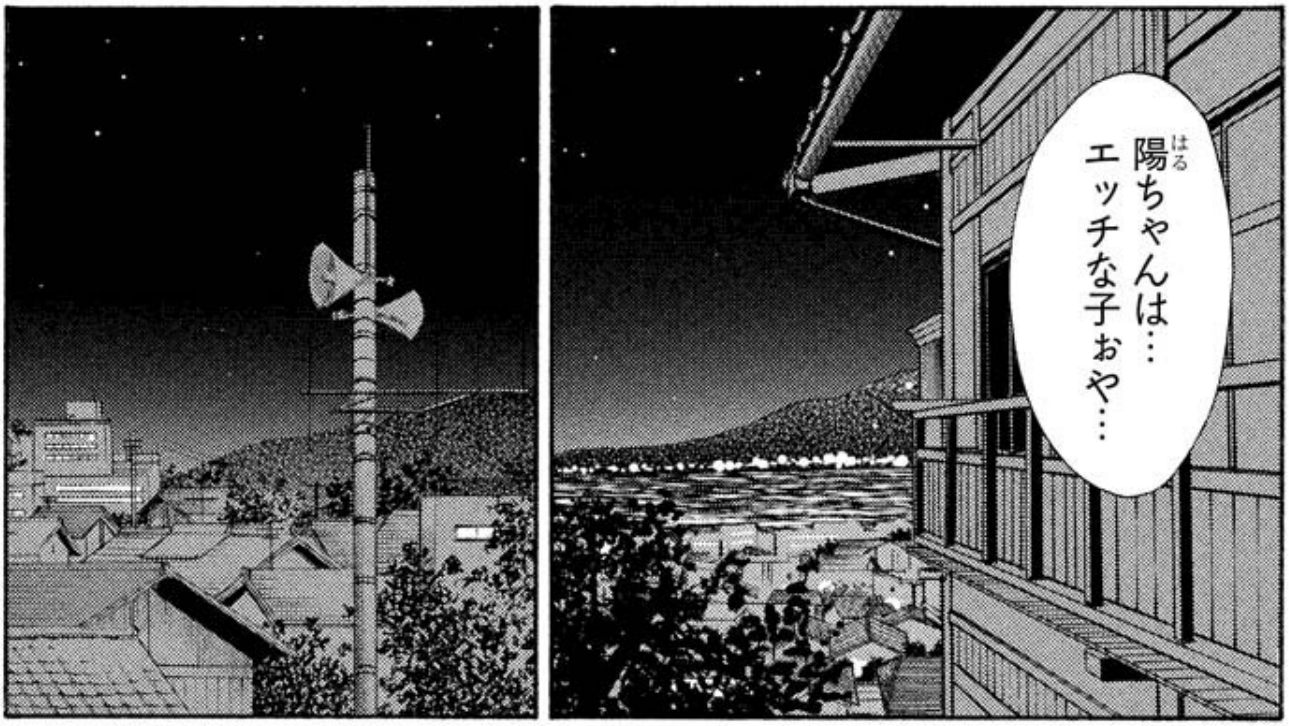

ん……
はぁ…

どき…
チャプ…

陽(はる)ちゃん……
おち○ちん…
おっきなって
ますよ……？

……うん
…なんで…？
…わからん！
勝手に…
なるもん…

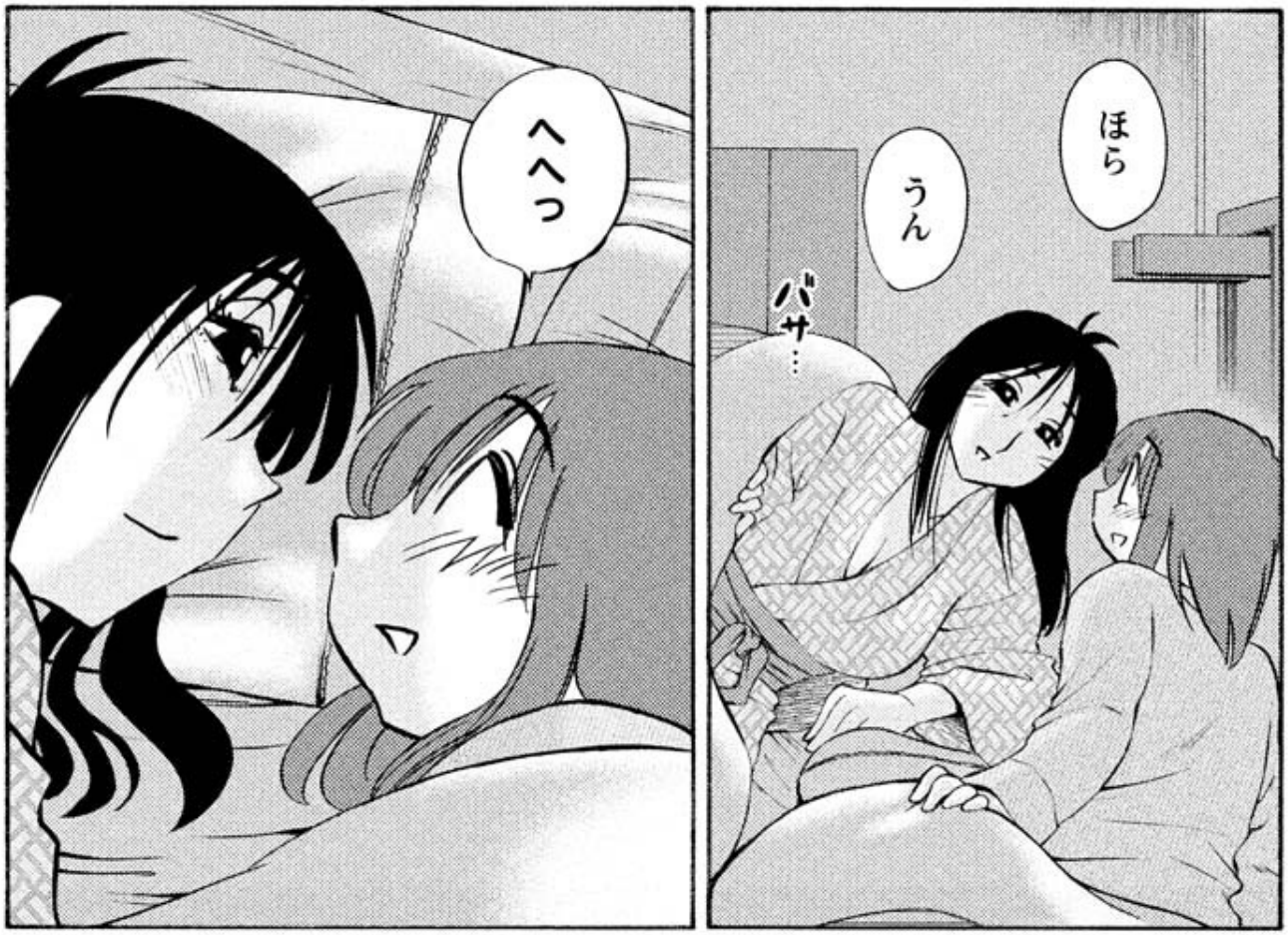
ほんまに…


陽(はる)ちゃんは…
エッチな子ぉや…

コッチ
コッチ
コッチ
コッチ
コッチ
モゾ…
どしたの？
寝られない？
…へへ…

なんか…
お母さんの
におい
久しぶり

……
陽(はる)
こっちおいで


へへっ
ほら
うん
バサ…

ほんと…陽(はる)と
こうして寝るのも
久しぶりね
お母さん
忙しいから…
仕方ないよ…
SHISEIDO

うん…
そうね…

ゴソッ
陽 ほら…
昔よく
こうしたでしょ
え？

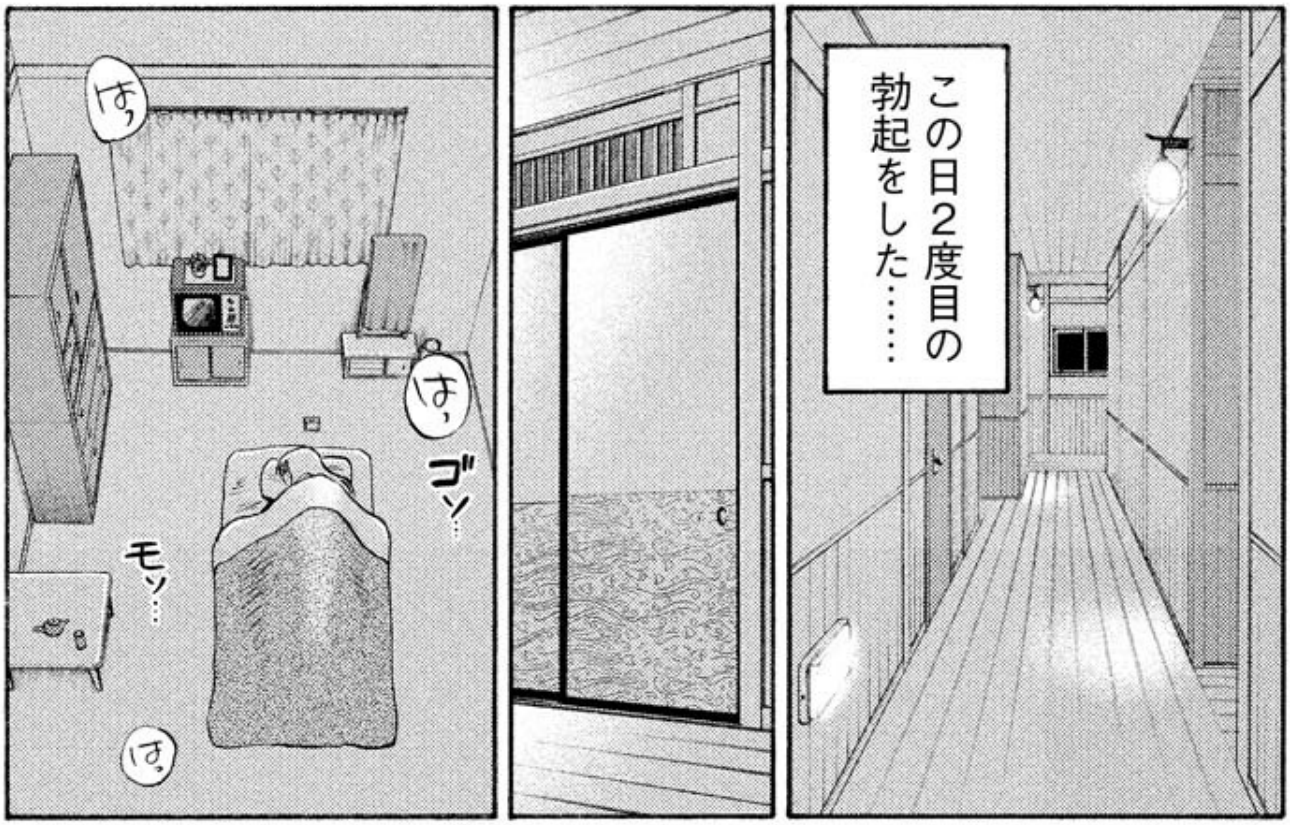
ほらこれ
あ！
うん！

これ好きだったー
足とか
あったかくって
冬とか——
ふふ…
そうでしょー

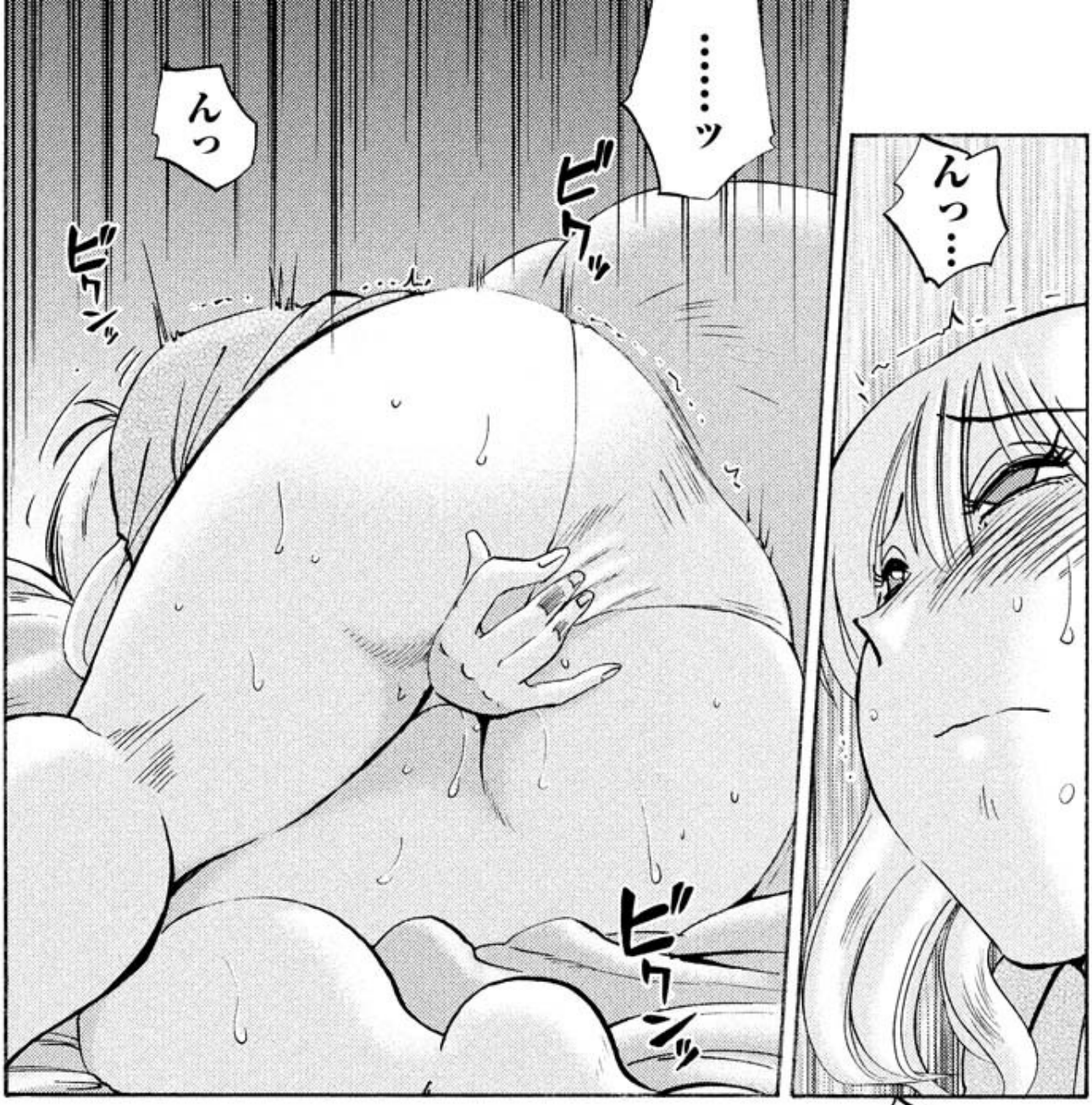
あは……
お母さんの肌
すべすべ
！
ぴと…
するするで……
ん…
ススス…
きもちいい
あは――

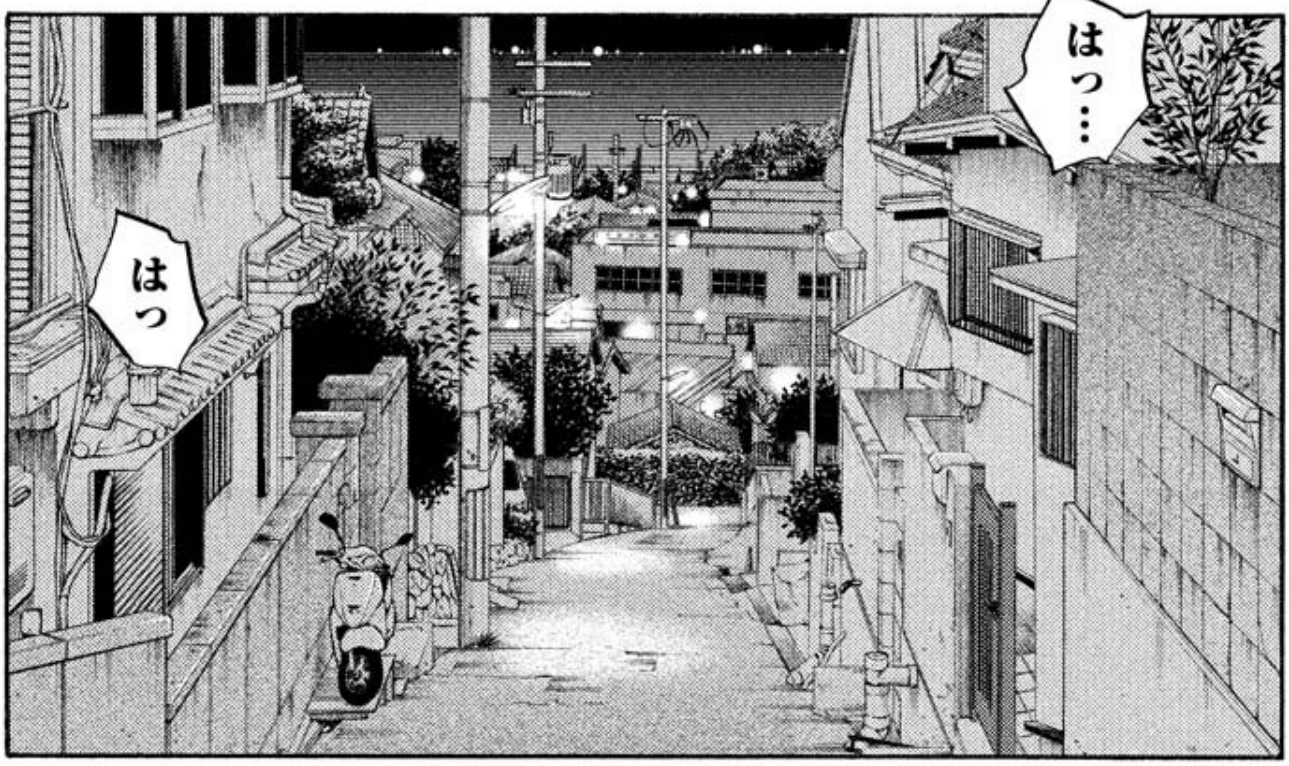
お母さん……
…あったかいね
暗がりから
ずっと見ていた
・・
あの肌に触れて

僕は


この日2度目の
勃起をした……
はっ
はっ
ゴソ…
モソ…
はっ

胸なんて触られたん……
はっ
はっ…
モゾ…
ん…
あ……
いつ以来やろか…
ギュ…
はっ
ズ…
あっ
ちゅっ…
あっ



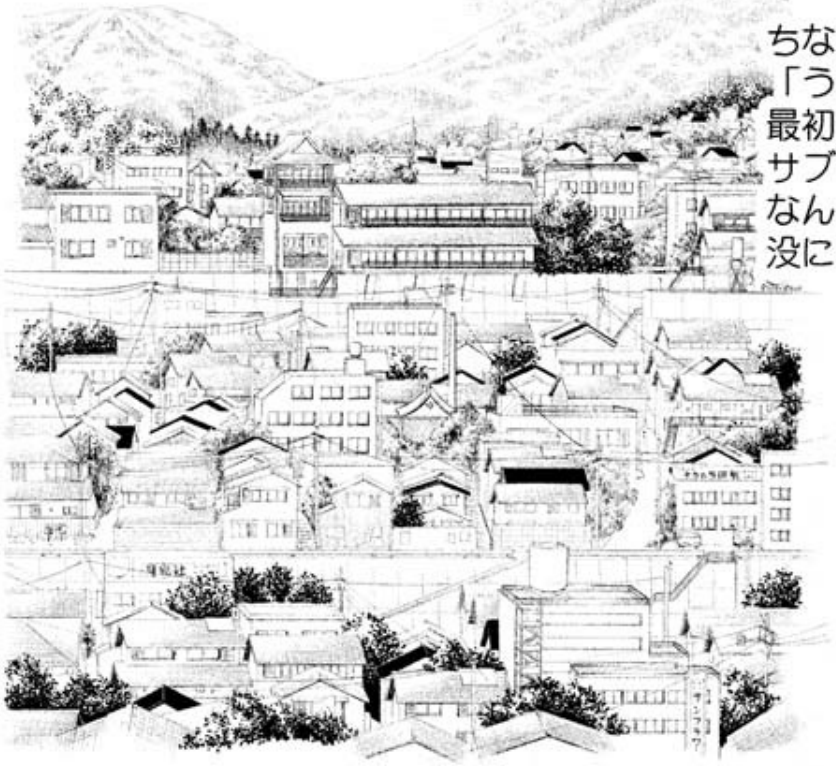


第3話◎END

◆町のイメージなど。

ネームの１枚目に描いた
なんとなくの旅館と町のイメージ。
海から山へとせり上がっていく町と
その上の高台にある陽の住む旅館。
そんなかんじでした。

それを見てアシ子たちが描いて
くれたのが下。だいたいイメージ
通りになりました。
この町を描く上で参考にしてるのは
神戸の西にある塩屋駅付近や
垂水駅の上のほう、あとは三重県の
神島の家並みです。ごちゃまぜですね。



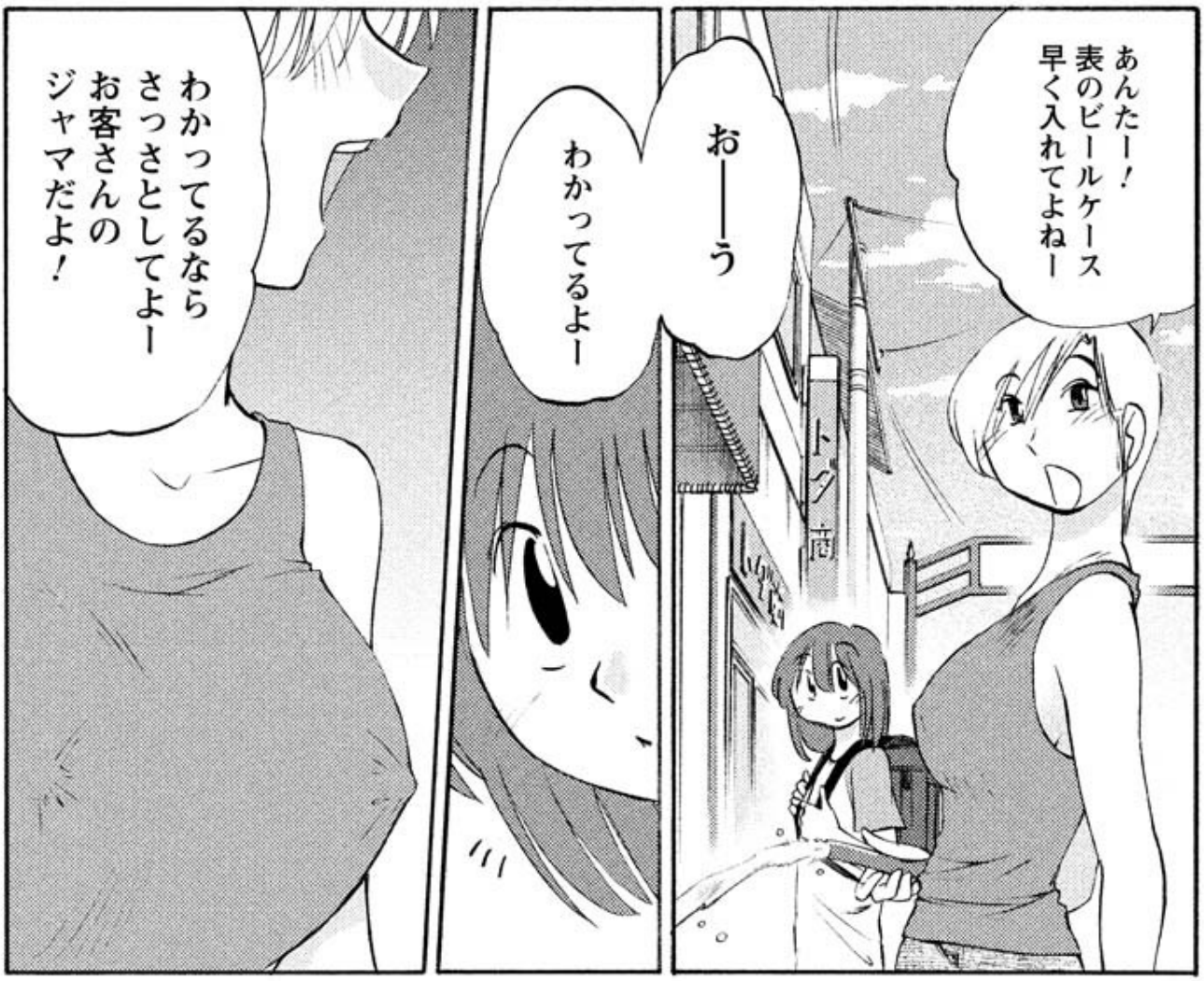
ちなみにラフの左上に書いてある
「うたかたの柔肌」というのは
最初に出したタイトル案。
サブタイトルにでも使おうかな、
なんて思ってましたが結局は
没にしました。

ひろがお

Presented by
TSUYATSUYA

第4話 性 さが

陽(はる)くーん
おはよー
あっついねー
あ！
マチコちゃんの
お母さん！
おはよー！
でもキミ
遅刻じゃ
ないのかなー
バシャシャ
へへ――
マチコちゃん
もう行ったよね？
とっく！
さぁ早く
行きな
バシャシャ


あんたー！
表のビールケース
早く入れてよねー
お――う
わかってるよー
わかってるなら
さっさとしてよー
お客さんの
ジャマだよ！

もうすぐ
夏休みになる
いけねっ
遅刻だった！
マチコちゃんの
両親は 仲なおりした
みたいだ

ねー陽(はる)くん
ほんとすごいよ！

お父さんお母さん
いつの間にか仲良く
なっててさー

言ったとおり
毎日早く
寝てたら

いつの間にか
仲なおり
してたもん

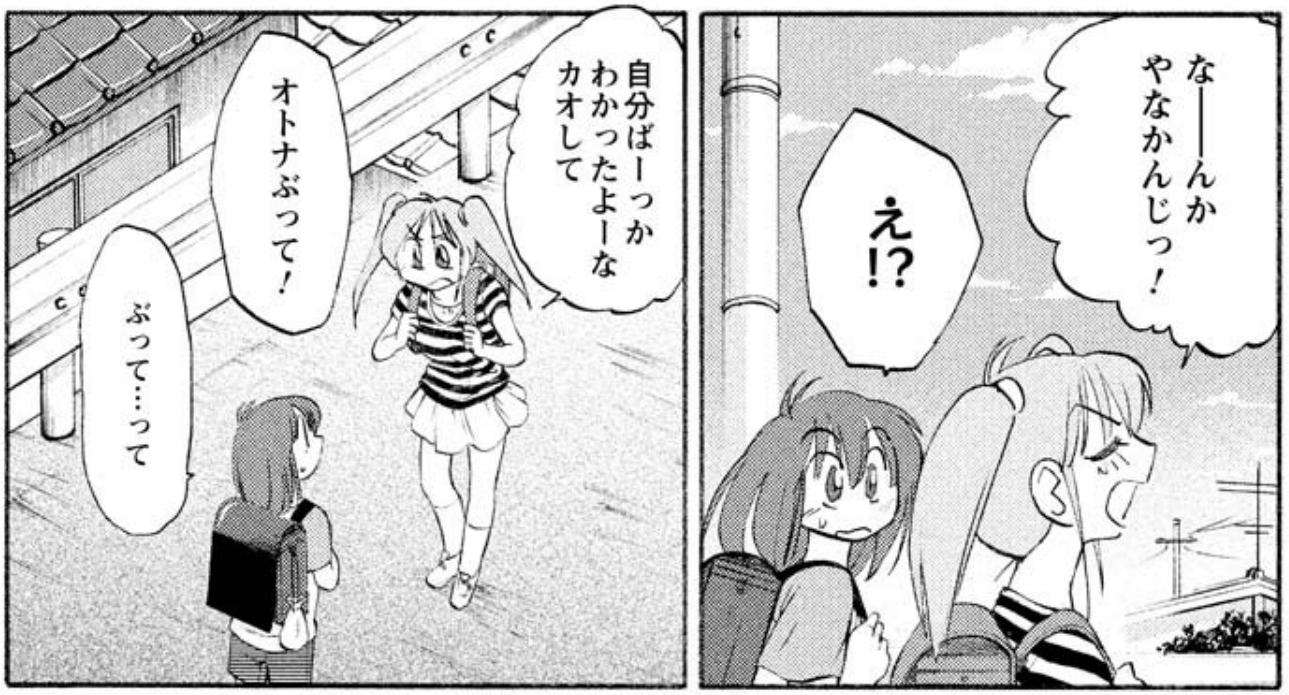
でも
なんでだ
ろうね――

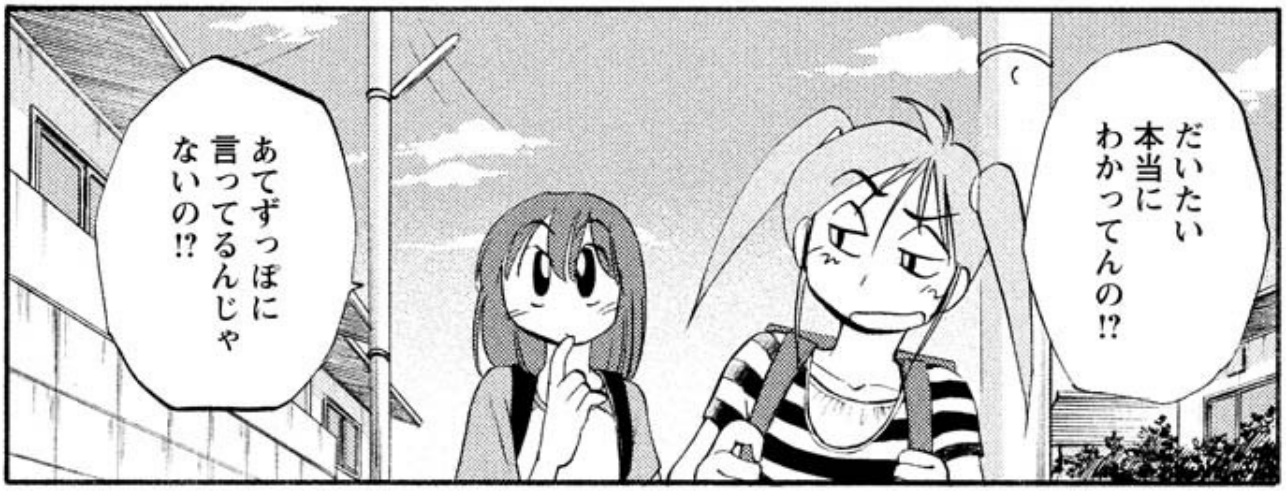
そりゃー！
……

……
なんでだろ…

ねえ
陽(はる)くんは
わかってたの？
え？
うちの
お父さん
お母さんの
ことなのに！
あ――

そうじゃない
かなーっていう
推理？ みたいな
感じかなぁ
なんていうか
……みんな同じ
なんじゃないか
っていう……
……


な――んか
やなかんじっ！
え!?
自分ばーっか
わかったよーな
カオして
オトナぶって！
ぶって…って


だいたい
本当に
わかってんの!?
あてずっぽに
言ってるんじゃ
ないの!?

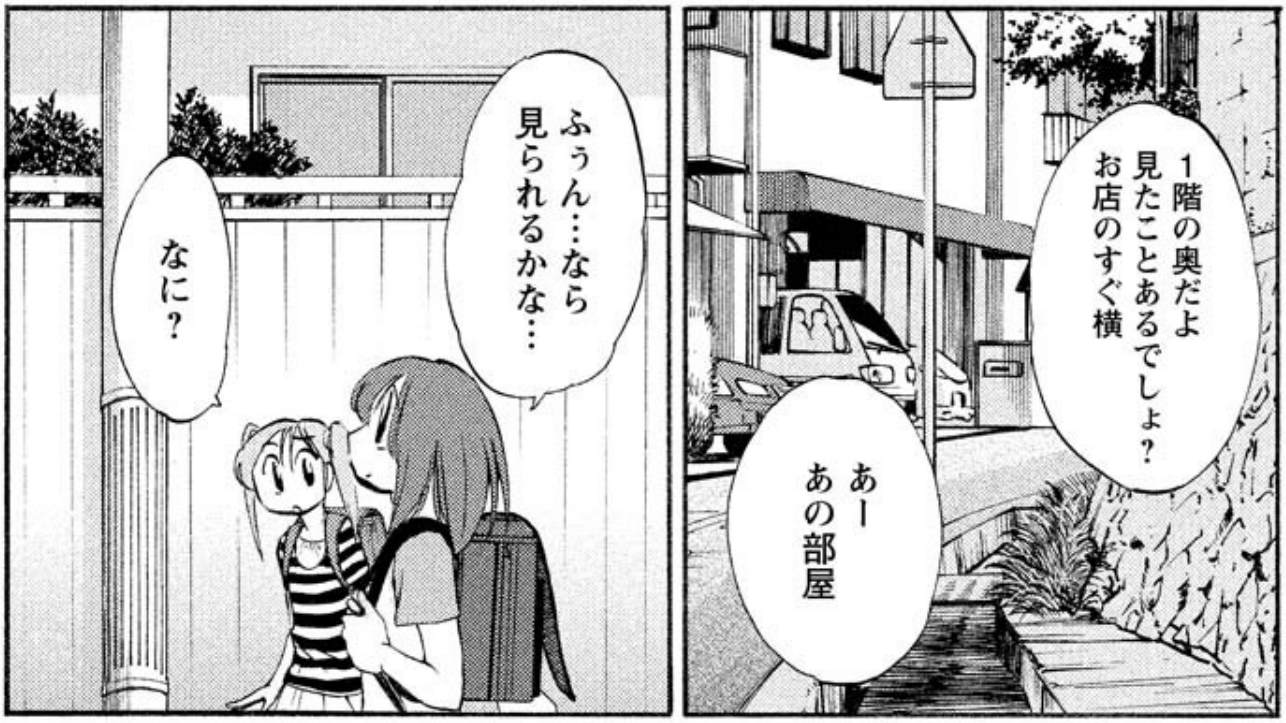
……半分は
そう…かも…
は!?
でも…半分は
知ってる…から
知ってる!?

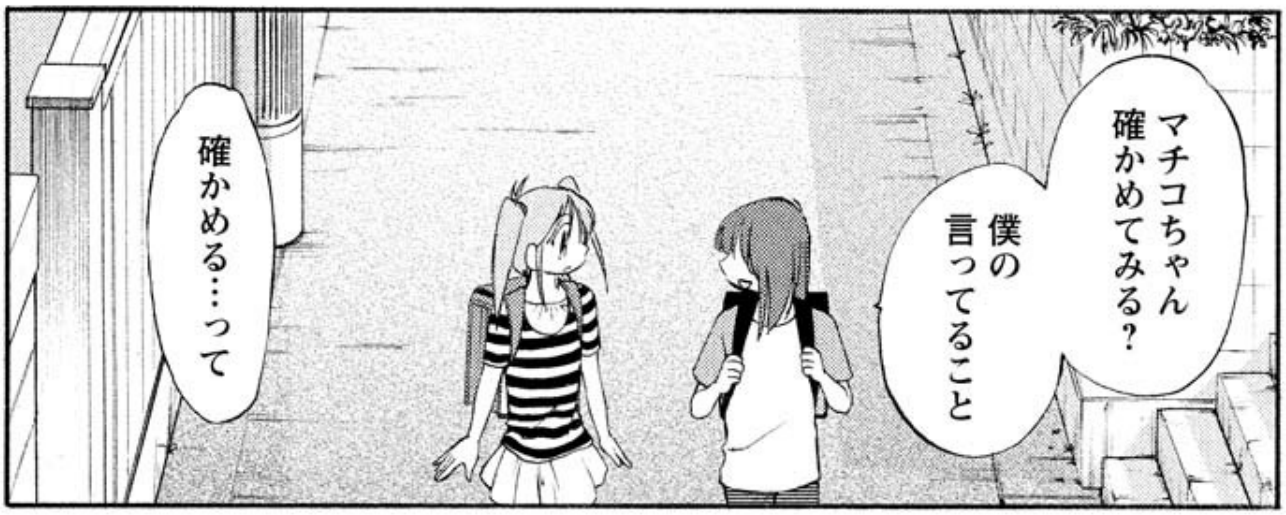
なんで陽(はる)くんが
うちの両親のこと
知ってんのよー!
マチコちゃんとこ
っていうか……

……なんだか
わかんないなー
……

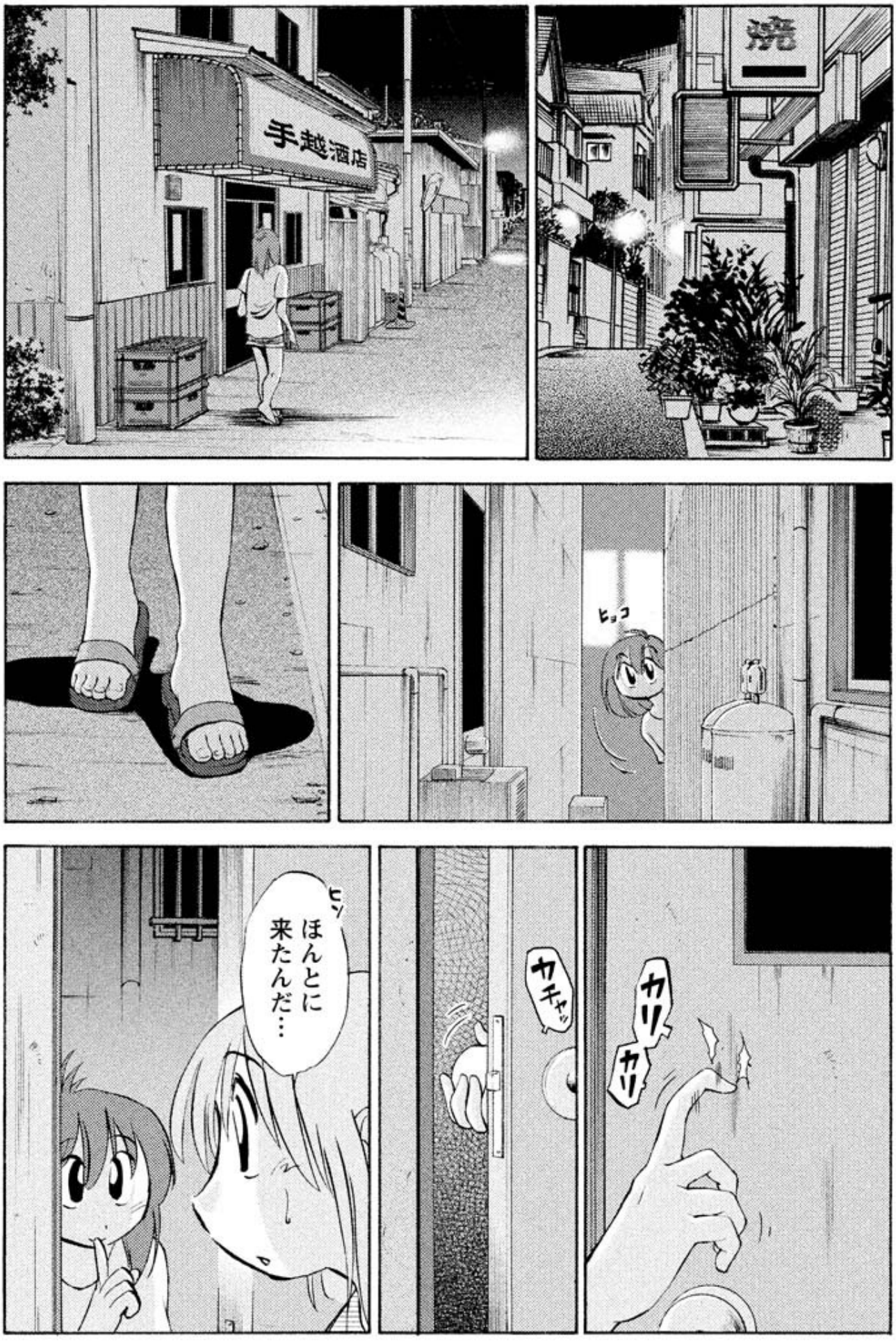
あの…さ
マチコちゃんちの
お父さんたち…
どこで寝てるの?
え?

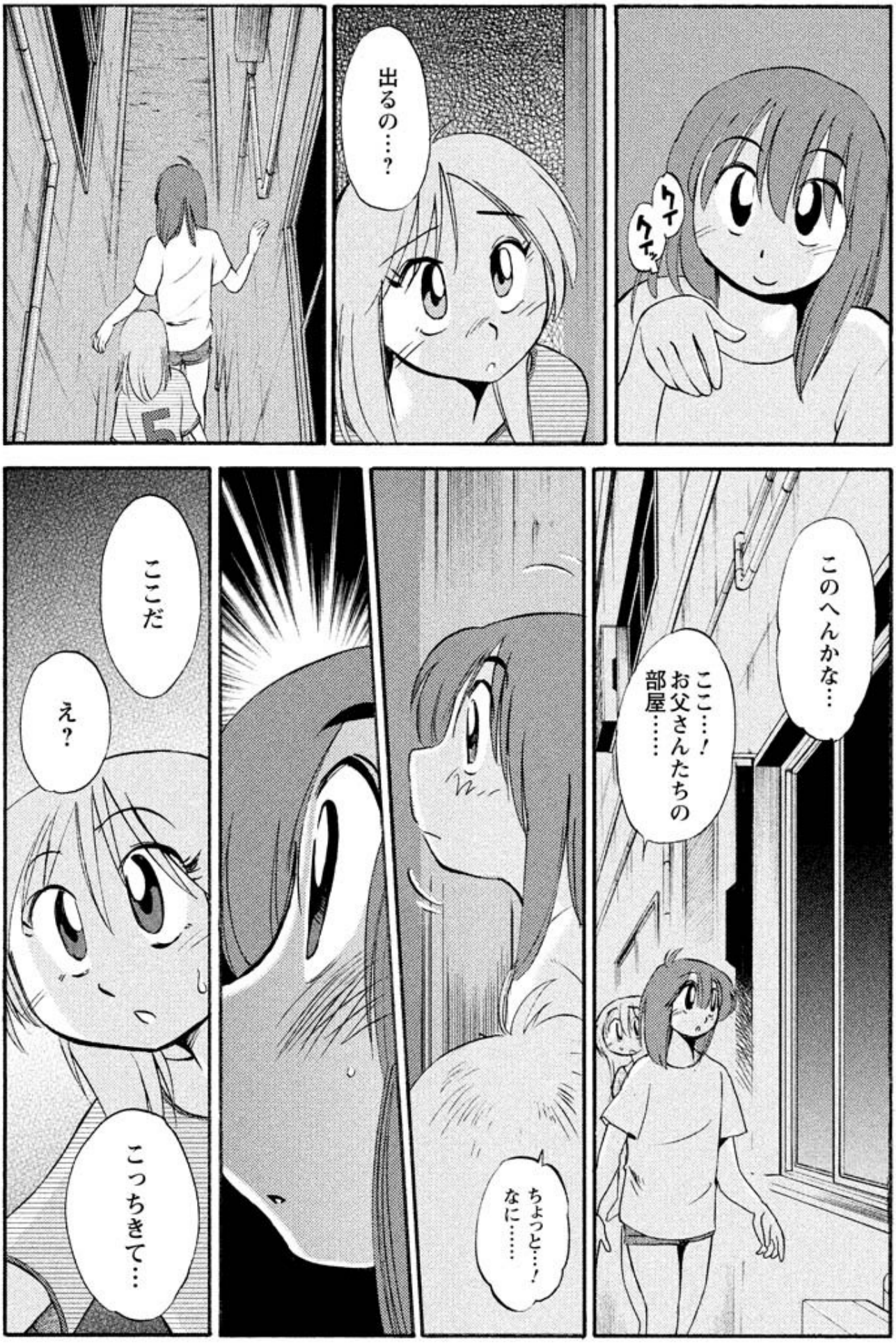
オトナのことなら
少しわかるんだ…


1階の奥だよ
見たことあるでしょ？
お店のすぐ横
あー
あの部屋
ふぅん…なら
見られるかな…
なに？


マチコちゃん
確かめてみる？
僕の
言ってること
確かめる…って

仲良くなる秘密
え!?
え!?
今夜…
11時くらいに…
裏口で待ってて


手越酒店
ヒョコ
カリ
カリ
カチャッ
ヒソ
ほんとに
来たんだ…


クイクイッ
出るの…？
このへんかな…
ここ…！
お父さんたちの
部屋……
ちょっと…！
なに……
ここだ
え？
こっちきて…

このカーテンの隙間から……
!?
ズギュッ
はっ……
ズギュッ
んっん
ズッ
ズッ
ズッ
はっ
ズッ
ズブッ
あっ

はっ
でかい声出すなよ…
マチコが起きちまうだろう…
だって…あんたっ…
はっ
すごい…っ
はっ
へっ
最近…毎日するからっ…
感じやすくって……あ
あっ
あっ
はっ
こうすっといいのか？
やっ…だめっ

……！
あはっ
ズチュッ
ズプッ
はっ
あんっ

今日……
お前ノーブラ
だったろ？
ズチュッ
あ…
んっ
なんだありゃ
オレにアピール
してたのか？
ジュプッ
ち…がうよっ
ズチュッ
んっ

ズプッ
じゃあ客の男に
お前の乳（チチ）
見せるためか？
はっ
ズチュッ
ブラ…洗濯して
なくってェ…ッ

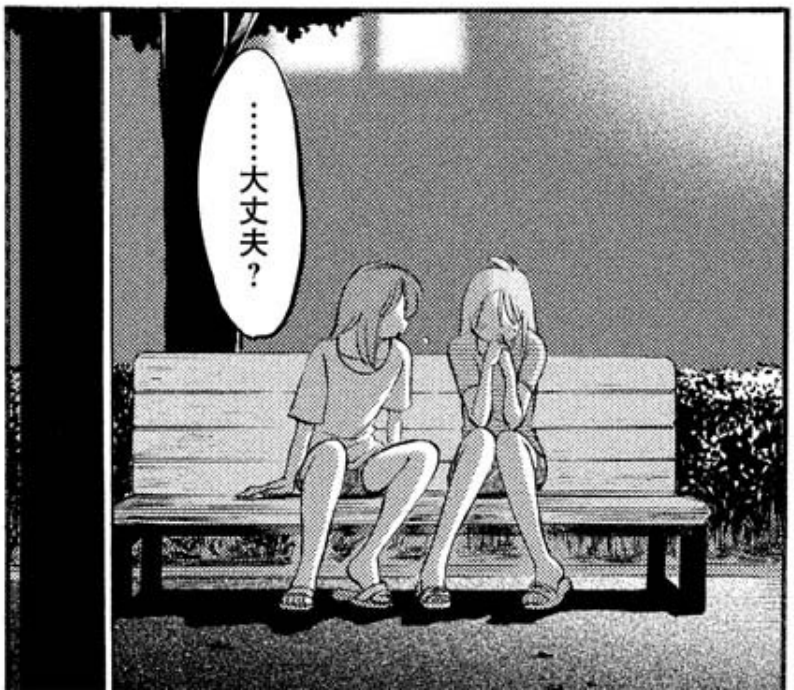
スケベだなあ
はっ
ん――？
加奈子（かなこ）っ
ほら
もっとケツ
振ってみろ！
あはっ
ちがっ…
あんッ
は
だってェ…
あっ
すげぇな
まる見えだぜ
加奈子のマンコに
オレのチンポが
よぉ
スケベなこの
でかいケツ！
ああッ…
あっ
ん
もっと…
名前呼んで…ッ
あはんっ

あっ
ズブッ
グチュッ
ほらケツ振れ
加奈子ッ
ズチュッ
ああん
こぉッ!?
こう!?
ズチュッ
グチュプッ
チュプッ
よぉし
いい子だ
あはっ
んぁ
おじさん…
ウチの母さんと
してる時と
全然違う……

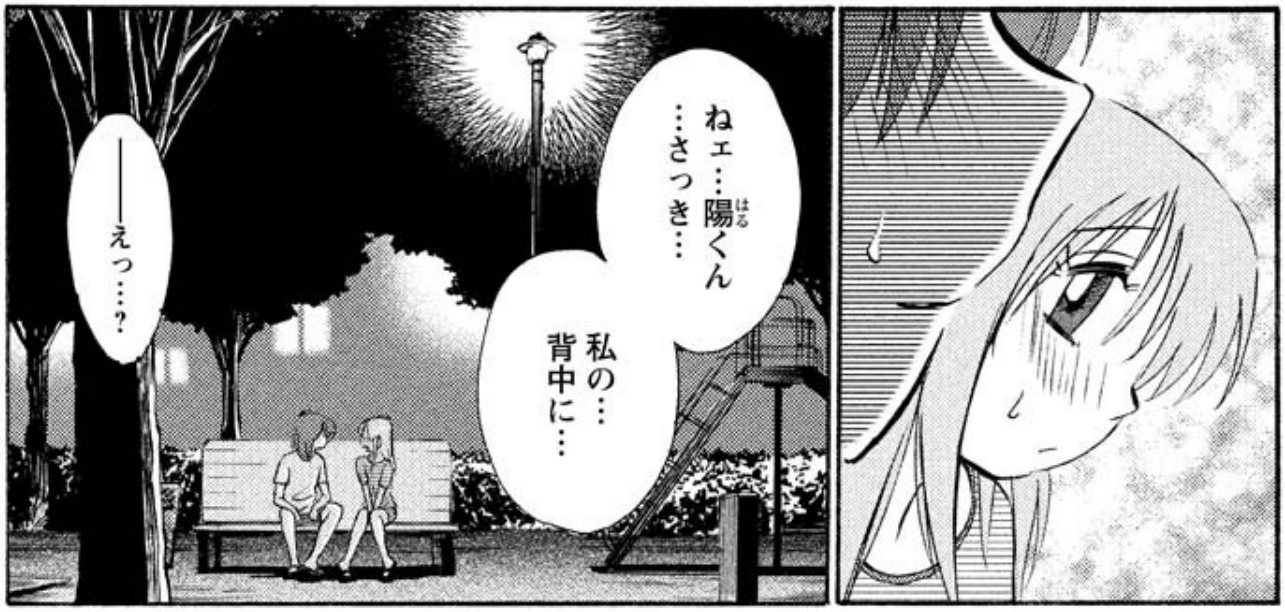
オバちゃんも……あんなに変わるんだ…
やあイクッ
あっあっ
ジュプッ
ズッ
ギュプッ
いっちゃうッ
よしっオレも…っ出すぞっ
グチュッ
!?
陽(はる)くん…？
ああ…ッ
あっ
んっ
ビクッ
ビクンッ
はっ
ああんッ…
あっ
は

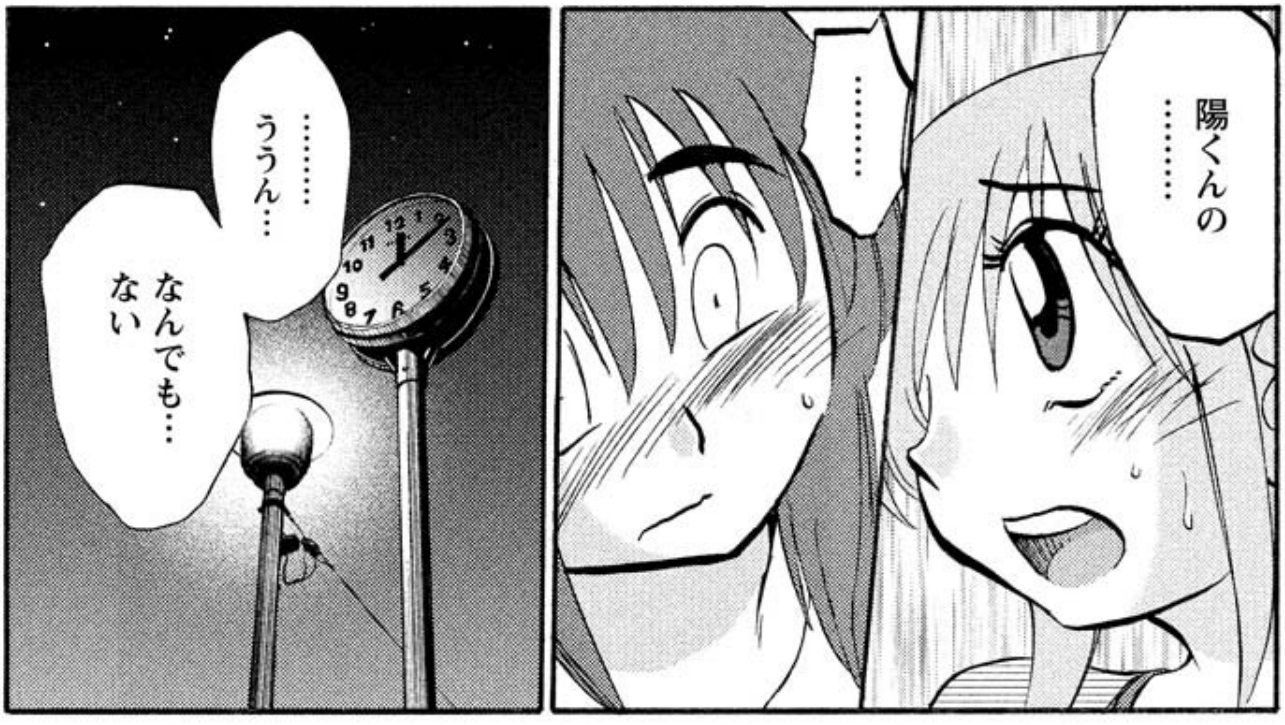
はっ
は
は
は
はっ

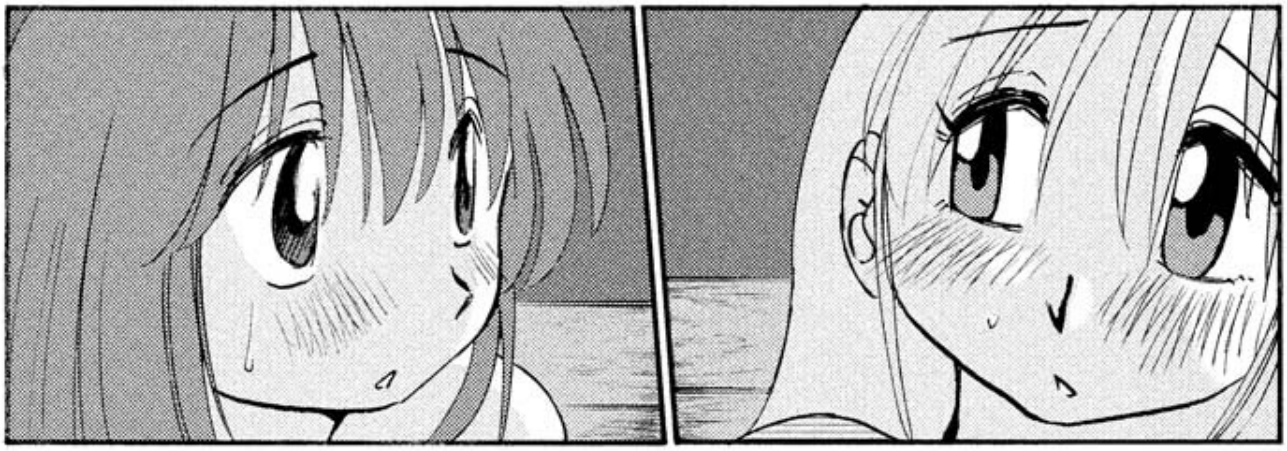
はあ
はあ

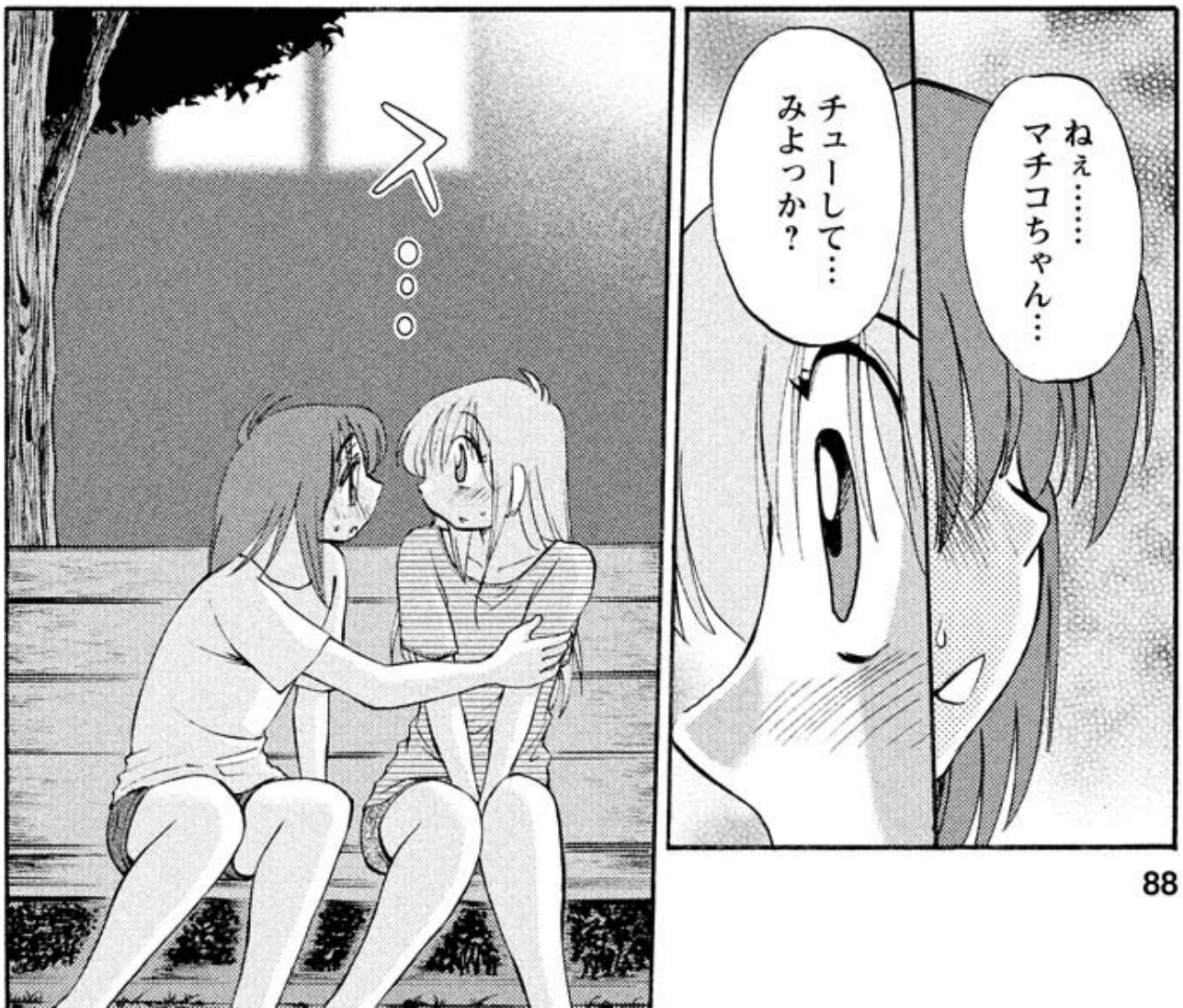

……大丈夫？

……
…なんか…
すごいまだ…
ドキドキする…
僕も…すごく
ドキドキした…


ねェ…陽(はる)くん
…さっき…
私の…
背中に…
――えっ…？


陽くんの
……
……
ううん…
なんでも…
ない

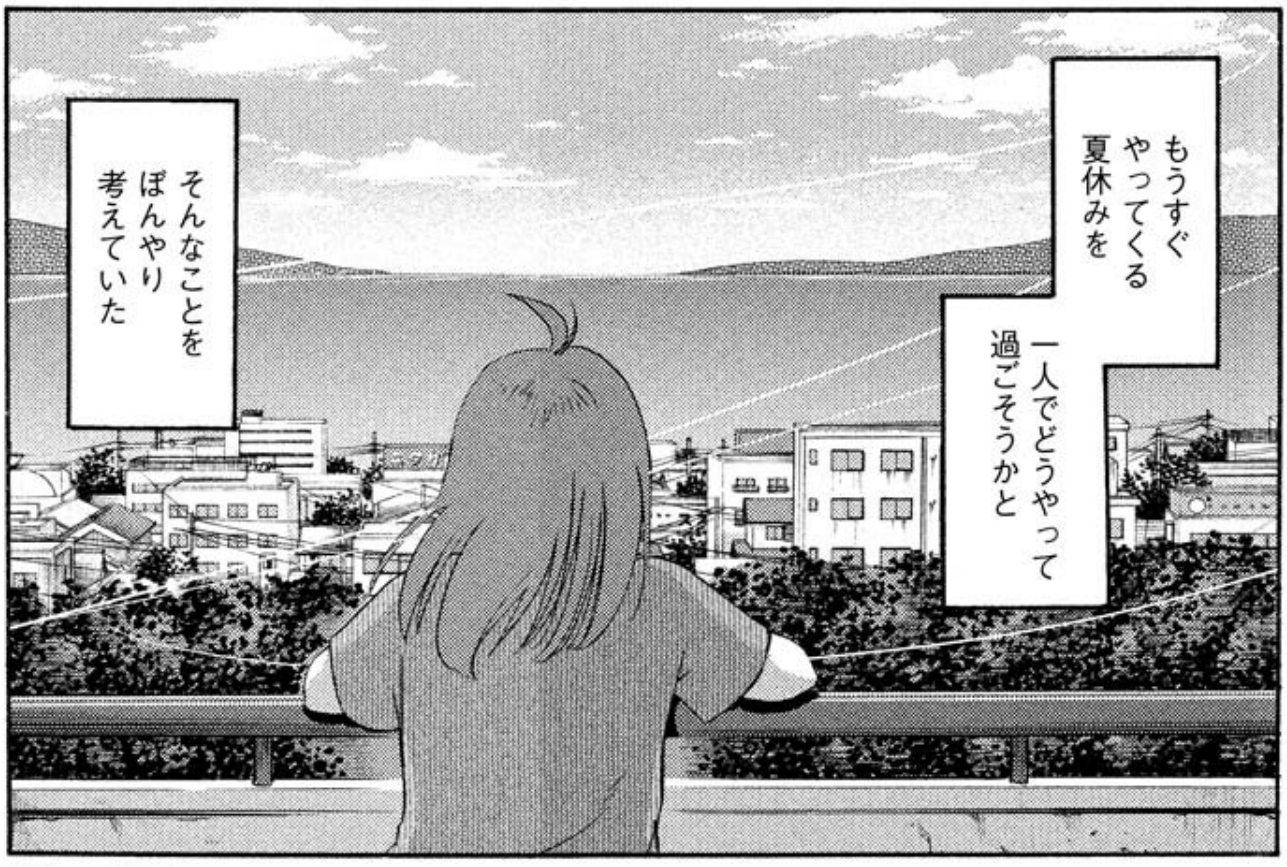



ねぇ……
マチコちゃん…
チューして…
みよっか？
ス
○○○

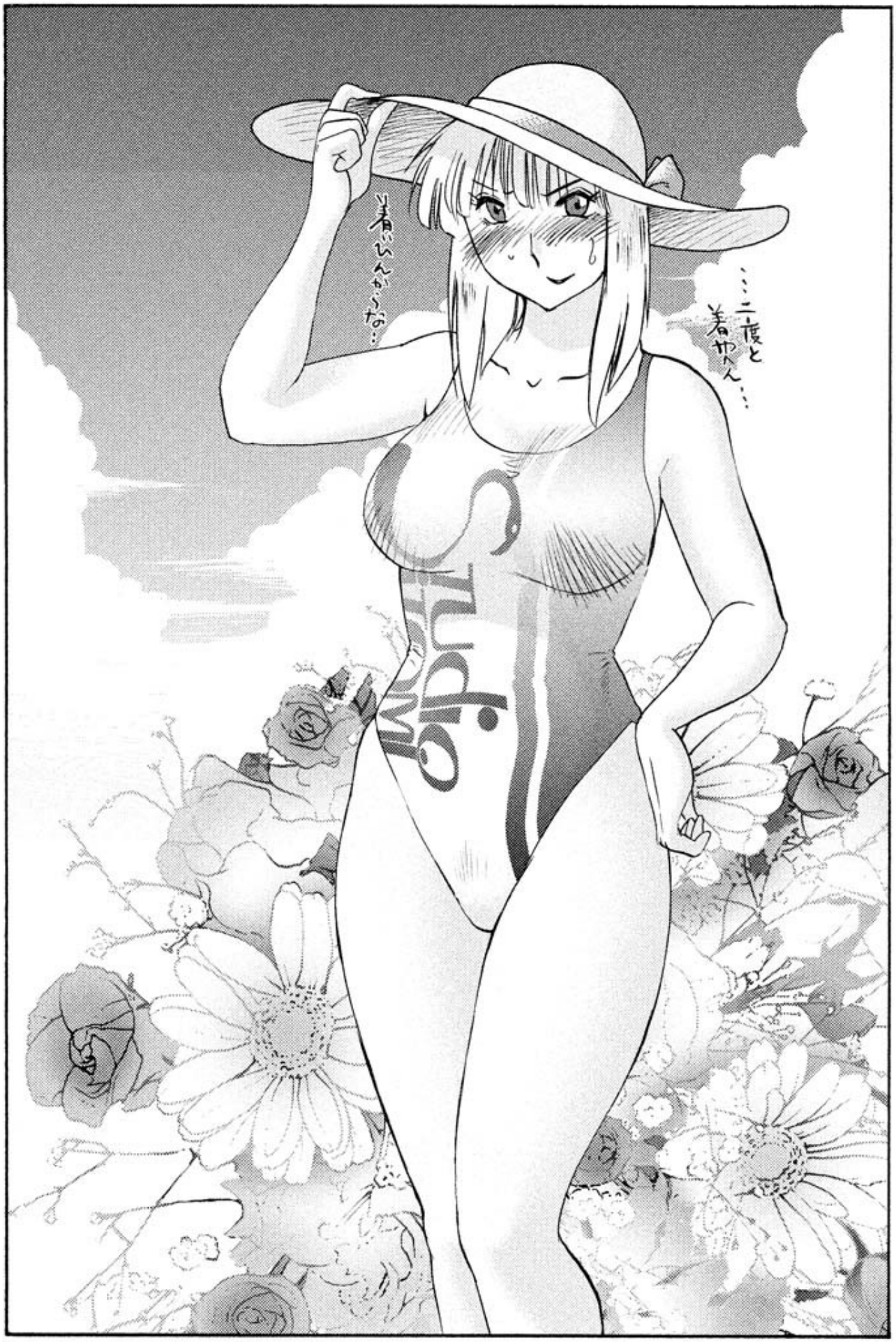
――だめ
かっ…帰る！
――おやすみ！
――次の日から

マチコちゃんは
僕と遊ぶことは
なくなった
キャー
ワー
特別
仲が悪くなった
わけではないけど
あはは。

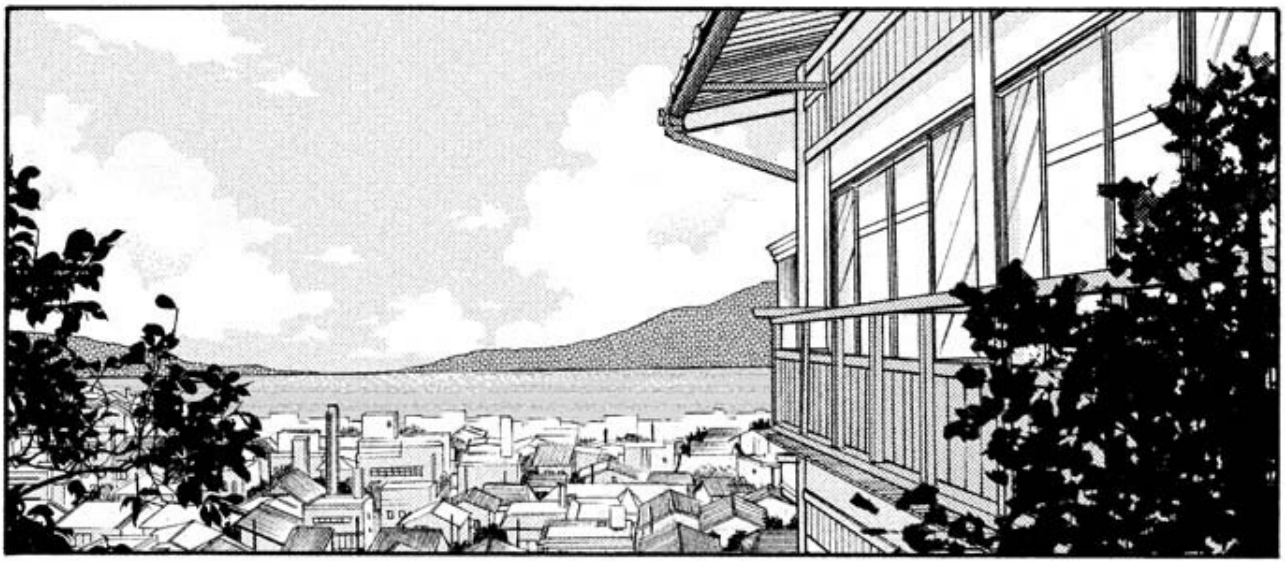
もう以前のような
――まるで
姉弟のような
感じは失われ
ただの
たくさんいる
〝友達〟の一人に
なってしまった

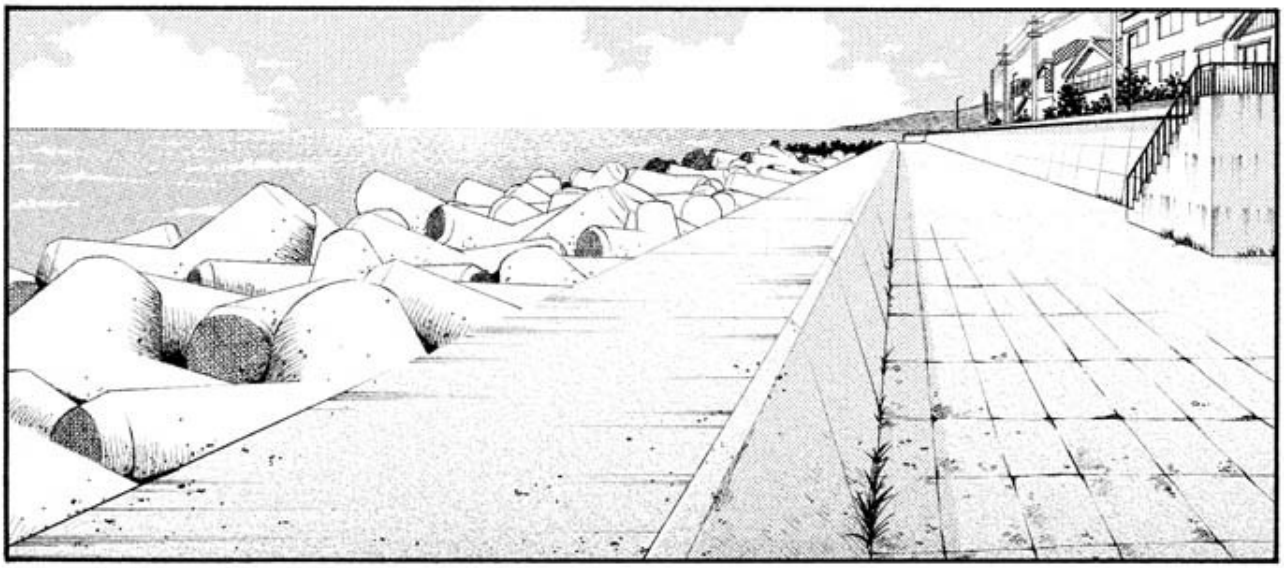

もうすぐ
やってくる
夏休みを
一人でどうやって
過ごそうかと
そんなことを
ぼんやり
考えていた

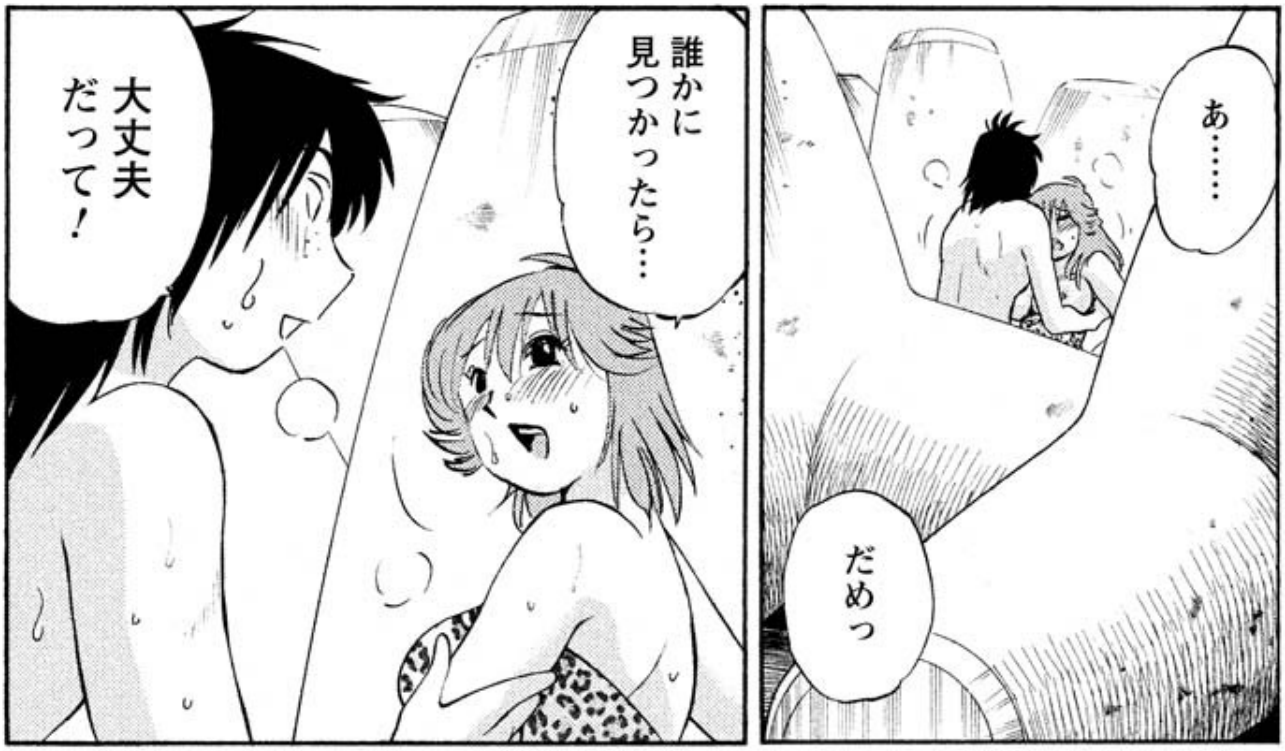
第4話◎END



第5話 曲 くせ





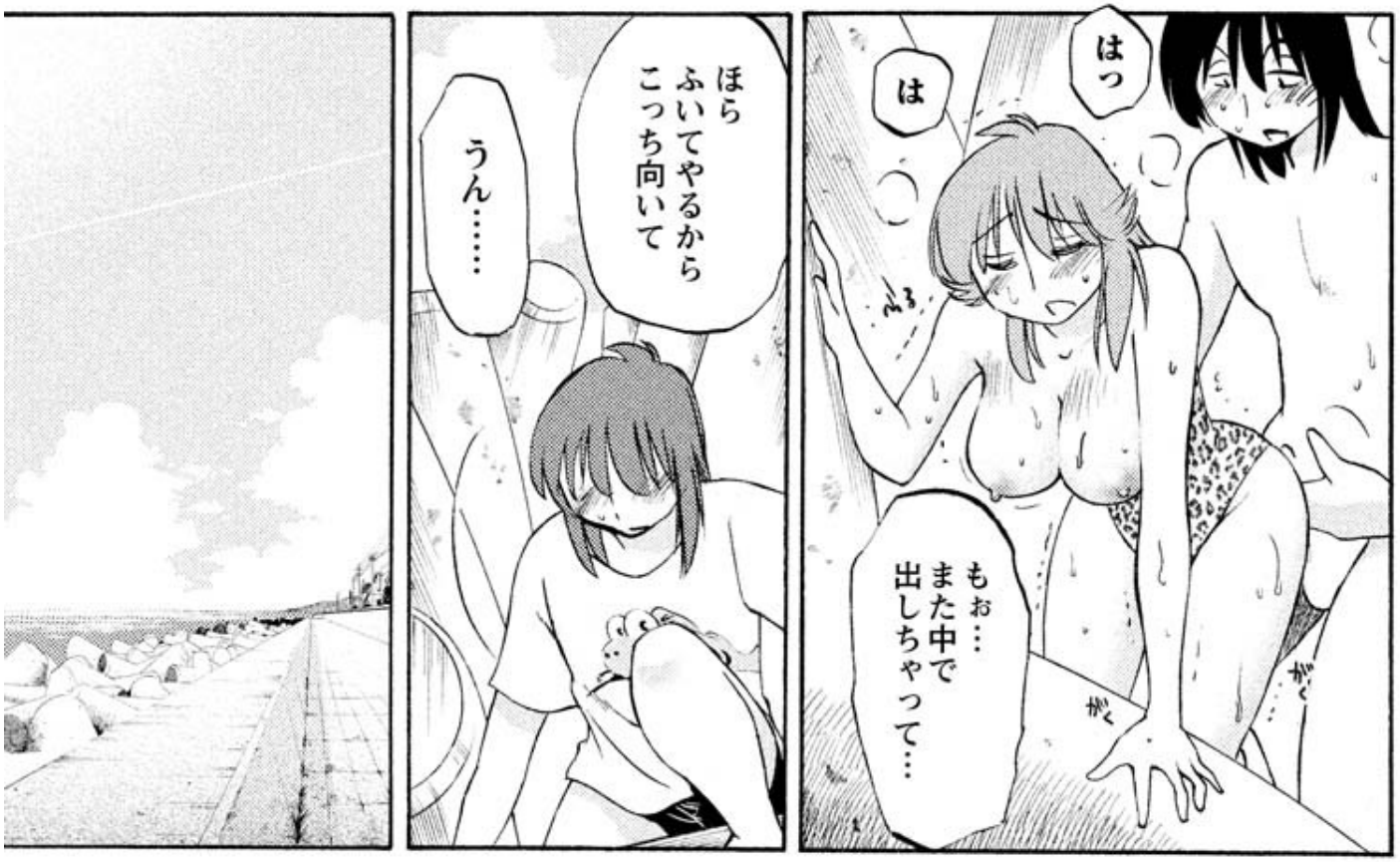

あ……
だめっ
誰かに
見つかったら…
大丈夫
だって！

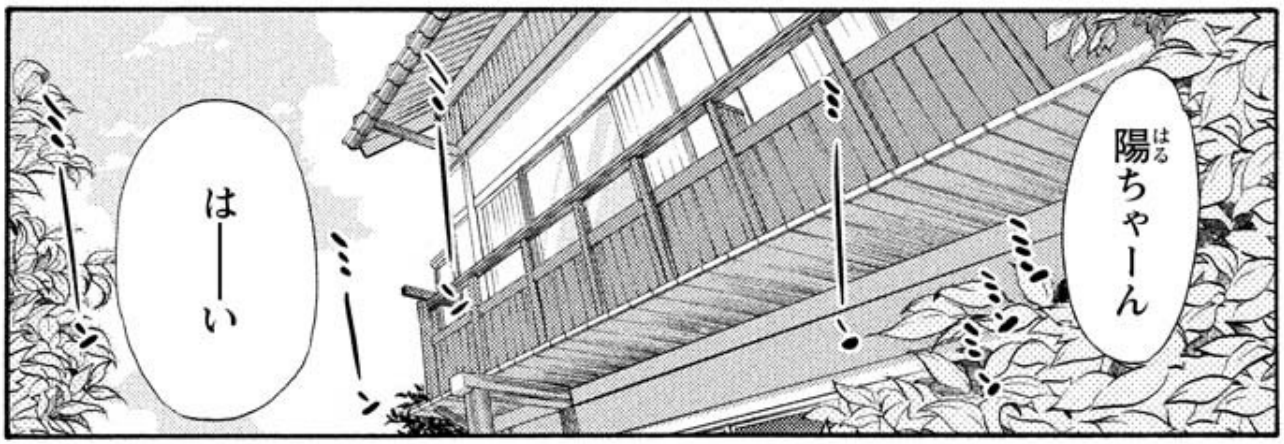
あっ……
スルーク…
はあ…ぁああんッ
あはッ
あん
あんまり
声出すなよ
聞こえるぞ
だって…
あ

あ
にしてもやっぱ青空の下でヤるのってスゲーな
あっ
は
きもちいいだろっ？
あ
んっ…うんっ
は
んんっ
あはッ…あんッ
あっ

よし…イクよっ
あ
はっ
は
うんっ
あっ

あ……
んっ
あんっ…
あっ


はっ
は
もぉ…
また中で
出しちゃって…
ほら
ふいてやるから
こっち向いて
うん……


陽ちゃーん
は――い

これなあ
鶴の間のお客さん
覚えてる？
アベックの
高橋さん
いうねんけど
あのお客さん達
浜にいてるから
持っていったげて
くれる？
お弁当？
そうそう

人多いし
ちょっと探さな
わからんかも
しれんけど――
大丈夫だよ
大体わかるから

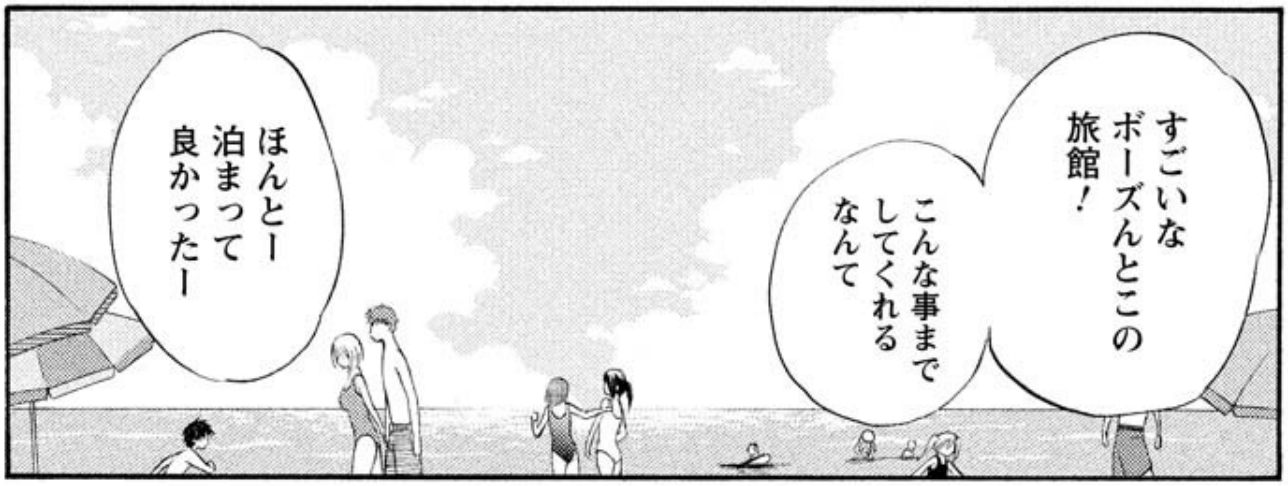
じゃあ
行ってきまーす
よろしくなぁー

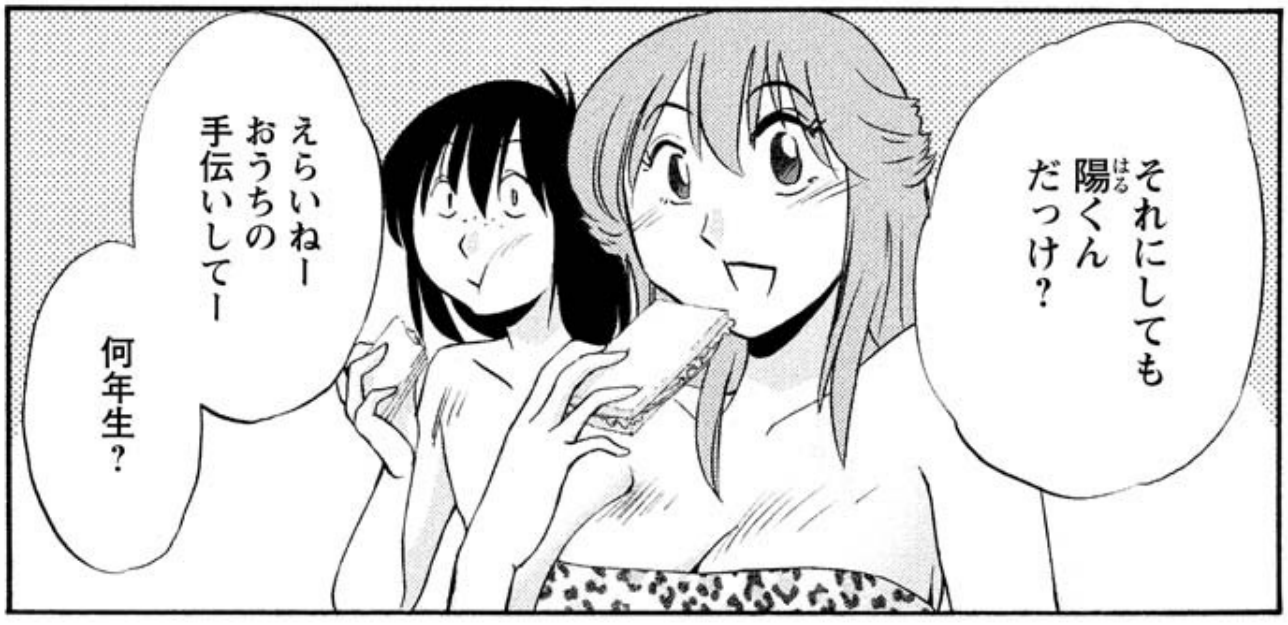
……

なんで…
〝大体わかる〟
んやろ……

タカハシさぁ――ん
いますかぁ――
相羽苑(あいばえん)でーす

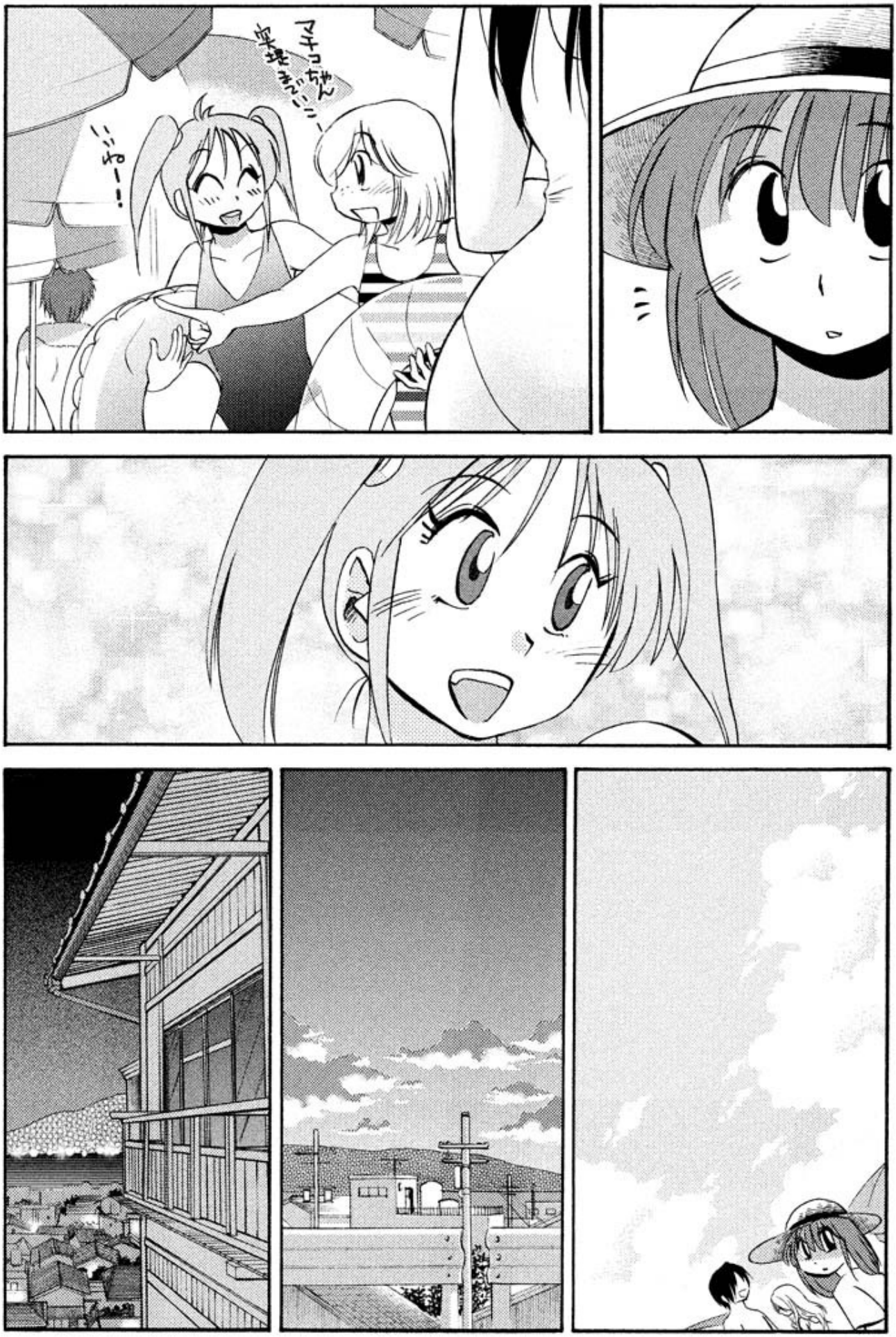
お――！
こっちこっちー
あ
うわー
すげー！
おいしそー！


すごいな
ボーズんとこの
旅館！
こんな事まで
してくれる
なんて
ほんとー
泊まって
良かったー

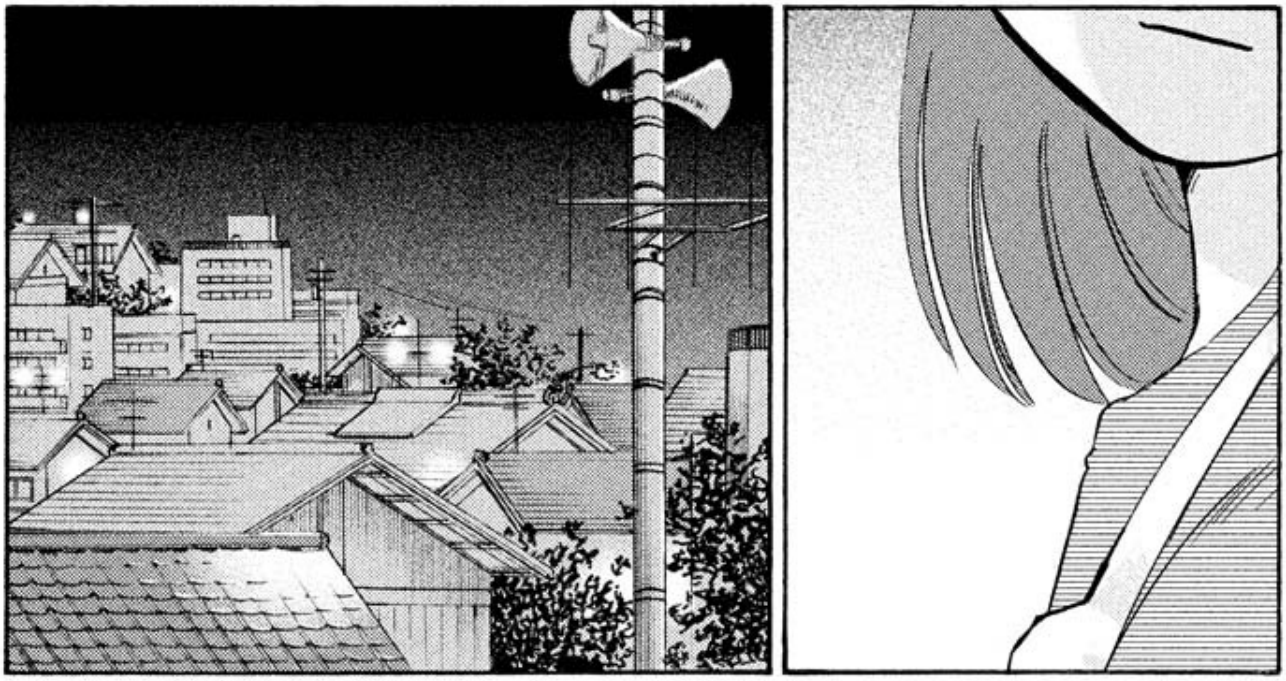

それにしても
陽(はる)くん
だっけ？
えらいねー
おうちの
手伝いしてー
何年生？

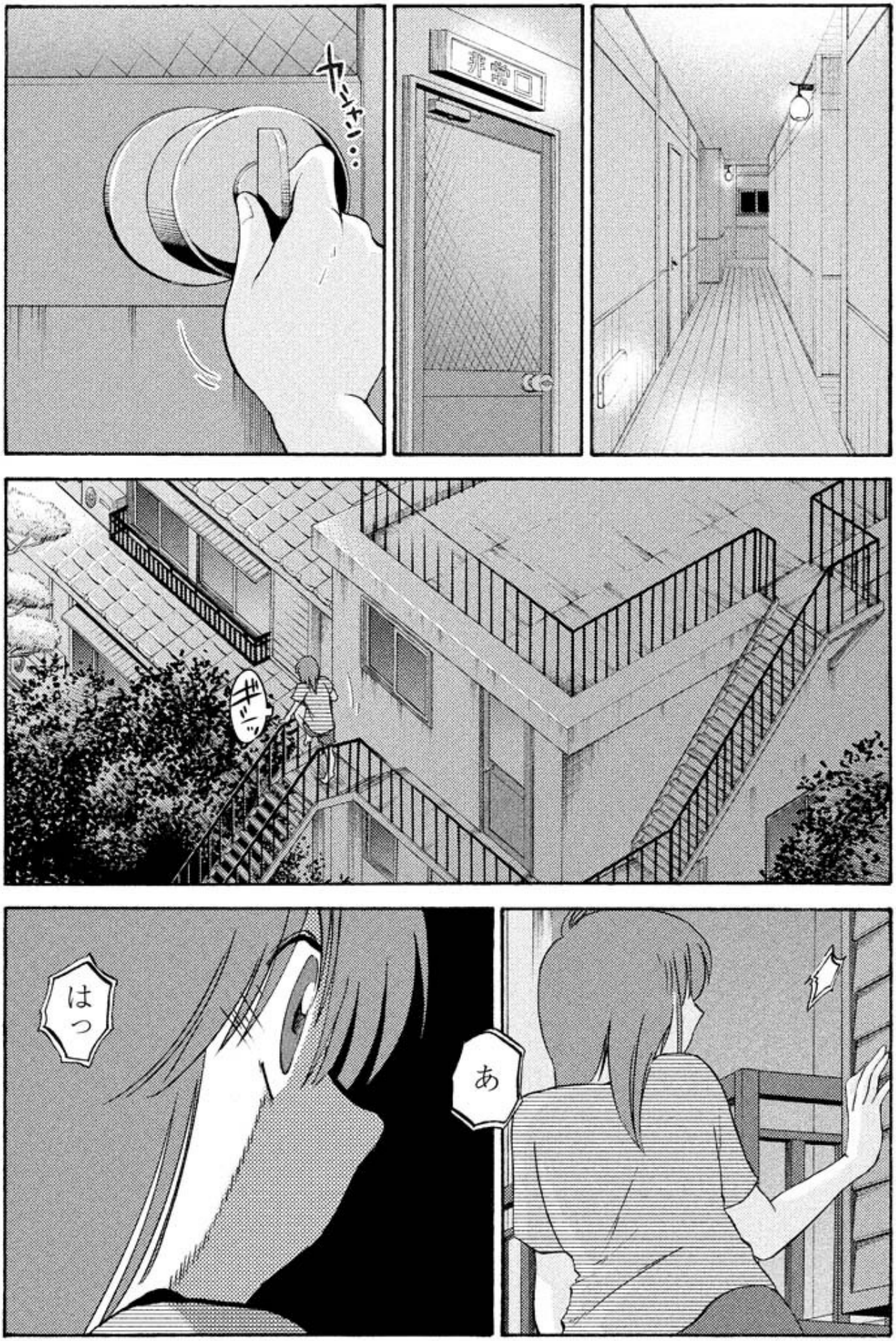
4年生
小さい時から
やってたから
そっかー
それに
ボク〝あととり〟
だから
へえーー！
すごいねー
小4にして
人生見てるよ！
ホラあんたも
見習いなさいよ！
んだよォ
俺だって
考えてるよっ
どこがよ！
親のスネ
かじってばっかでー
ぐっ

いいかげん
真面目に
働きなさいよねー
ここでする
話かよ！
あのーそれじゃ
ボク 戻るので
バスケットだけ
おねがいします
あ！
ごめんねー
ありがとね！
それにしても
カワイイ子
よねーー
まぁなー
女の子みたい
だよな
ねぇーー
こんな田舎で
純朴に
育ってるん
だろうなー
ふう


マチコちゃん
実堤までいこー
いいねー!

お土産
KI
あ
陽(はる)くーーん
お――
手伝いかー
エライなー
あ！
こんばんは！




カシャン・・
非常口
ダッ
はっ
あ

ははっ
たまにゃあいいなー
ツルツルマンコもよー

やだぁ…
だって水着きるしぃ…

ここまで
全部剃(そ)らなくても
いいだろ――

だって――

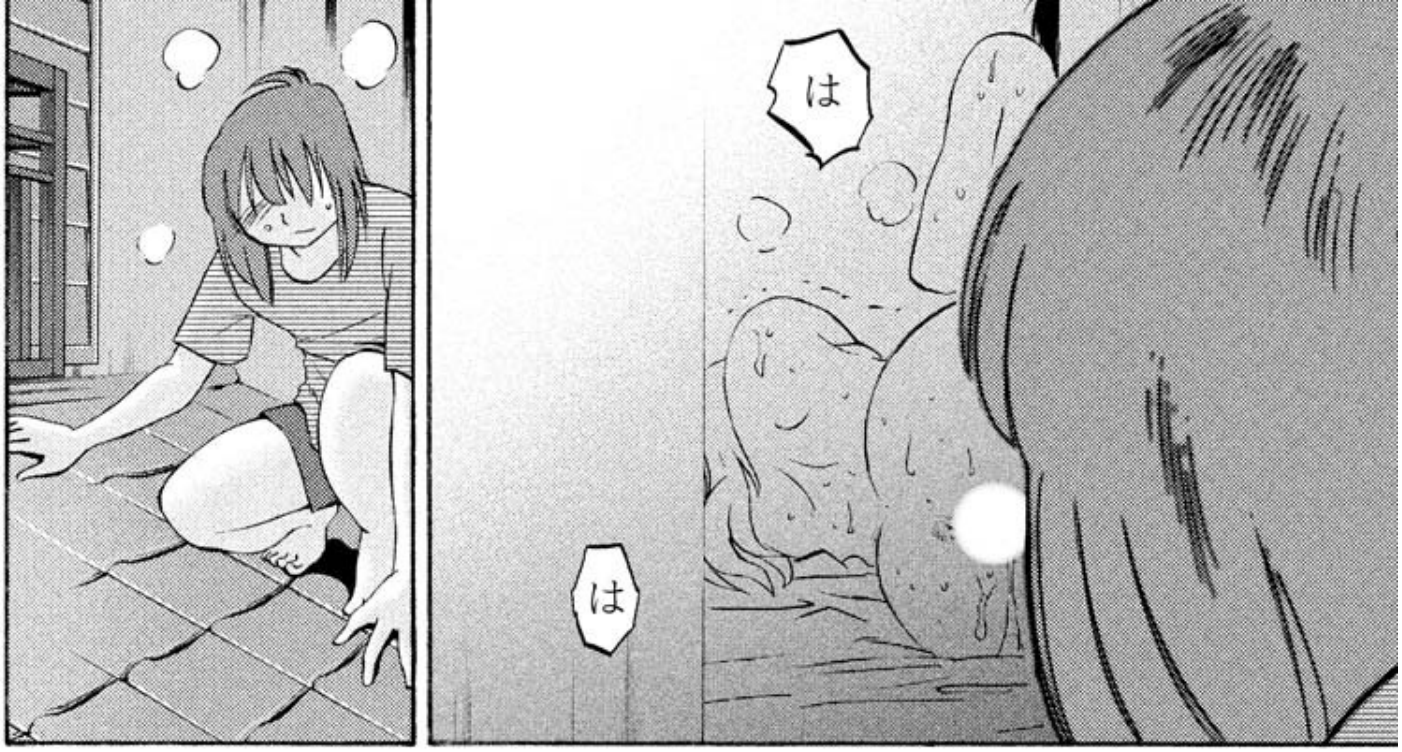
少し残すくらい
なら この方が
簡単だし……

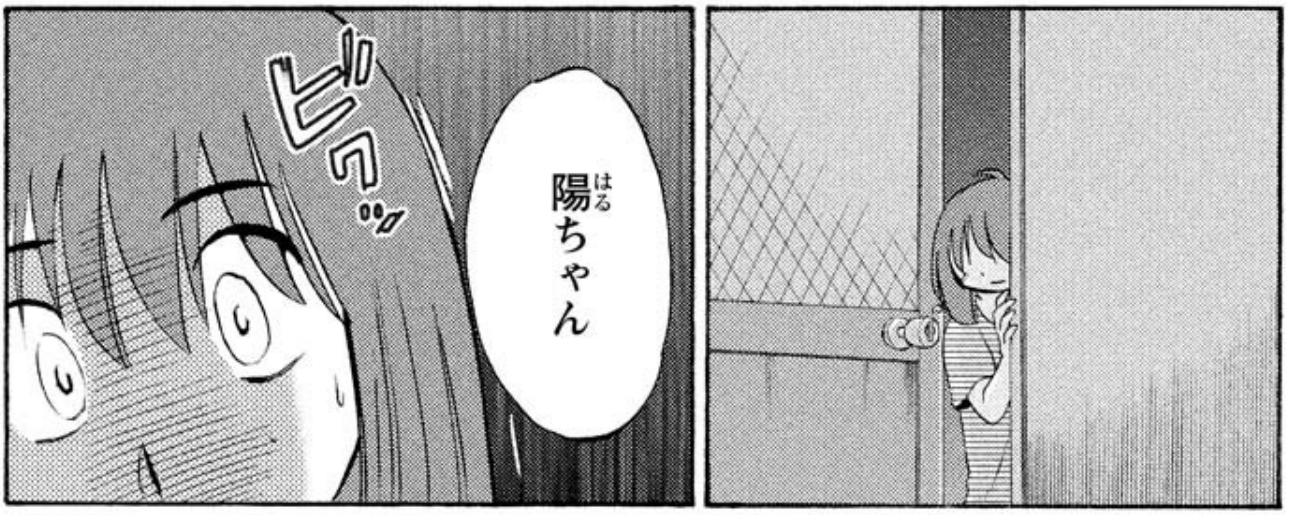
あっ
やだっ…
指ぃ…ッ

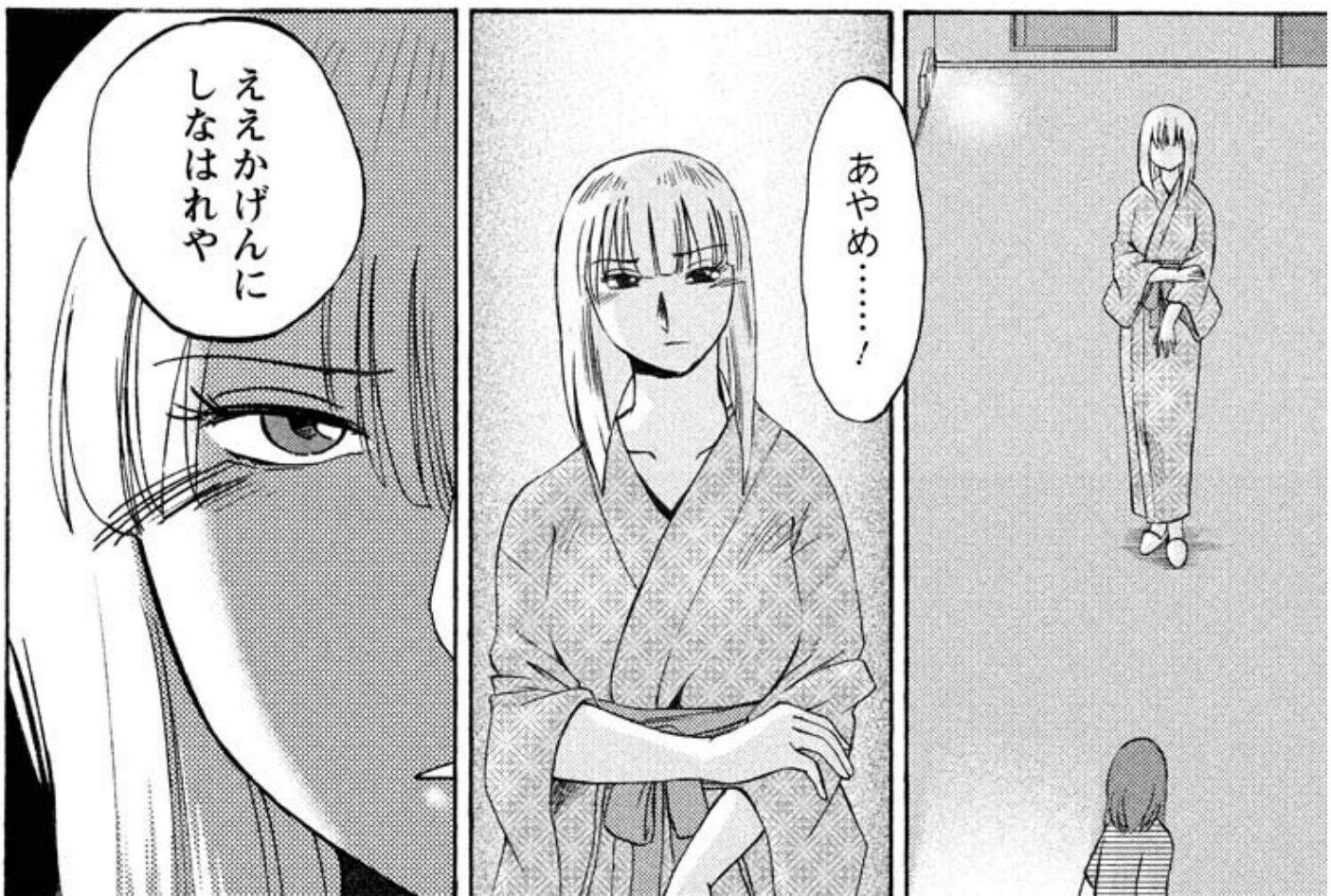
やんっ
あっ…はッ
あッ
ぐっちょぐちょじゃねェか
あッ
あッ
はやく…っ
うんっ
欲しいのか？
チ○ポ欲しいのかっ
うんっほしいぃッ

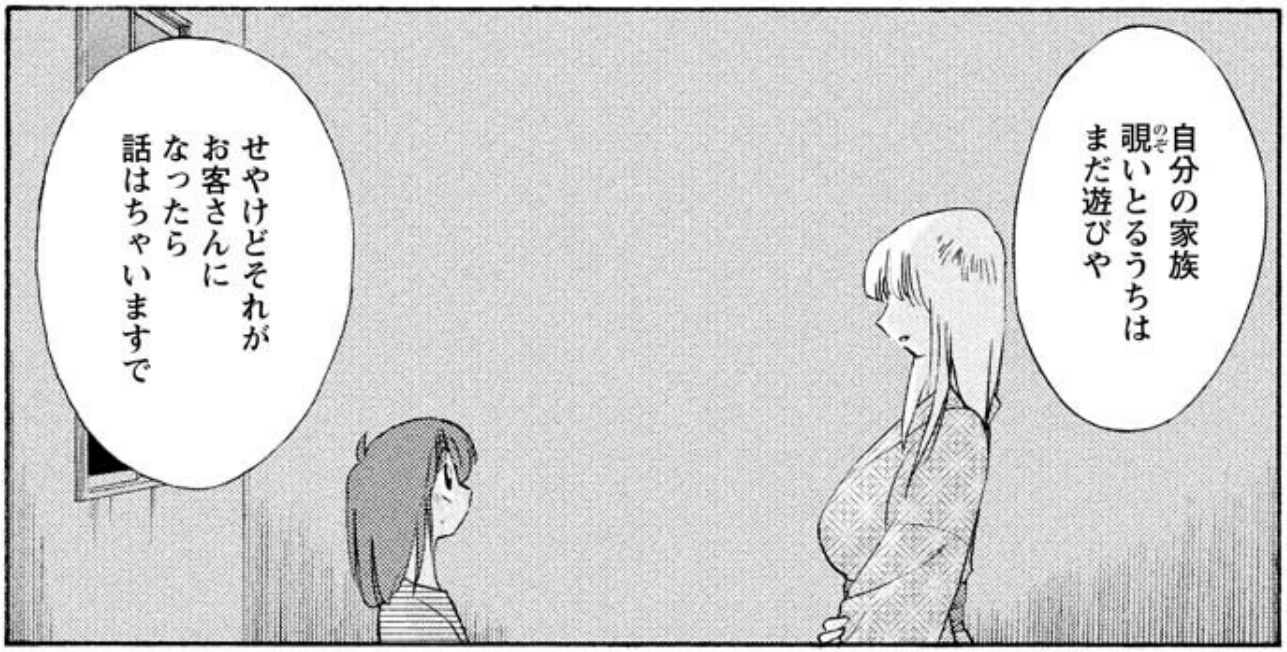
あ……ッ
んっ…
ははっ
お前 日焼け跡(あと)が
なんか
エロいなッ
あ
んっ
やんッ
あはぁんッ
すごいッ
奥…当たるッ

あっ
やん
イクッ！
イッちゃうよっ
はっ
オレもっ
中でイクぞっ
んっ
あ
やんっ
あ
ああっ
は
はぁんッ
あっ


は
は


ビクッ
陽(はる)ちゃん


ええかげんにしなはれや
あやめ……！


自分の家族
覗いとるうちは
まだ遊びや
せやけどそれが
お客さんに
なったら
話はちゃいますで

犯罪
やからな

たぶん
あやめがこんなに
僕を叱ったのは
このときが
初めてだった
度が過ぎたら
あやめも……
黙ってませんぇ
非常口
だから翌朝
あやめと
顔を会わすのは
気が重かった

けれど――
あぁ陽(はる)ちゃん
おはよう
ごはん
出来てるよ
お食べなー
海苔(のり)たべる？
ううん
いい
う……うん

機嫌……いい？
いただきまーす
そういえば
さっき連絡
きましてな
？
カチャ
カチャ

帰ってきはるって
陽ちゃんの
お父さん…
よかったなぁ
2年ぶりに
お父さんに
会えますなぁ

第5話◎END

◆表紙絵のラフ。

こんなかんじでネーム用紙に書いてあったらくがき。

でも表紙案がまとまらず。
それに話の性質上あやめなんかの
水着は出そうにないので描いてみました。

この漫画の１巻の時代背景は
８０年代。その頃の水着は
こんなワンピースのハイレグでした。

その時代を知らないアシの子たちに
話すと完全にネタだと思われるのが
悔しい・・・。
「あんなハイレグ普通の人が
　着るわけないじゃないですか～」

着てたんだよ！

ひろがお

Presented by
TSUYATSUYA

第6話 映 うつし

陽ちゃーん
お父さん
お帰りに
なったでー！

ダッ
お父さん!!
陽！
元気そうだな
――！
でかくなったか？
なったよ！
お父さん
ヒゲはえた！
はえた
はえたー
ハハハ

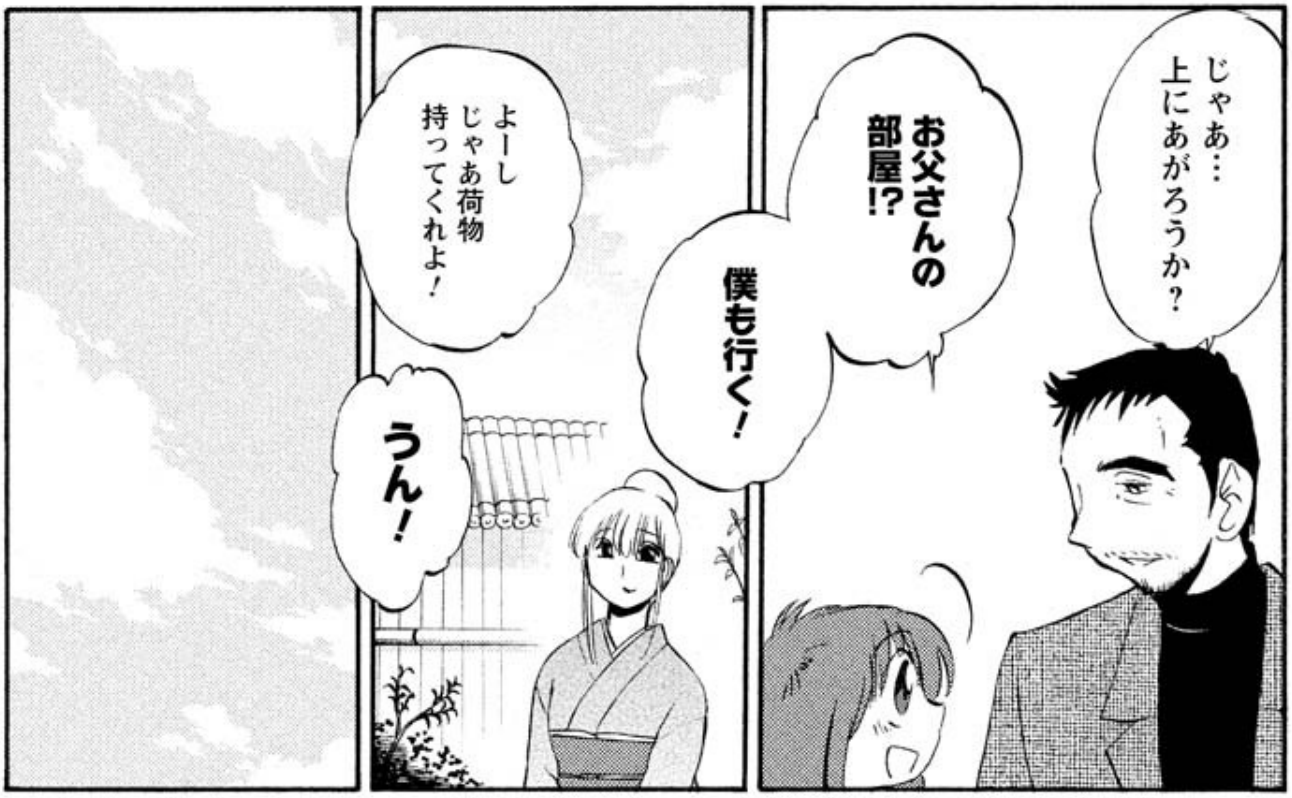
あなた
雅美(まさみ)！
やあ
お前も
元気そうで
何よりだ
ええ
旅館も
何事もなく
ね

今回は
どちらに
いらしたの？
パリから一度
手紙をよこした
きりなんですもの

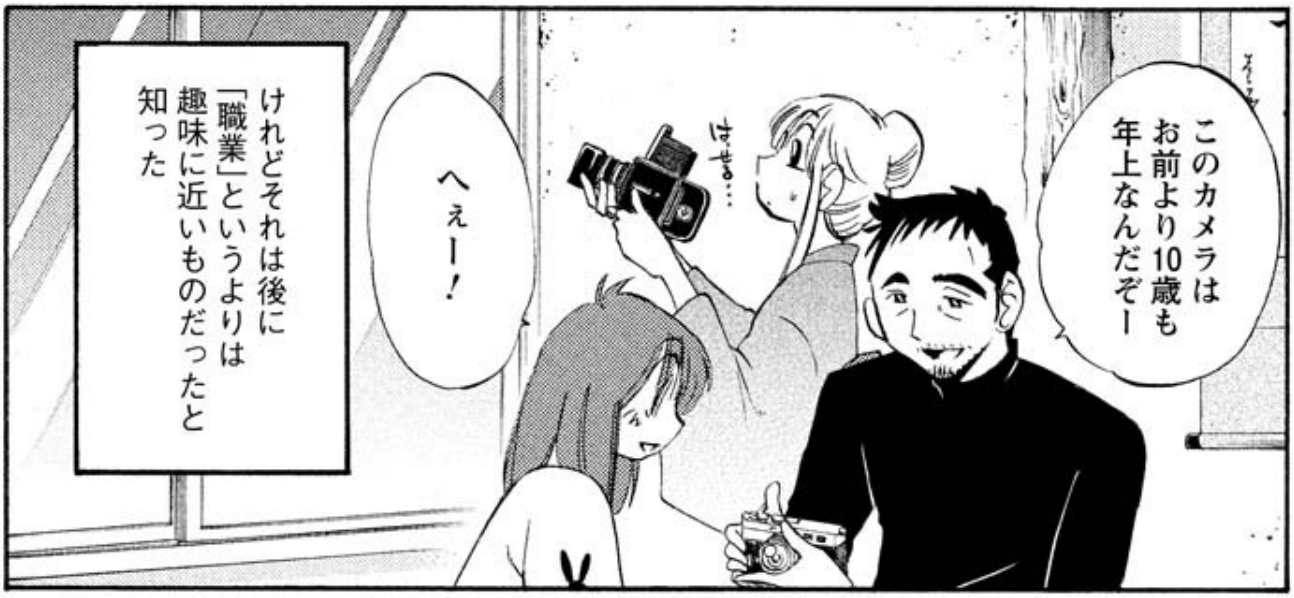
いやいや その後も
ずっとフランスだよ
もっとも
ずっと田舎町だがね
ブドウ農家に
やっかいになって
……
…その農家で
また〝家族〟を
作ったり？

――！
奥さま…！
……
？
――ごめんなさい
そうね
久しぶりに
帰ってきたんだし

まあ
ゆっくりして
くださいな
あの部屋も
以前のまま
綺麗にして
くれてるし
……
あやめがね


じゃあ…
上にあがろうか？
お父さんの
部屋!?
僕も行く！
よーし
じゃあ荷物
持ってくれよ！
うん！

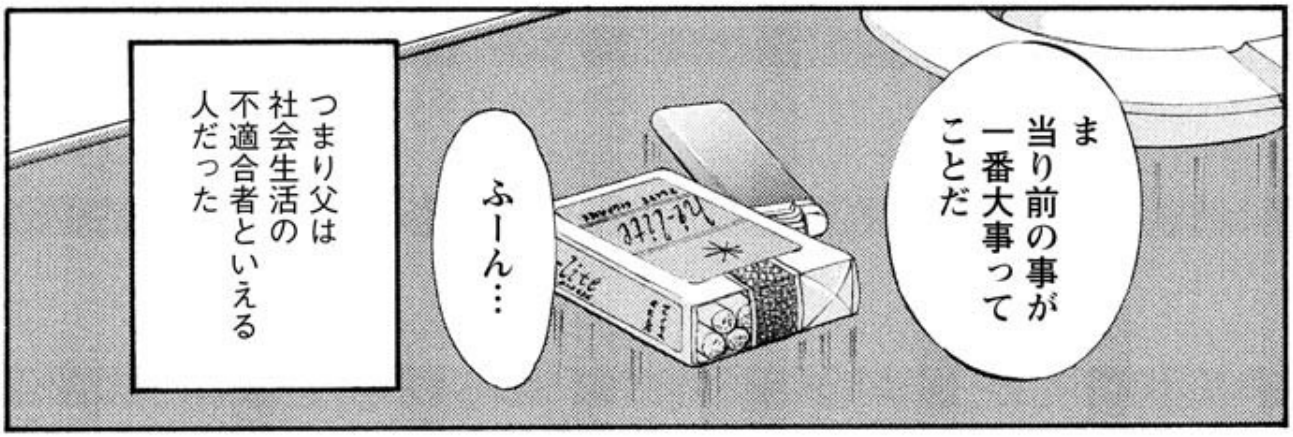
お――
久しぶりだなぁー
この眺めも
お父さん
ねー！ ねー！
父は
カメラマンだ
お父さんの
カメラ
これ？
おー
それだ
それだ
陽ちゃん…
それ高いから
気をつけて…
へぇー
重いねー
そっか
――？
年中
世界中を旅して
写真を撮っていて
年に一度か二度
こうして
帰ってくる
他のは
持ってか
ないの？
そーだなー
時々使うけど
ほとんどコレ
ばっかだなぁ

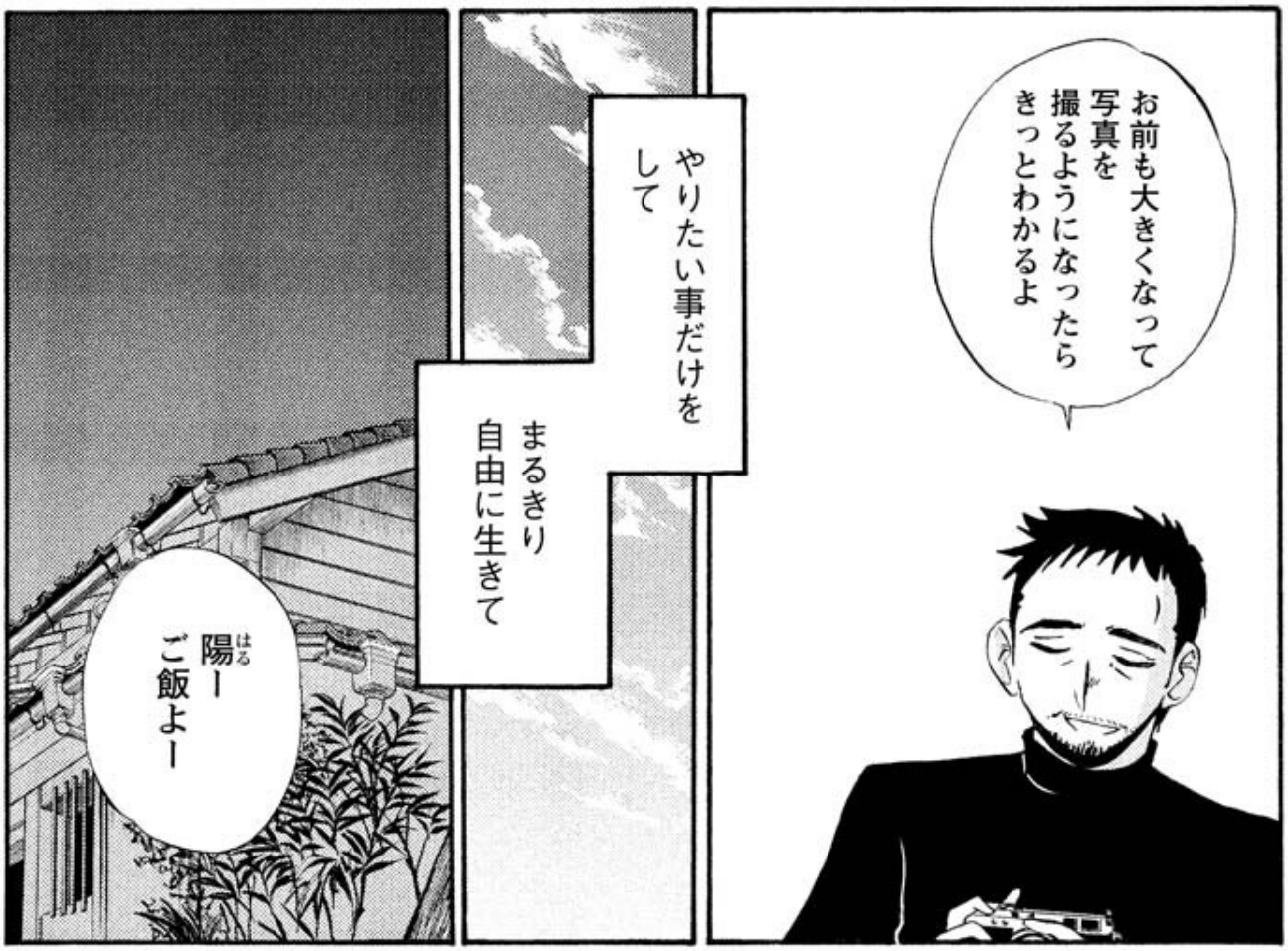

このカメラは
お前より10歳も
年上なんだぞー
へぇー！
けれどそれは後に
「職業」というよりは
趣味に近いものだったと
知った

父の撮った写真は
何度か
大きな賞をもらって
うまく写真
撮れる方法って
ある？
〝うまく〟かー
どうかなー
そのおかげも
あってか
年に数回の個展では
毎回いくつかの
プリントが売れて

三冊ほどの写真集も
出した――が
それで生活費などと
いえる程の金が
得られるハズもなく
でも
写真を撮る
「一番大事なこと」は
簡単でなあ
なに？
〝その時
その場所にいて
フィルムの入った
カメラを持ってる
こと〟だ

あたりまえじゃーん
ハハハハだなー


ま当り前の事が一番大事ってことだ
ふーん…
つまり父は社会生活の不適合者といえる人だった


お前も大きくなって写真を撮るようになったらきっとわかるよ
やりたい事だけをして
まるきり自由に生きて
陽(はる)ーご飯よー

あれ？
あやめは？
……
あの人の食事を
持って行ったわ
お部屋で
食べるん
ですってよ
まぁ あやめが
面倒見てくれるんで
助かるわ
さ
冷めないうちに
食べなさいな
カレー
好きでしょ
うん…
だから…
実質 生活を…
——この旅館を
支えている母は
ねー 今度は
お父さんいつまで
いるのかな？
さあ…
いつまで
だろうねェ…
……
父を疎(うと)ましく
感じていたのかも
しれない…

ねー
お父さーん
んー？
どうして
みんなと一緒に
ご飯
食べないの？
食べてるだろー
朝も昼も
夜だよう！
んー
お酒飲んで
ゆっくり静かに
食べたいんだよ
あやめも
ー？
あー なんだ
不満はそれかぁー

陽(はる)は
あやめ
好きか？
うん
お母さんと
どっちが好きだ？
どっちも
同じくらい
好きだよ
きまってん
じゃん！
ははっ
そっか――
でも いっつも
あやめとばっかり
一緒なんだろ？
うーん
だってお母さん
忙しそうだしー
今はなあ あやめは
父さんの世話
してくれてるから

逆に陽(はる)は
お母さんとたくさん
一緒にいてあげな
お母さんも
きっと
うれしいぞ
カシュ
そうかなー？
うれしいかなー
そりゃそうさ
カシュッ
よし
陽(はる)
なんか
ポーズとれ！
かめはめ
ハーッ
おッ
いいなー！
カシュッ
んで
何だそれ!?
えー…

ジー
あやめは今日も
お父さんの部屋に
行ったきりだった…

何で…
そんなにお父さんの所ばっかり…
ギシッ
僕はあやめともお父さんとも一緒にいたいのに…
ー!
ドクンッ
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
はっ
ドクン
ドクン
ドクン

ん
んっ
クチュ・・・
チュプッ
んふ
んんっ
クチュ・・・
この時 僕は
どうして
気付かなかったのか――
ん

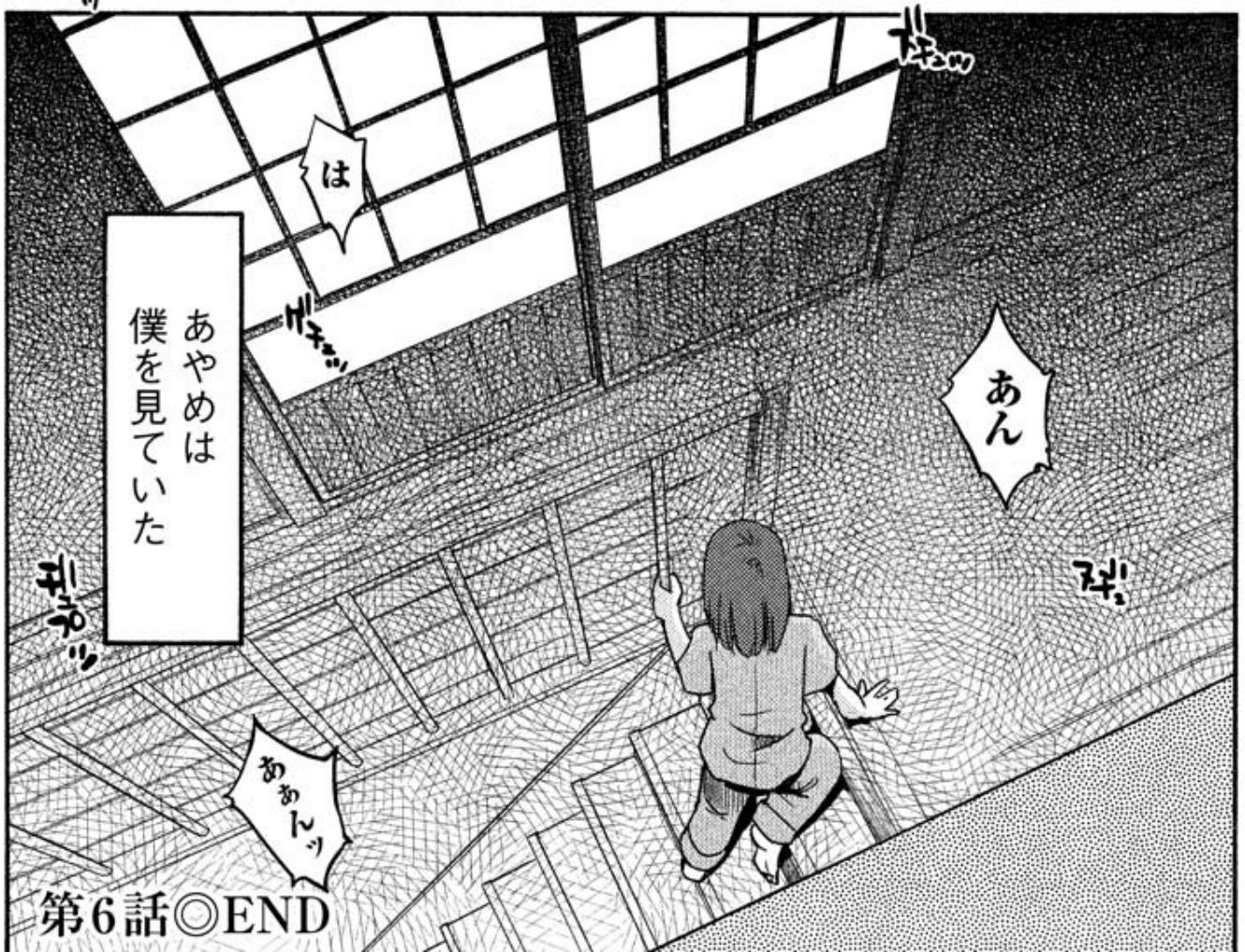
ふぁッ…
あはッ…
チュプ…
ギュプ…
ん…
チュルッ
あふ
ギュプ…
いるわけ
んっ…あッ
チュルッ
あら
しません…ッ
クチュッ
そうか…
あやめはまだ
恋人もいないのか…

うちは…
クチュッ
チュッ…
チュプ
…んんっ
んっ
はふッ
はっ
あッ
ぐぐ…ッ
じゅぽんっ
んむぉッ…
ぶはっ

ずっと…
ずっと清春さんだけを待ってたんです…ッ
うち…
抱かれとぉて
抱かれとぉて…ッ
――うん
はっ
はっ
でも本当にいいんだよ
僕なんか待ってなくたって……
あッ
あはぁッ
あやめもそろそろいい齢だ

やっ…
はっ
いや…ッ
いやですぅ
…ッ
チュッ
結婚も
考えて
いかないと…
ゲチュッ
くちゅっ
あはッ
清春さんがっ
清春さんが
いいのォッ
ズプッ
あッ
はや…
はやくうッ
ゲチュッ
は
わかったよ
あやめ…
はっ
チュッ
あはっ
——夜…
男女がわざわざ
同じ部屋にいること
あっ
それはつまり
・・・・・
そういうことだと

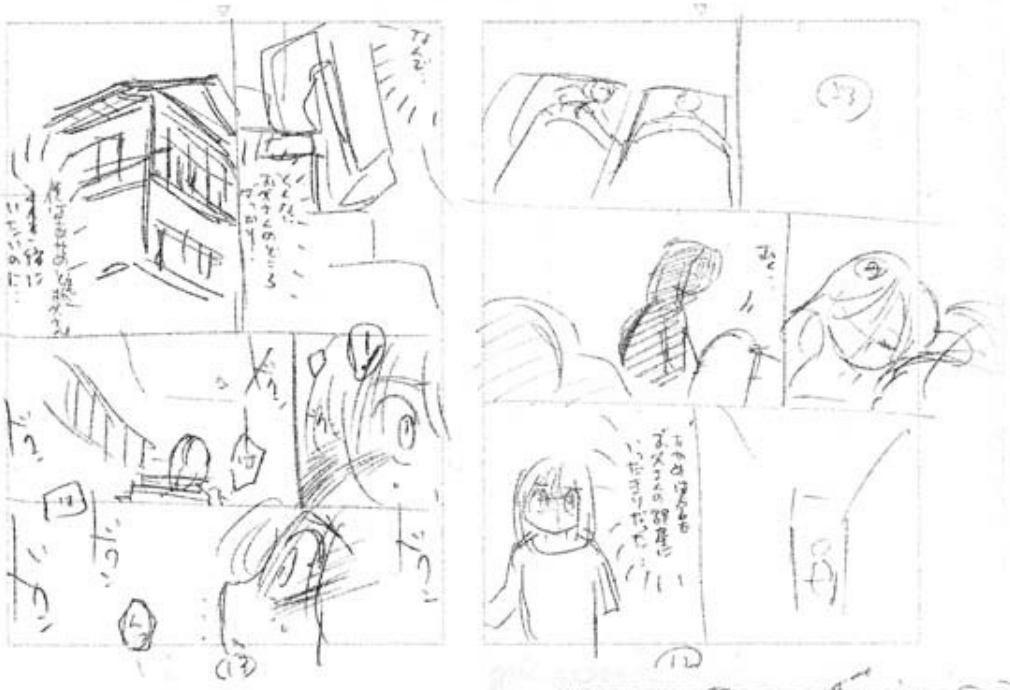
今まで
さんざん見てきて
……ッ
あ——……ッ!!
知っていたはず
なのに…
ひあっ
ズッ
ズチュッ
清春
さぁんッ♡
でも
あやめ…が
こんな声…
はっ
そんな僕を
知っている
あやめは
あはんっ
はあっ
ズチュッ
いいっ…
清春
さん…ッ
ズプッ



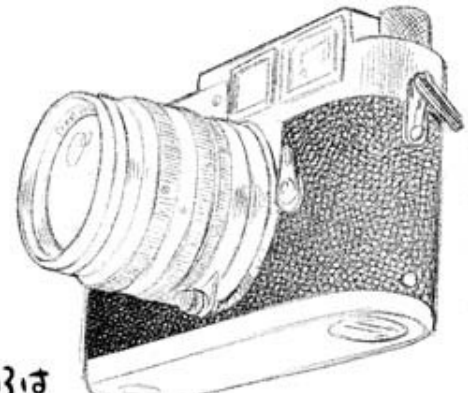
第6話◎END

◆建物やお気に入りのコマとか。

陽の旅館の向かって左側にある純和風の四階部分。
そこはお父さんの部屋のみがあって普段は入ることのない場所として設定してます。
指示出すときなんかは“天守閣”と呼んでたり(笑)。



お父さんの部屋にはカメラが数台あるのでしょう。
愛用してるのはライカM３、レンズはズマリット50mm。
これは早い話作者の使ってるものを参考にしてます。
シリアルが77万番台なので1955年製。
作中で言ってるように陽君より11歳年上。
これからも登場するんですかね。

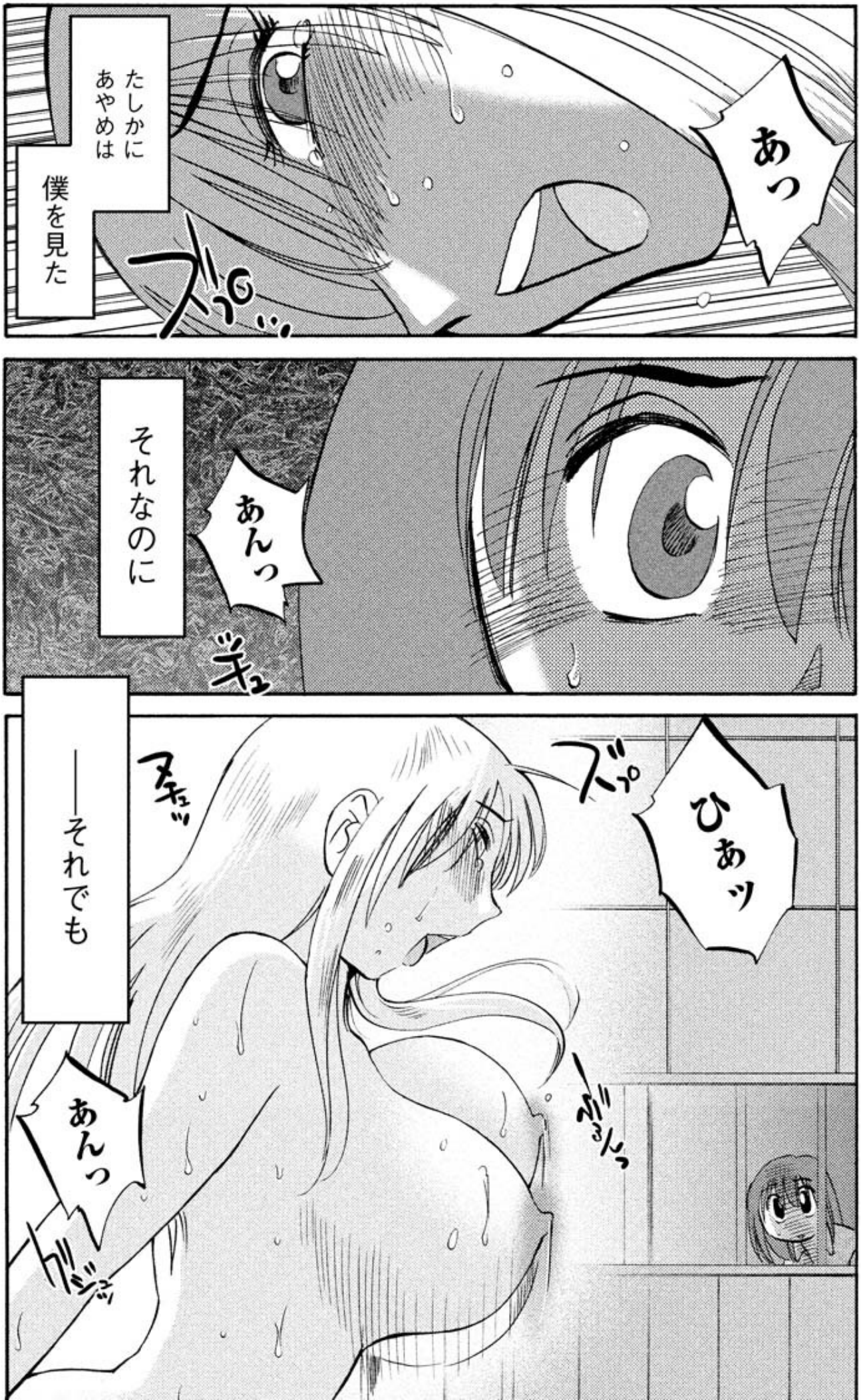


ちなみにウチのM3は
この77万台の初期型と
86万台の中期(?)の共にダブルストローク

第６話でお父さんが“写真を撮る上で一番大事なこと”等を話してますがそれについては
CAMERAmagazine(エイムック)13号に掲載された会田法行さんのコラムに感じ入りまして
どうにも言わせたくなって引用させて頂きました。ありがとうございました。
正確には『“Be there with f8”絞りをF8にしてその場所にいること』
ひいては『その瞬間、その場所にいてカメラを構えなくては、良い写真は撮れない』という言葉でした。

ひろがお

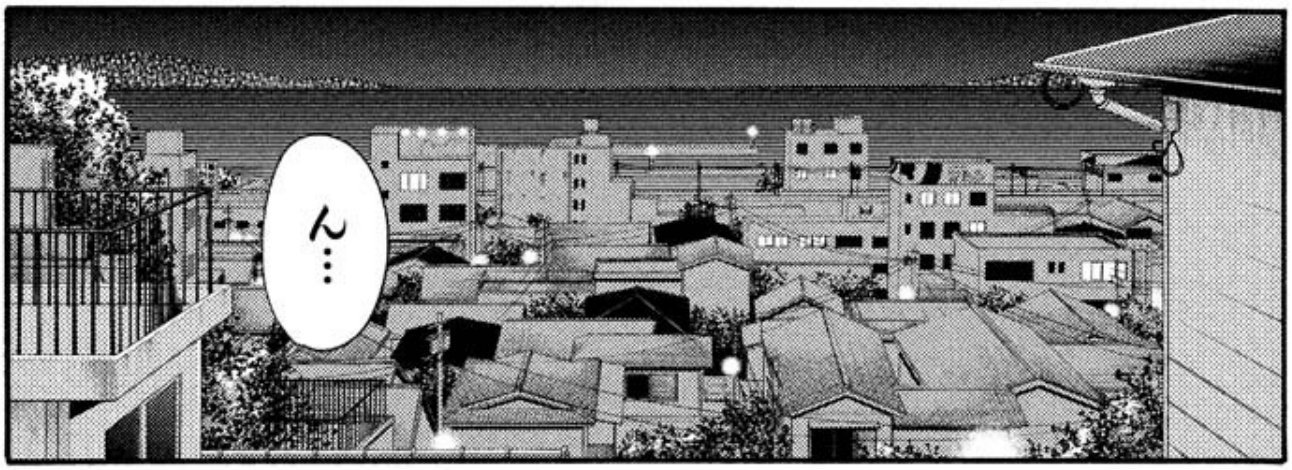
Presented by
TSUYATSUYA


あっ
たしかにあやめは
僕を見た
ズプッ
あんっ
それなのに
ヂュ
ひぁッ
ズプ
ヌチュッ
——それでも
ぶるんっ
あんっ
グジュッ

第7話 虚 うつろ
声を上げ続けた…
あ――…ッ
あはぁッ

もっと…
あん
たくさんッ
もっと
奥ッ
清春さんっ
たくさん…
してェッ
はっ
ほしいのッ
たくさんっ
あッ

あーッ
ひッ
んっ
あっ
そおっ
奥 ええのッ
はッ
はッ
突いてっ…
うちの
おめ○…もっと
…っ
あっ
ムチャムチャに
してッ
んっ


ん…

は…
んふっ

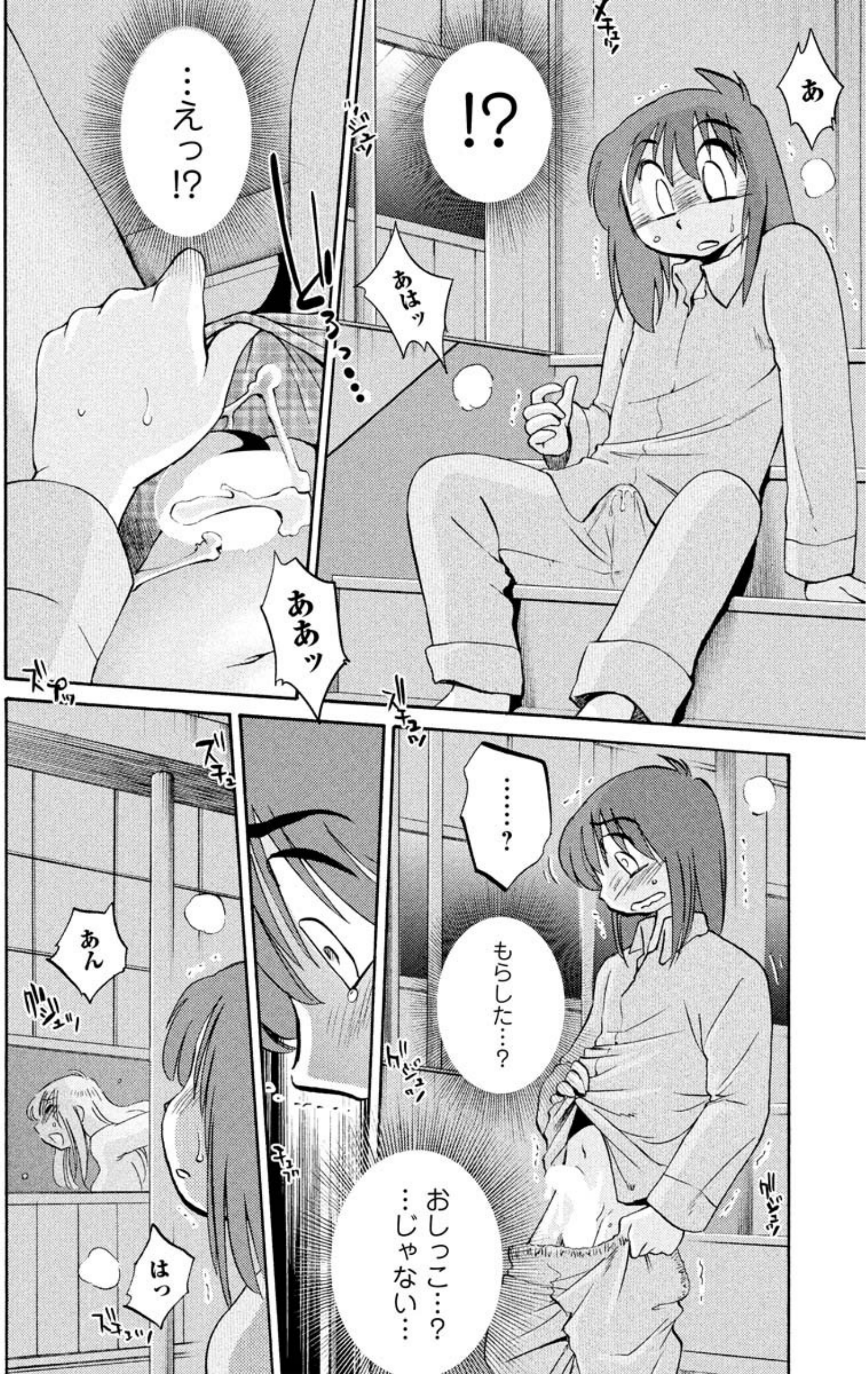
ははは…
あやめ…
今夜も
寝かせない
つもりか？
ん…んっ

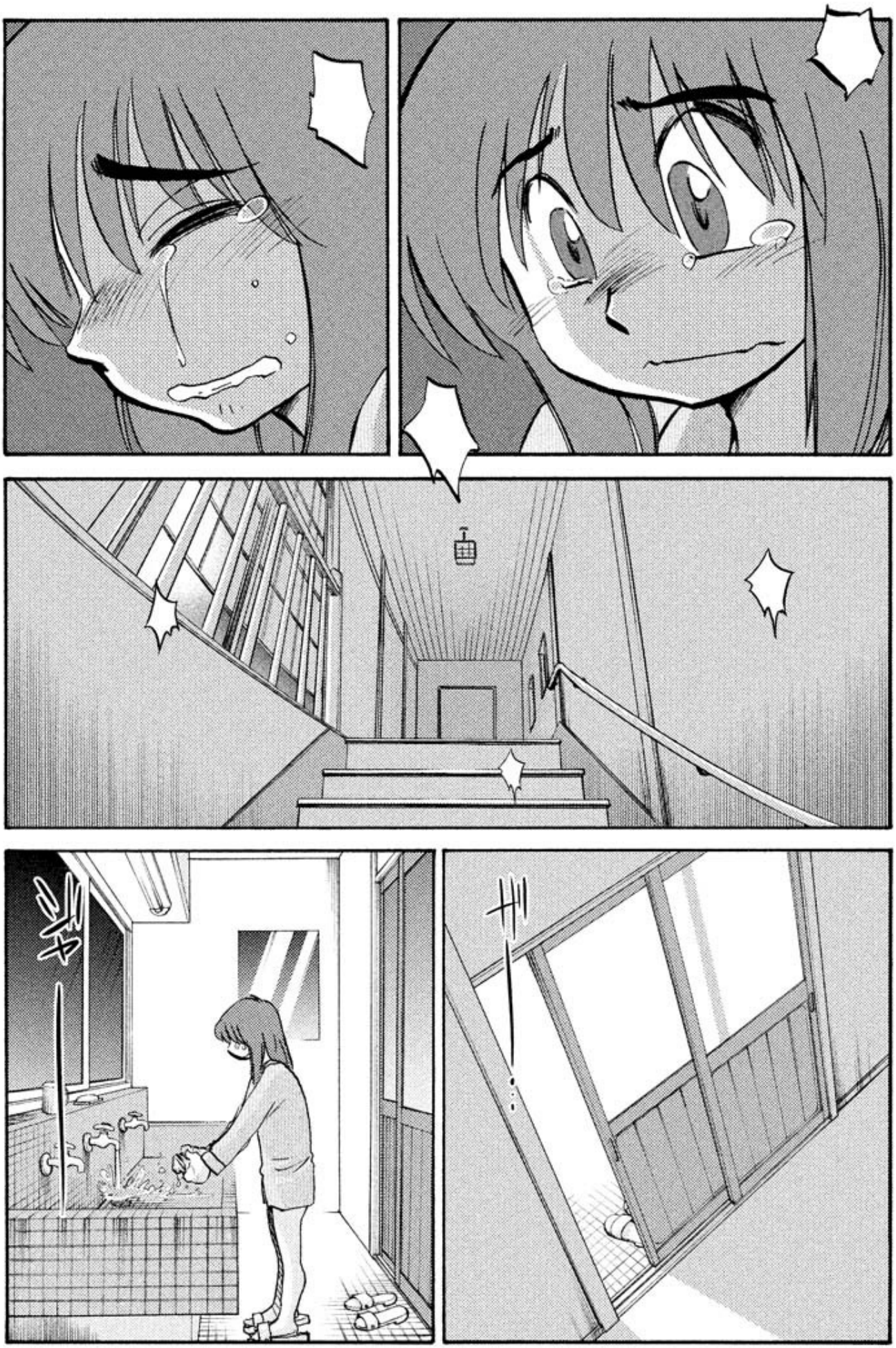
そんなこと
あらしまへん…
ん…
けど…
けど？
うれしゅうて
……
今日は特に
……
清春さんのが
……
欲しいのん…
はっ
はっ
はぁ…

ズ…プッ…
ーーぁ
ああああッ
ジュプッ
グジュッ
ヌチュッ
見られてるのに…
ズプ
ヌチッ
ひぁッ
グチュ
こんなに
いいッ…
ズプッ

あッ
あやめは…
エッチな子だな
……
あんっ
ほんとに…
うん
そうっ…そうなんっ
うち…
エッチなんっ…
だから…ッ
我慢
できへんもんっ
オナニーも
してたのか？
うんっ…
してたっ

毎日…ッ
毎晩
してたんッ…
されてるのん
思いながら
……
清春さんに
はっ
ッ!?

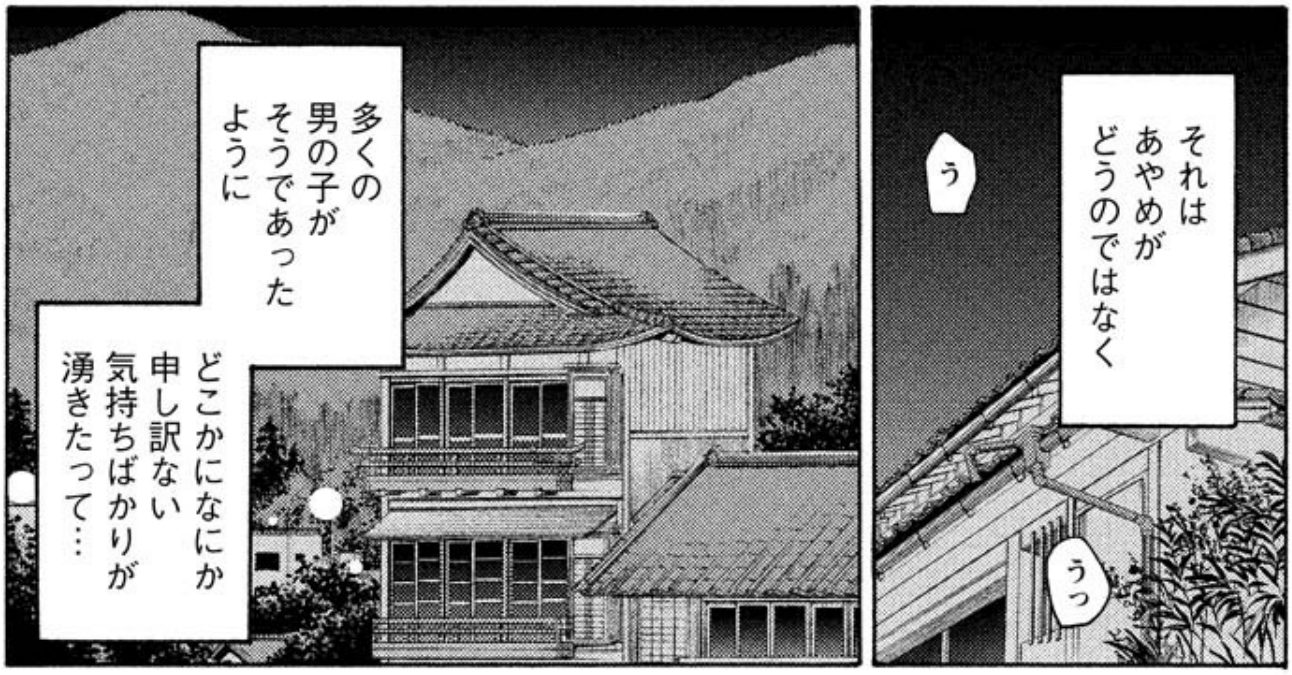

あ
!?
…えっ!?
あはッ
ああッ
……?
もらした…?
おしっこ…?
…じゃない…
あん
はっ



精通だった
うっ
ウッ…

このときの僕が
それをわかってたのか
どうなのか
覚えがない
う…
ただ
くっ

とにかく
なにか
うぐっ
えっ
みじめな
気持ちだったのを
覚えている


それは
あやめが
どうのではなく
う
うっ
多くの
男の子が
そうであった
ように
どこかになにか
申し訳ない
気持ちばかりが
湧きたって…

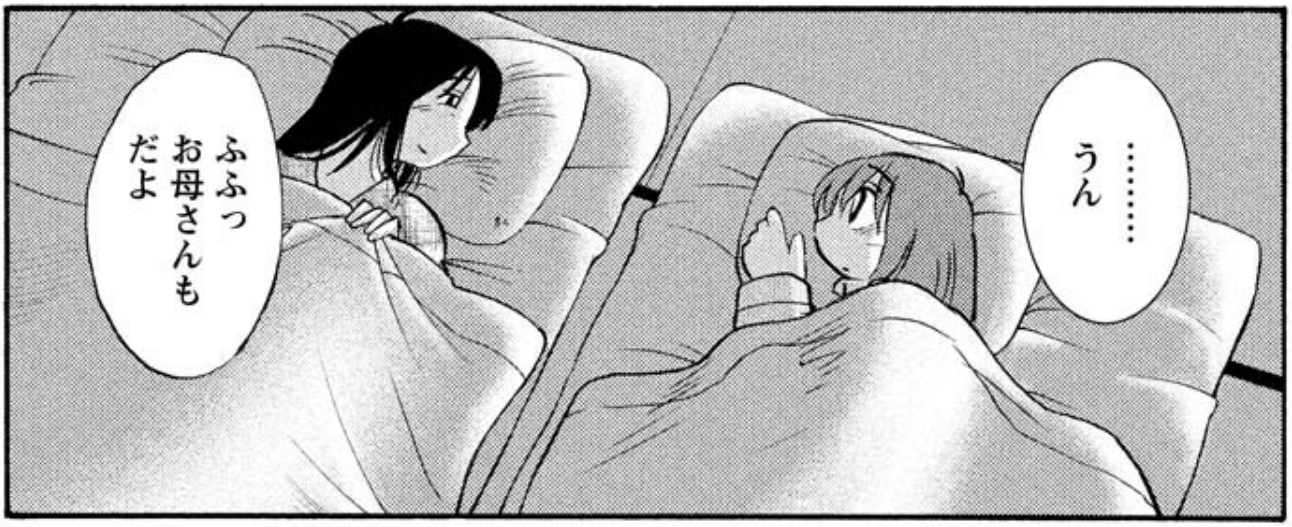
陽(はる)——

おーここに
いたのかー
ほら
約束してたろ
キャッチボール
やろう
陽(はる)!!

——ん？
どした？
——いい
やらないっ
えっ
おい…！
母さんだって
そうだった
あんなことを
しても次の日には
普通のカオを
して…
あやめも今朝は
いつもどおりの
あやめで…
お父さんも
……
大人って…

翌晩 僕はもう
あの部屋に
近づかなかった
コッ
コッ
コッ
コッ
コッ
コッ
コッ
モヤモヤ
する…
今日もまた
…あやめは
あそこで…

眠れないの…？
陽（はる）


……うん
ふふっお母さんもだよ

コッ
お母さんと一緒に寝るかい…？
コッ
コッ
コッ

あし…
またはさんで
いい？
ああ
いいよ
あは…
きもちいい
……
きもち…いいな…
ゲッ…
！？

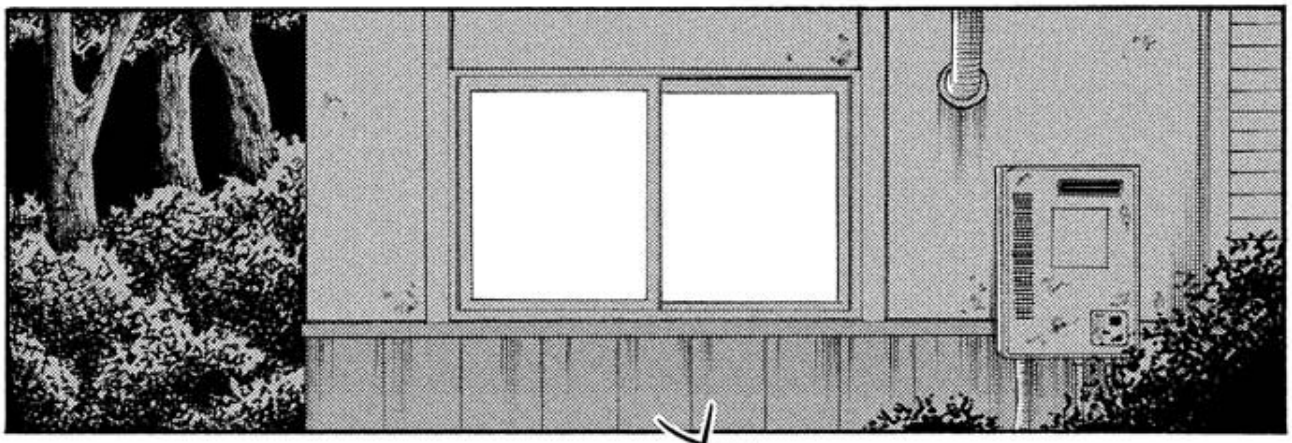
ふとももの
やわらかさが
夕べの
あやめの
肌色と重なる

この直接の刺激が
もたらしたのか
それとも
夕べの
残像か——
あ…
は
お母さん…
僕…
ぺろっ…
陽(はる)…？
あっ
あ…
僕のそれは再び——

は…
――ッ…
は
はっ
え…
あ…

はっ
うっ…はっ
ぼ…く
う…
うッ…

……陽(はる)…
きもちわるいでしょ
…パンツ
え…
お風呂いって
キレイに
しようか



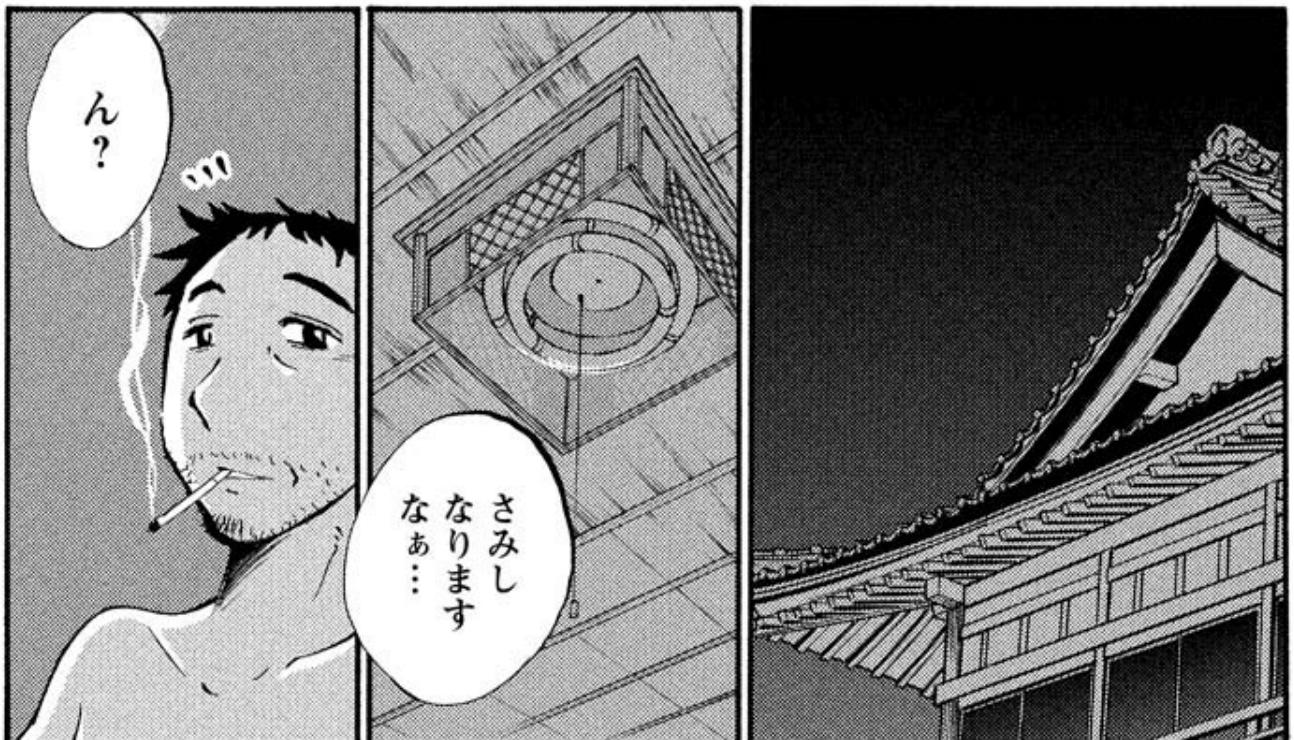
ぴちゃん…
陽も
大人になって
いくんだね

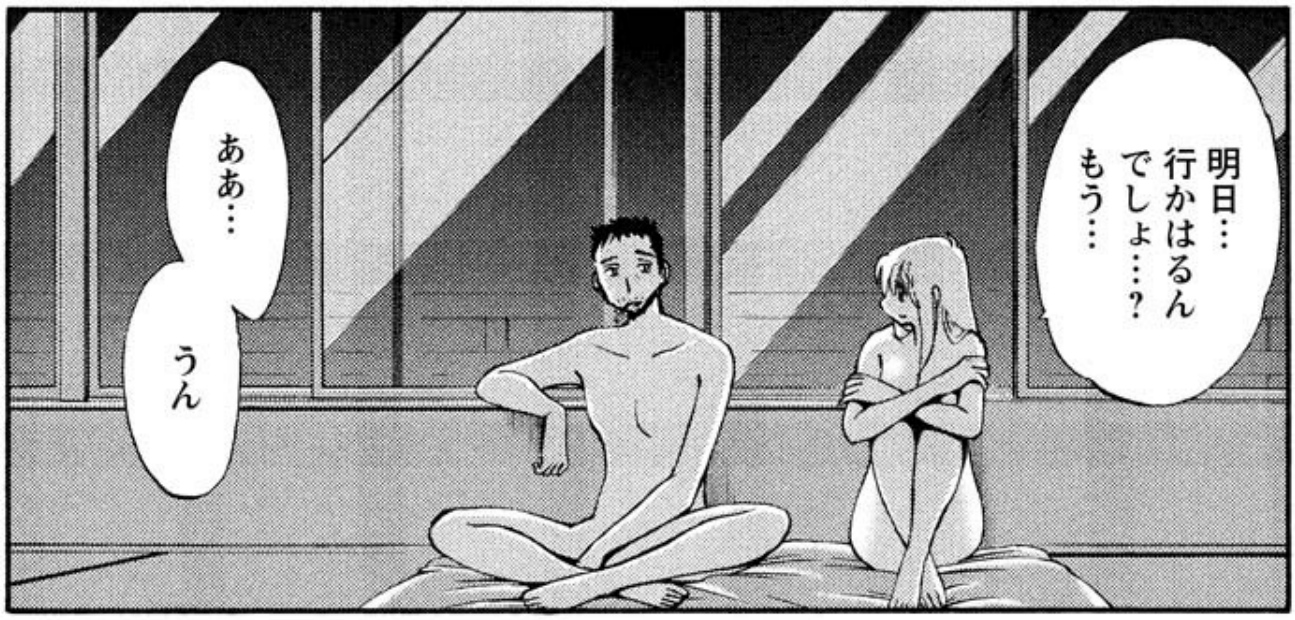
お母さんに
身体を
洗ってもらって
後ろめたさが
少し…少しだけ
やわらいだ気がした
第7話◎END

第8話 分かち

は
ピチュッ
あ
ギュプ
ズプッ
ツギュッ
んっ
ズチュッ
ズッ
あッ
あん
ギュプ
ズプッ
はっ
ゲチュッ
ギュプ
ん
ツチュッ
チュ・・・
ん

あかんっ
うち…
またっ…
あ…
ズッ
ビクッ
ズチュッ
またイクッ
イッちゃう
グチュ
ビクンッ
あーーッ
あ
は…
あ…


ん？
さみし
なります
なぁ…

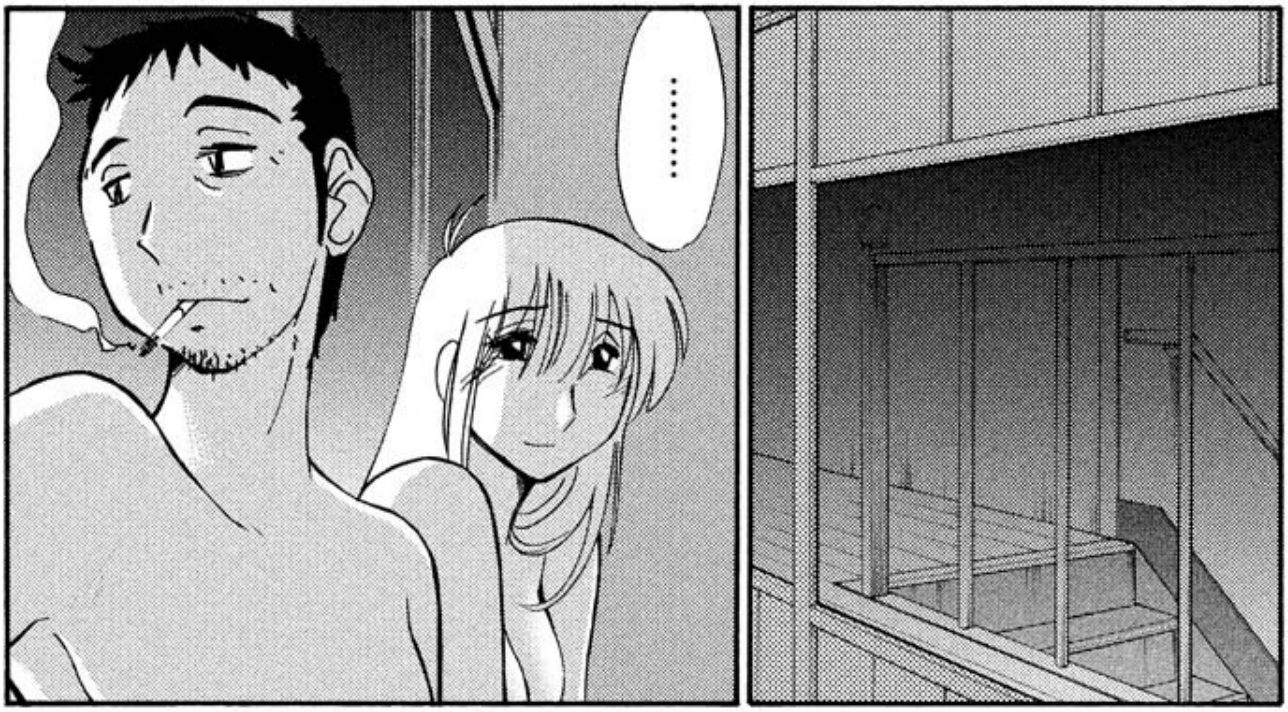

明日…
行かはるん
でしょ…？
もう…
ああ…
うん

今度は
どこへ？

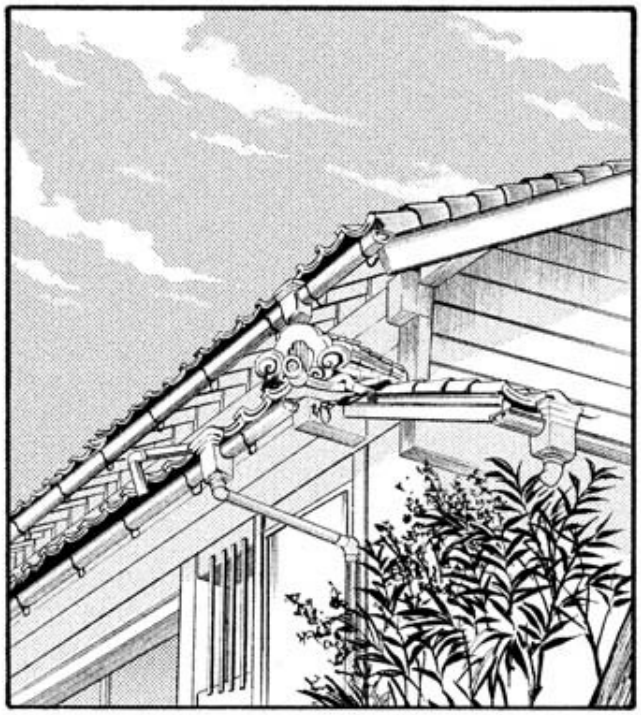
アジアかなァ
ミャンマーとか
……

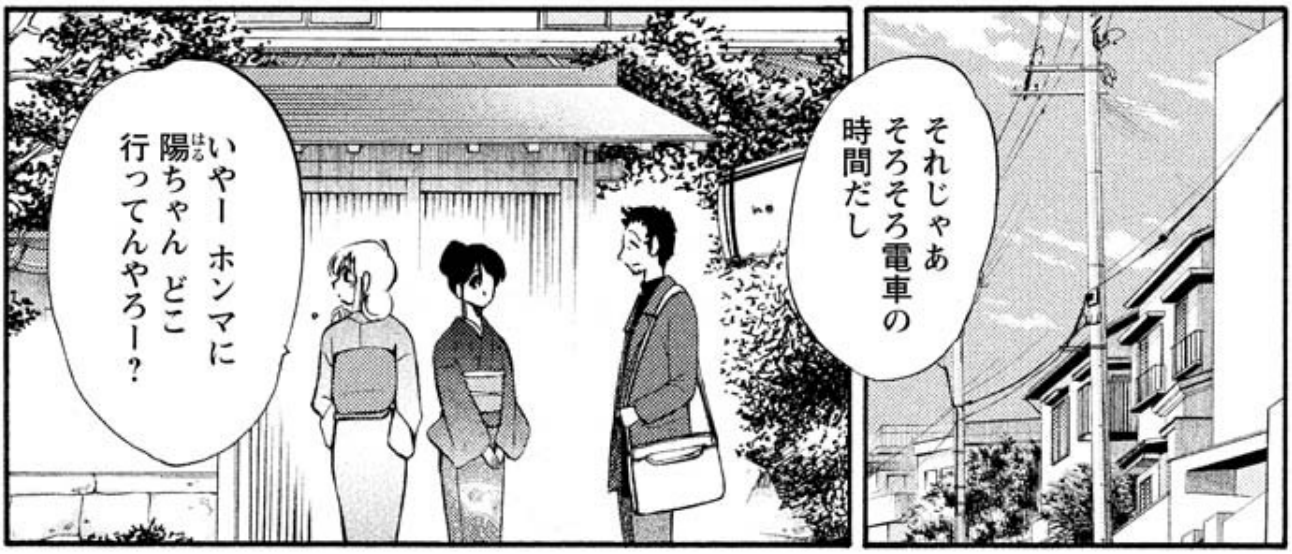
陽(はる)ちゃん…
寂しがる
やろなァ…
……

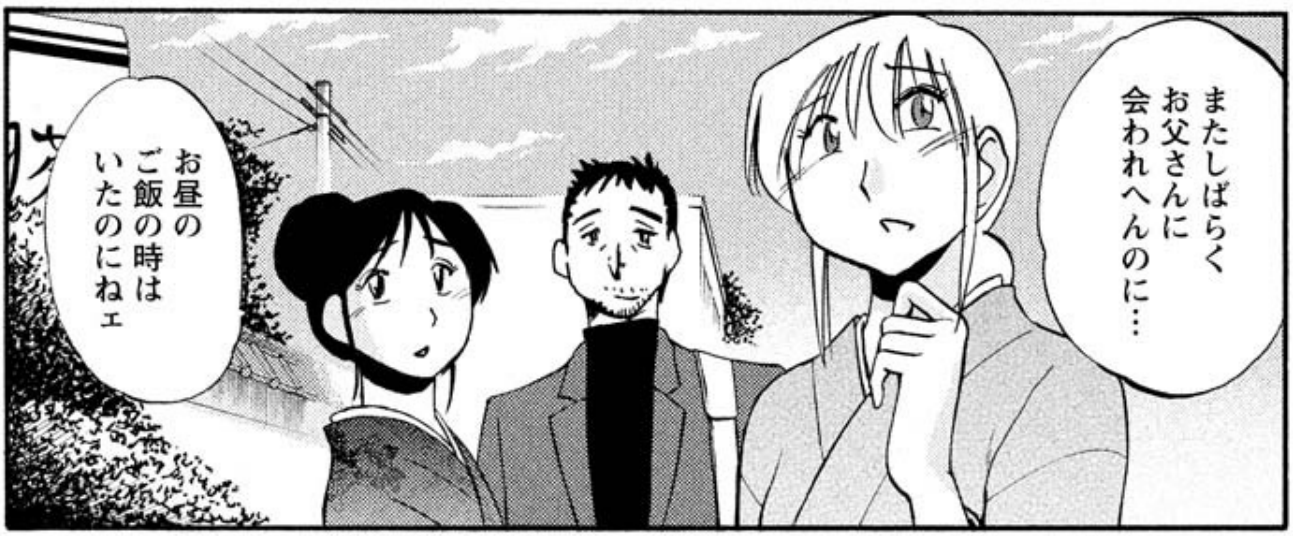
そうかなァ…？
あの子も…
随分 大人に
なったんじゃ
ないかい？


……

そうかも
しれへんねェ…



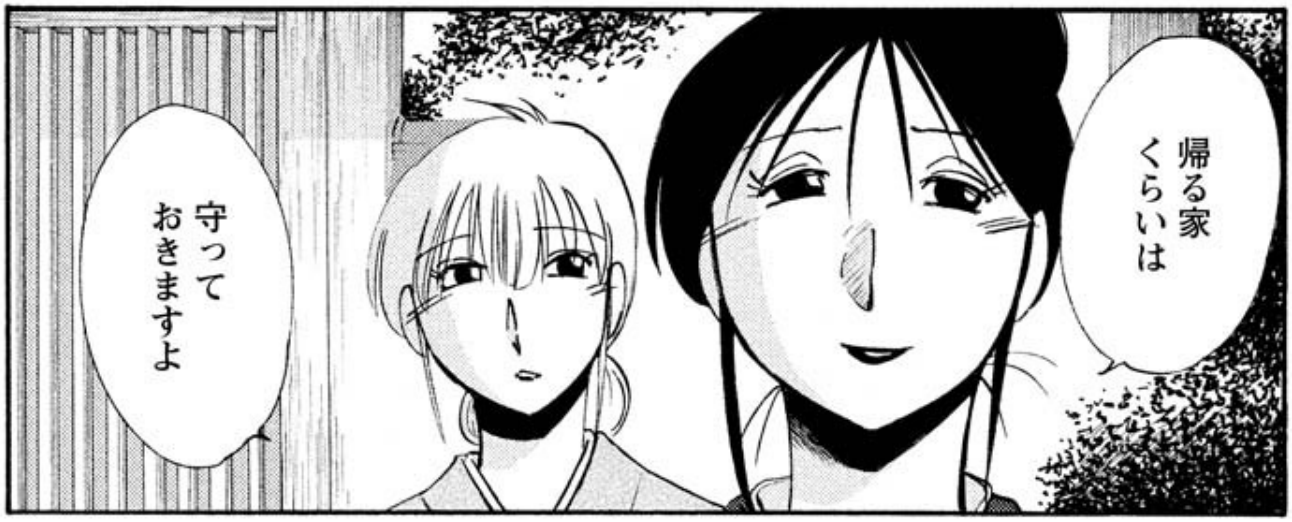

それじゃあ
そろそろ電車の
時間だし
いやー ホンマに
陽ちゃん どこ
行ってんやろー？

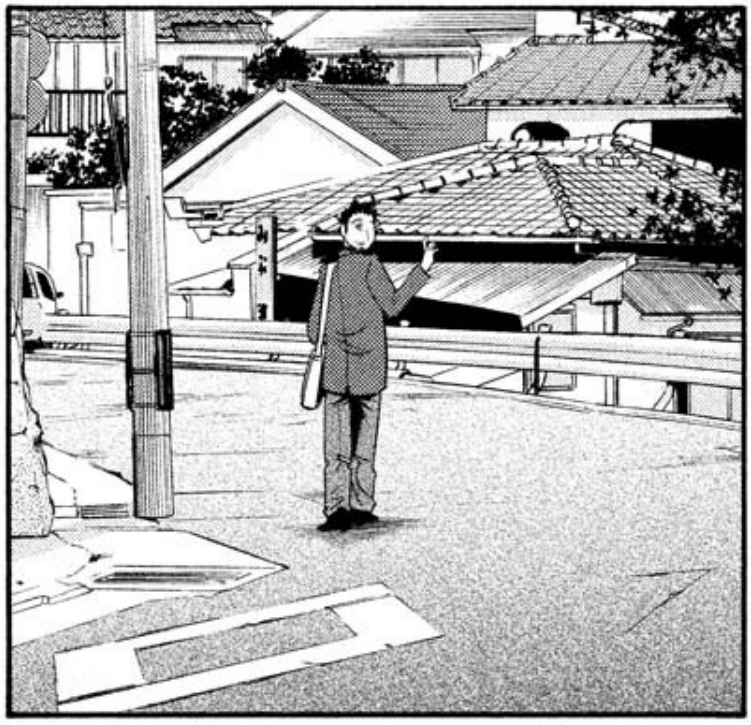

またしばらく
お父さんに
会われへんのに…
お昼の
ご飯の時は
いたのにねェ

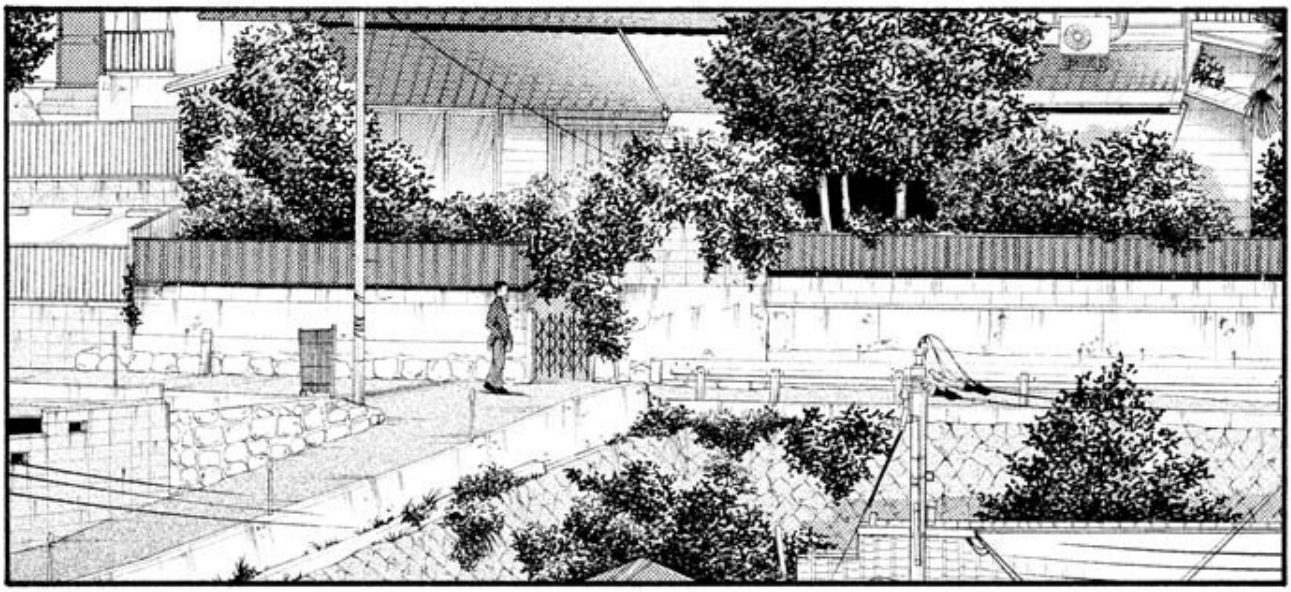
いいよいいよ
今日行く事
陽だって
わかってんだ
それで
来ないって事は
何か考えての
事だろう
大人になって
きたんだよ
…きっと

でも
――ま
2人で陽を
見守って
やってくれ
頼むよ
……
…はい
――ずるい人
そういう
言い方
……
…そうだな

…達者で
いて下さいな
それだけです
――うん


帰る家
くらいは
守って
おきますよ



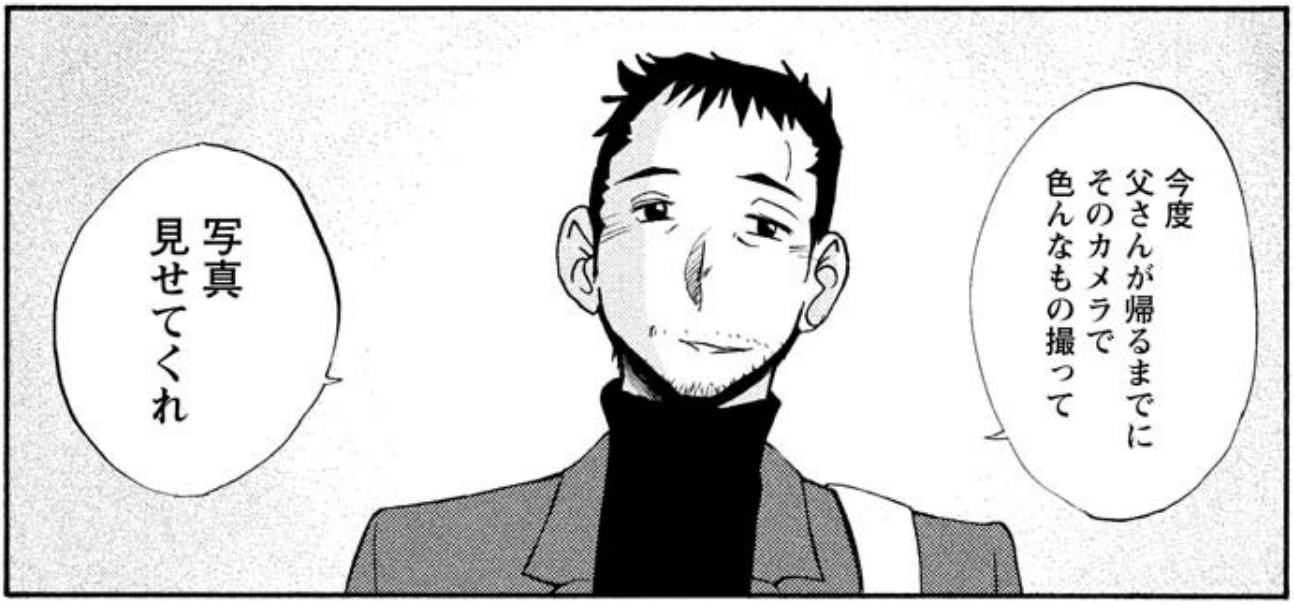


！

何だ陽(はる)
待ち伏せか

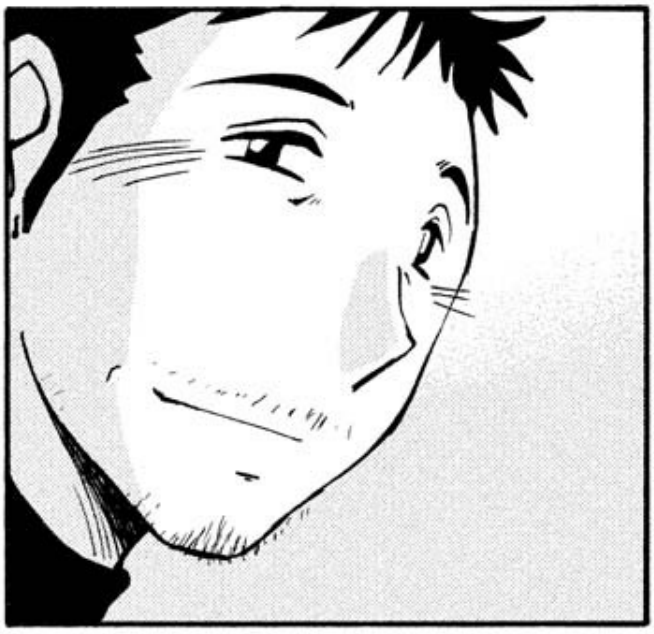
ねぇ
お父さんはさ
お母さんと
…あやめと
どっちが
好きなの…？
……
陽は…
何を…どれだけ
知ってるんだろうなぁ
——？
陽はどっちが
どれだけ
好きだ？
え？

そんなの…
同じくらい…
どっちも…
ハハ！
父さんも
そうだな！
いっしょだな！
ほれ
わ!!
いっ…
いいの!?
うん
父さん
別なのも
持ってるしな
そうだ！
陽(はる)に
これやろうと
思ってたんだ
？
ゴ！
ゴ！

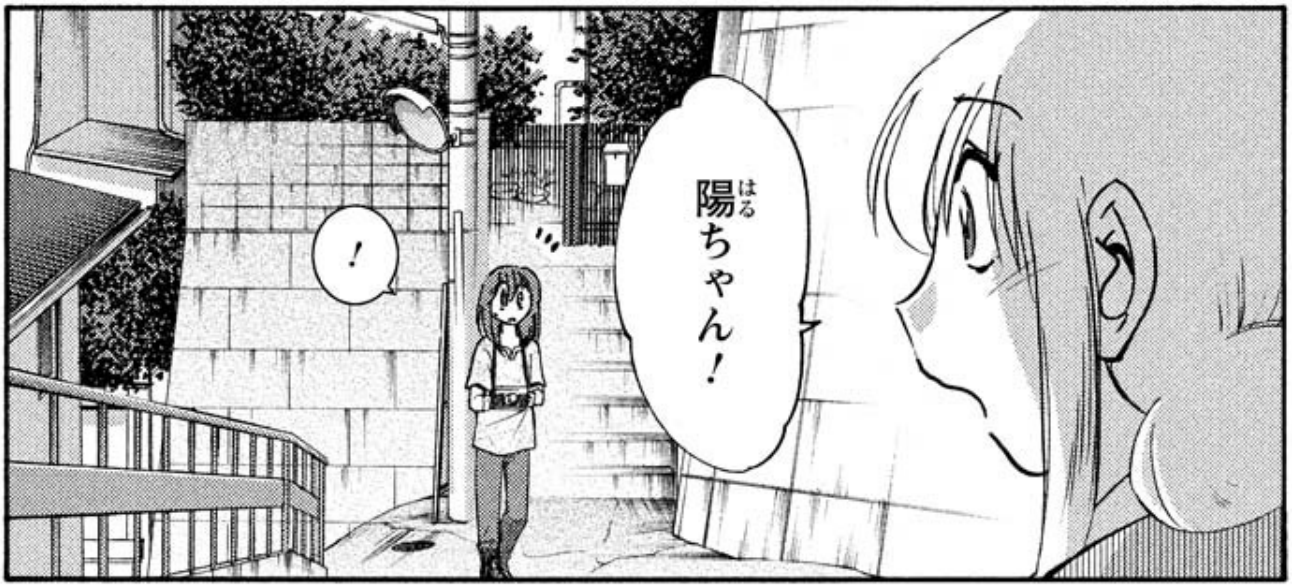

今度
父さんが帰るまでに
そのカメラで
色んなもの撮って
写真
見せてくれ

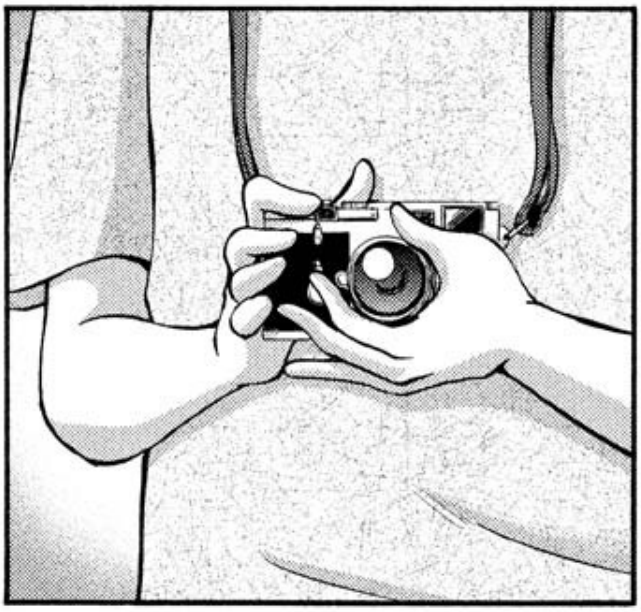
——じゃあな
あの二人を
大事にしろよ！
男の子なんだから！
うんっ…！
うん！

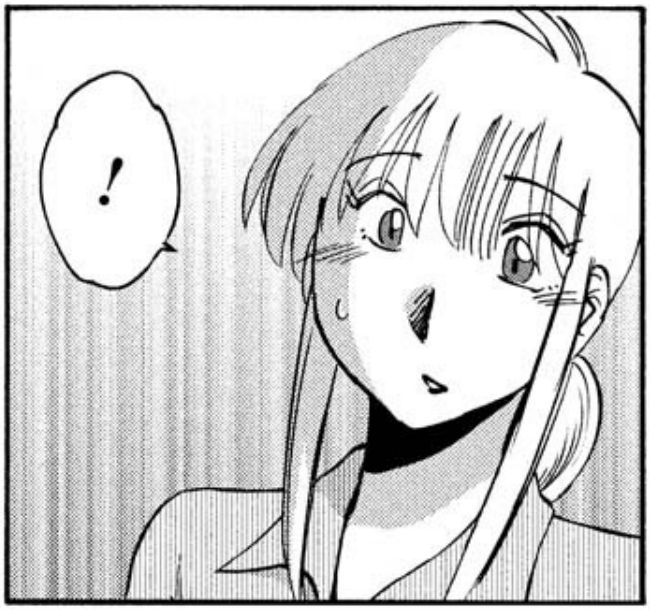
！



サマに
なってるじゃないか
チャッ
カァ
カァ
！


陽ちゃん！
！




！

お父さんに…会ったんやね
……うん

——またしばらくさみしなるけど平気やんな？

…それは
僕が？
あやめが？
…陽ちゃん
見てたもんなぁ……
…あのな
陽ちゃんには
言わなあかんな
やっぱり…

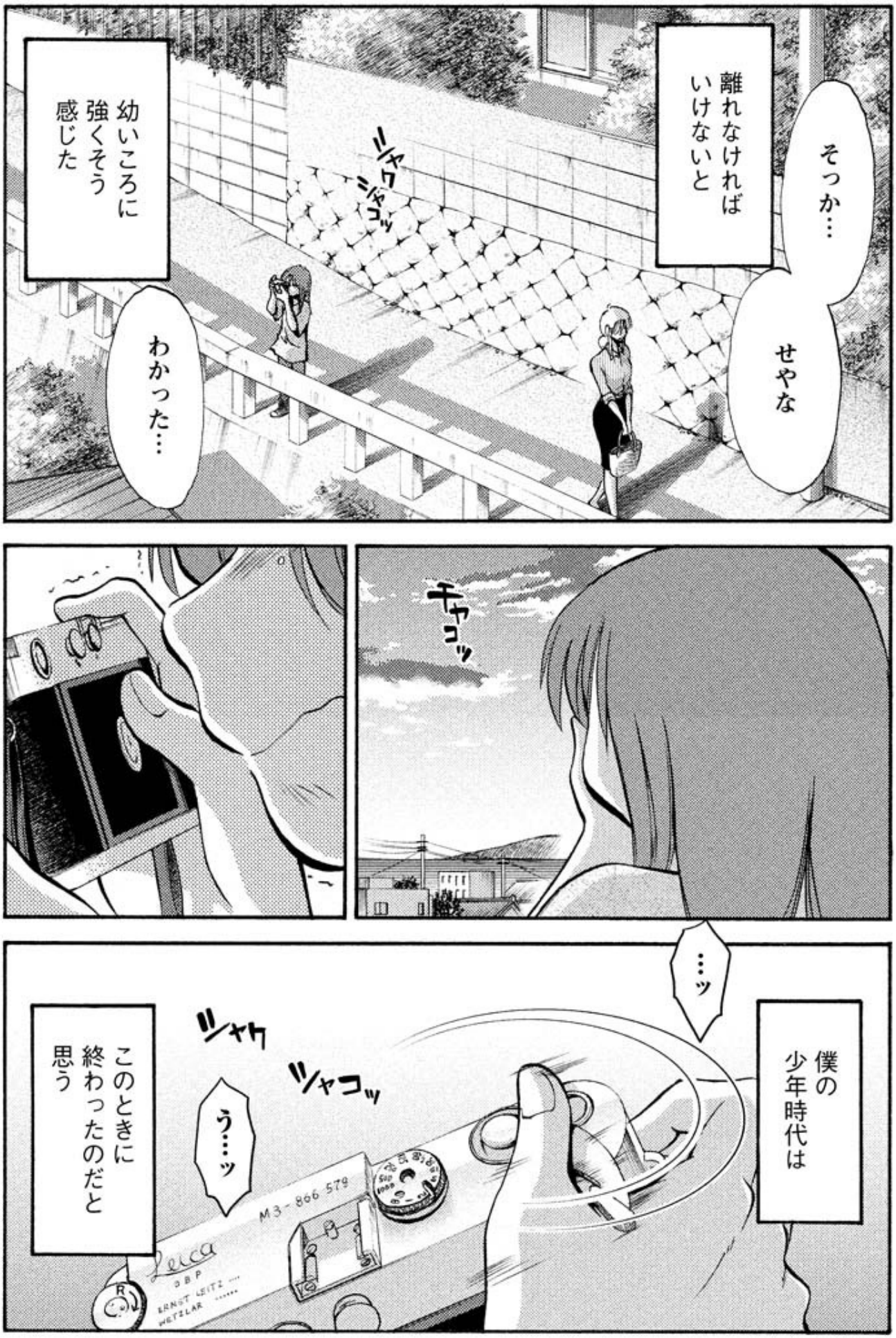
うちは…
僕は――

僕は
お母さんや
あやめも
大事にしたいから
…大事に
するから

だから…
もう
ひとりでも
ちゃんと
するんだ

僕にとってのまるで〝2人の母親〟
ひとりで寝て…
ひとりでお風呂にはいって
これからはひとりでごはんを食べて
それは
僕はきっと平気だから
けれど同時に僕を惑わせる〝女〟でもあったと思う
だから

だから
だから
もう
あやめの世話も
いらないよ


そっか…
せやな
離れなければいけないと
シャクシャコッ
幼いころに強くそう感じた
わかった…
チャコッ
…ッ
僕の少年時代は
シャク
シャコッ
う…ッ
このときに終わったのだと思う
M3-866 579
Leica
DBP
ERNST LEITZ
WETZLAR

う
うっ

僕は
——2年後
全寮制の
中学へ入るため
町を出て
ぐす
シャクシャコッ
くっ
そのまま
高校へと
進学した

あの日撮った
24枚撮りの
フィルムには
チャコッ
1枚目の
お父さん以外
なにも
写っていなかった
第8話◎END

初出
メンズヤング 2010年10月号、12月号、2011年2月号、4月号、6月号、8月号、10月号、12月号

あとがき。

「ひるがお」第一巻
お買いあげありがとうございます。
女性に囲まれて育ってきた主人公がこの先
どんな風に大人になっていくのかその辺を楽しんで頂ければ幸いです。
で、近況ですがこのお話開始頃からほぼ完全にスタッフが入れ替わり、今はとなりのページで後書きを書いてくれた若い二人がメインになりました。陽の住む町は「なんとなく…」な艶々の脳内イメージなんですがあやふやな指定をがんばって絵にしてくれてありがたい限り。
さて二巻では歳を重ねた周りの女性たちがさらに活躍できればな、とか思ってます。
またおつきあい頂ければ幸いです。それではまた！

平成二十四年一月　其の

今回のボツ表紙

こんにちは、
アシスタントのきっしーです。
ひるがおは初めて先生に
『任せる』と言われて、
ハゲそうになるくらい緊張して
作業した思いで深い作品です。
背景等も1から作って描いて
いる部分が多いので、
凄く苦戦しました。
でもそのお陰でいろんな
事を学べて、自分でも
大きく成長できた
作品でもあります！

いやぁ着物と少年の生足は
イイものですね♪

はじめまして。
アシスタントの棚瀬です。
途中からこの作品に参加
させてもらっております！
毎回アワアワしながら
背景を描いて描いて
描いて…。
精進の日々です。

そして陽くんのかわいさ
に耐えながらの作業。
楽しくてしょうがないです！
これからも、陽くん共々
よろしくお願いします!!

ACTION COMICS

ひるがお①

2012年3月2日第1刷発行

著者…… 艶々（つやつや）

発行者…… 赤坂了生

発行所…… 株式会社双葉社
〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3-28
電話03-5261-4818（営業）
電話03-5261-4846（編集）

装幀…… 古谷昌博（神楽坂マガジン社）

印刷所…… 慶昌堂印刷株式会社

製本所…… 株式会社若林製本工場

落丁・乱丁の場合は送料双葉社負担でお取り替えいたします。
「製作部」あてにお送りください。ただし、古書店で購入したものについては
お取り替えできません。［電話］03-5261-4822（製作部）
定価はカバーに表示してあります。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での
例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンや
デジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

©TSUYATSUYA 2010
ISBN978-4-575-84039-1 C9979

双葉社ホームページ
http://www.futabasha.co.jp/
（双葉社の書籍・コミック・ムックが買えます。）

■この作品はフィクションです。登場人物・団体等はすべて実在のものとは関係ありません。